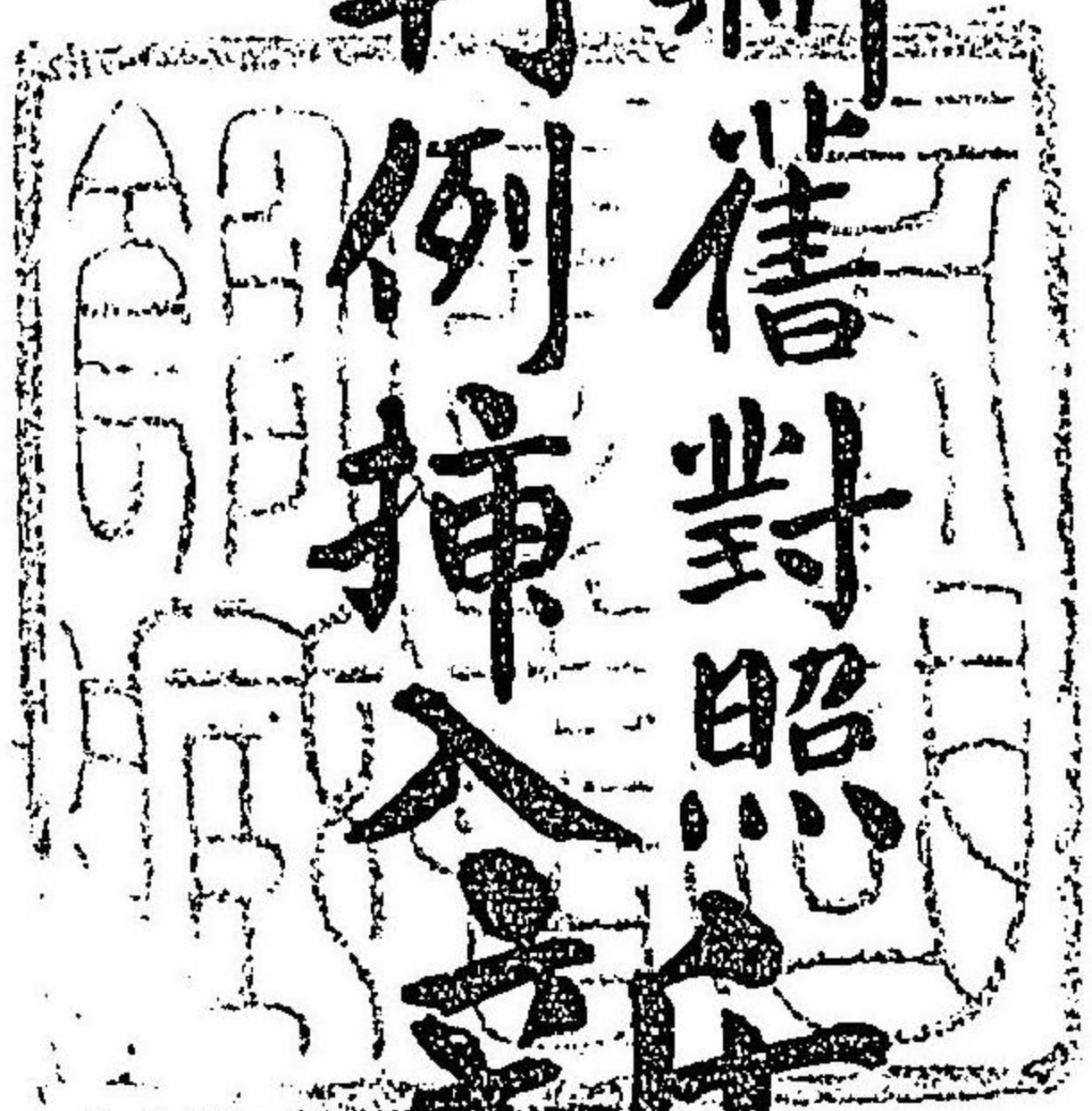


韓國法務通山廣業著
補佐官

新舊對照
判例挿入
新刑法註釋



東京帝國地方行政學會出版部

明治
40 6 21
内交

31
357

凡 例

- 一、本書ハ改正ノ刑法ニ一々詳細ナル註解ヲ加ヘタルモノナリ
- 二、本書ハ現行刑法ト對照シ各本條ノ下ニ之ヲ示シテ差異ヲ明瞭ナラシメ併セテ改正ノ理由ヲ詳悉セシム
- 三、各本條ノ下ニ『判決例』ト題シ該條ニ關係スル大審院ノ判決例ヲ掲ケ之ヲ參考ニ備フ但其判決例ノ下ニ(三九、一、六)トアルハ明治三十九年一月六日ノ大審院判決ナルコトヲ示シタリ
- 四、本書ハ主トスル所平易ニシテ通俗ニ適シ併セテ實際ニ應用スルコトヲ得セシムルニアリ故ニ理論ヲ避ケ疑義ニ涉ル論說ハ省キ專ラ現今行ハレ且定マリタル學說ニ依リテ之ヲ筆セリ又其例示ニ於テモ卑近ニ採ル然レトモ余ノ不學卑才未ダ以テ讀者ヲ満足セシムル程ノ能力ナシ幸ニシテ參者ノ料トナレハ可ナリ
- 五、本書ハ紙數ニ限アルヲ以テ刑法ト關聯スル他ノ法令ニ論及スル餘地ナキヲ憾ミ

トス然レトモ一々之ヲ示シタレハ讀者ハ之ヲ搜索セハ蓋シ難カラサルヘシ
六、然レトモ現行法ト新法ト彼此對照ノ便ヲ計リ卷末ハ現行法正文ヲ載セ其上ニ新
法條目ヲ記載ス

明治四十年四月

著 者 識

新舊對照
判例挿入
新 刑 法 註 釋 目 次

第一編	總則	二二
第一章	法例	二二
第二章	刑	四三
第三章	期間計算	六三
第四章	刑ノ執行猶豫	六七
第五章	假出獄	七二
第六章	時效	七七
第七章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	八三
第八章	未遂罪	一一一

第九章 併合罪……………一二〇

第十章 累犯……………一三四

第十一章 共犯……………一四〇

第十二章 酌量減輕……………一五〇

第十三章 加減例……………一五二

第二編 罪……………一五九

第一章 皇室ニ對スル罪……………一六二

第二章 内亂ニ關スル罪……………一六六

第三章 外患ニ關スル罪……………一七一

第四章 國交ニ關スル罪……………一七八

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪……………一八三

第六章 逃走ノ罪……………一八八

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪……………一九三

第八章 騷擾ノ罪……………一九六

第九章 放火及ヒ失火ノ罪……………一九九

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪……………二二三

第十一章 往來ヲ妨害スル罪……………二二〇

第十二章 住居ヲ侵スル罪……………二二六

第十三章 祕密ヲ侵スル罪……………二二九

第十四章 阿片煙ニ關スル罪……………二三三

第十五章 飲料水ニ關スル罪……………二三七

第十六章 通貨偽造ノ罪……………二四一

四

第十七章	文書偽造ノ罪	二四八
第十八章	有價證券偽造ノ罪	二六六
第十九章	印章偽造ノ罪	二七〇
第二十章	偽證ノ罪	二七九
第二十一章	誣告ノ罪	二八四
第二十二章	猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪	二八六
第二十三章	賭博及ヒ富籤ニ關スル罪	二九六
第二十四章	禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	三〇二
第二十五章	瀆職ノ罪	三〇六
第二十六章	殺人ノ罪	三一四
第二十七章	傷害ノ罪	三三二

第二十八章	過失傷害ノ罪	三三二
第二十九章	墮胎ノ罪	三三五
第三十章	遺棄ノ罪	三四〇
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	三四三
第三十二章	脅迫ノ罪	三四六
第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪	三五〇
第三十四章	名譽ニ關スル罪	三五七
第三十五章	信用及ヒ業務ニ對スル罪	三六一
第三十六章	竊盜及ヒ強盜ノ罪	三六三
第三十七章	詐欺及ヒ恐喝ノ罪	三七九
第三十八章	橫領ノ罪	三九六

第三十九章 贓物ニ關スル罪……………四〇六

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………四一〇

目 次 畢

新舊對照 新刑法註釋

樋 山 廣 業 著

緒 論

凡ソ人ハ獨立獨行シテ生存スヘキモノニアラス必ラス集合シテ一團ヲ爲ササレハ生存スルコト能ハス其人ノ集合體ヲ社會ト云フ

故ニ人ト社會ヲ爲シテ初メテ生存スルコトヲ得社會ヲ離ルルトキハ生存ノ途ヲ失フニ至ルヘシ左レハ其社會ノ安危ハ各人ノ安危ニ係ルヘシ即チ社會安全ナレハ各人モ亦生存安全ナリ又社會危險ナレハ各人モ亦危險ナリト云フヘシ

而シテ世ニハ犯罪ナルモノアリテ社會ヲ危險ナラシム即チ社會ノ安寧ヲ害シ秩序ヲ紊シ社會ヲシテ安全ヲ保ツコト能ハサラシム故ニ社會ノ安全ヲ保チ秩序ヲ正シクセントセハ此犯罪ナルモノヲ消滅セシメサルヘカラス其犯罪ヲ撲滅スルハ他ニアラス即チ刑罰ヲ以テセサルヘカラス左レハ犯罪ノ撲滅方法ハ所謂刑罰ナリトス

緒 論

刑法ハ刑罰法ノ一ニシテ刑事法ニ屬シ犯罪ト刑罰トヲ記載シタル規則ナリ即チ如何ナル所爲カ犯罪ナルヤ又犯罪アリタルトキハ如何ナル刑罰ヲ加フヘキヤノ問題ヲ定メタルモノナリ

左レハ刑法ハ社會ヲ害スル犯罪ヲ撲滅スル方法トシテ規定シタルモノナレハ世ノ風潮ニ從ヒ變遷セサルヘカラス世ノ進歩スルニ從ヒ犯罪ハ智巧トナリ奸惡ヲ増加スルヲ以テ刑法ノ規定モ亦之ニ伴隨シテ時宜ニ適セサルヘカラス

現行刑法ハ明治十五年以來實行シ來リシモノニシテ其模型ハ佛國ニアリ當時倉卒ニ之ヲ發布シ先ツ不完全ナカラモ今日マテ實行シ來リシカ世ノ進歩スルニ從ヒ現行刑法ニテハ到底犯罪ヲ撲滅スルコト能ハスシテ却テ犯罪者ノ増加ヲ見ルニ至レリ

故ニ今之カ改正ヲ爲シ今日ノ社會ニ於テ犯罪ヲ撲滅スルニ時宜ニ適シタル刑法ヲ發布スルヲ見ルハ大ニ歡ハシキコトナリ其改正ノ要旨ヲ約スルトキハ左ノ如クニシテ其改正ノ點ニ於テモ亦然リトス

刑法ハ世安ヲ維持スルノ具ナリ而シテ犯罪ノ智巧ト害世ノ奸惡ハ世運ノ進歩ニ影隨シテ發達スルヲ以テ刑法ノ規定亦其時宜ニ適セサルヘカラス故ニ今日奸惡ヲ杜絶シ犯罪ヲ防禦センニハ一概ニ舊章ニ率由シ舊套ヲ襲用スルノミヲ以テ足レリトスヘキモノニ非ス

犯罪ハ其情狀ニ於テ各々同シカラス犯人ハ其種類ニ於テ亦異ナリトス故ニ之カ處罰ヲ爲スモ亦其情狀ト其種類トニ從ヒ大ニ裁量スル所ナカルヘカラス若シ然ラザレハ刑罰ノ權衡屢々其宜キヲ失シ刑法ノ目的ニ背馳スルコトナシト謂フヘカラス世人或ハ云フ刑罰ハ宜シク之ヲ嚴ニスヘシト又或ハ云フ宜シク之ヲ寬ニスヘシト然レトモ刑罰ハ猶ホ藥石ノ如ク犯罪ハ猶ホ疾病ノ如シ投劑ノ至法ハ疾病ノ輕重患者ノ體力ニ適應スルニ在リ刑罰ノ用法モ亦然リ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ其寬嚴ヲ異ニスルニアリ若シ豫メ其寬嚴ノ度ヲ狹圍シ其運用ノ自由ヲ羈束スルカ如キコトアラハ刑法ノ目的寧ソ能ク之ヲ達セン乎

犯罪ノ種類異ナルニ隨ヒ其情狀ノ異ナルハ言フ俟タズ同一種ノ犯罪ト雖モ其原因苟モ異ナレハ其情狀必ラス同一ナルモノニ非ス均シク殺人罪ナリ其原因或ハ強賊ノ貪慾ニ出テ或ハ孝子復讐ノ怨恨ニ出テ或ハ姦通ノ嫉妬ニ出テ或ハ慈親不忍ノ哀痛ニ出ツルカ如キ其原因ノ異ナルニ從ヒ或ハ惡ムヘキモノアリ或ハ宥ルスヘキモノアリ或ハ恕スヘキアリ或ハ憐ムヘキアリ其情狀既ニ同シカラス故ニ科刑ノ寬嚴柱ニ膠シテ瑟ヲ鼓スルカ如ク然ラサルヲ期セサルヘカラス

犯罪人ハ其類同一ナラス或ハ懲治シ易キ者アリ或ハ懲治シ難キ者アリ犯罪ヲ習慣トスル

者ニ對シテ寛典ヲ以テ懲治ノ目的ヲ達セント欲スルハ企及スヘカラサルノ事業タリ之レニ反シ偶然ノ發意ニ因リ一朝刑辟ニ觸ルルヲ致セシ者ハ其悔悟モ亦必ス速カナルヲ以テ此類ノ犯人ニ對シテ嚴刑ヲ加フルモ亦無益ナルヲ免レス故ニ此類ニ對シテハ改過遷善ノ方法ヲ設ケ懲ヲ得テ病ヲ忘ルルカ如クナラシメサルヘカラス

是ヲ以テ刑罰ヲ定ムルニ亦寬嚴兩様ノ主義ヲ併用スルノ必要アリ此兩主義ノ活動ヲシテ充分ナラシメント欲セハ裁判官ヲシテ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ其刑ヲ上下スルノ自由ヲ得セシメサルヘカラス是レ本案ニ於テ刑ノ範圍ヲ開擴セシ所以ナリ識者或ハ云フ刑ノ範圍ヲ開擴セシハ其趣旨不可ナル無シト雖モ其實行ニ於テ大ニ憂フヘキモノアリ現行刑法ノ下ニ於テ以テ猶ホ且ツ上級審ニ於テ下級審ノ判決ヲ打破スル場合少カラス是レ畢竟下級審ノ判決其宜シキヲ得サルニ座スルノミ然ルニ現行刑法ニ比シ更ニ廣濶ナル刑ノ範圍ヲ設クルニ至テハ裁判官ハ刑罰ヲ濫用スルコト尙ホ多キヲ加ヘ而シテ刑ノ權衡ヲ失スルニ至ランコト將サニ今日ヨリモ甚シカラントスト此論一理ナシトセス然レトモ上訴ノ結果ヲ以テ下級裁判ノ當否ヲ論スルハ未タ至論ト謂フヲ得ス苟モ上訴ヲ許ス以上ハ何ノ世何ノ時ト雖モ下級審ノ裁判ヲ取消スノ結果ヲ見ルコトハ數ノ免カレサル所ナリ此ノ如キ事實ヲ憂慮シ狹隘ナル刑ノ範圍ヲ墨守セント欲スルハ世運ニ伴ヒ刑罰ノ適用ヲ

シテ其度ニ中ラシムル所以ノ道ニ非ラサルナリ今日ノ急務ハ裁判官ヲシテ範圍廣濶ナル刑罰ヲ適用シ其權衡機宜ニ適中スルノ習慣ヲ了得セシムルニ在リ

現行刑法ノ實施以來僅カニ二十五年ニシテ年月ヲ閱スル未タ多カラスト雖モ此二十五年間ニ於テ我國ノ文物ハ長足ノ進歩ヲ爲シ以テ今日ノ隆盛ヲ致セシハ我國民ノ齊シク是認スル所ナリ然ルニ現行刑法ハ殆ト百年前ノ制定ニ係ル佛國刑法ヲ模倣シテ編制セシ所ナルヲ以テ其我國情ニ諧合セサル所鮮少アラサルハ固ヨリ怪ムニ足ラス殊ニ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ刑罰ノ寬嚴ヲ自由ナラシムルコトヲ得サルハ其欠點ノ最ナルモノナリ故ニ其明文規定ノ結果或ハ懲治シ難キ犯罪ニ對シテ寛刑ヲ用ヒ或ハ懲治シ難キ犯人ニ對シテ嚴刑ヲ科スルコトアリ刑罰ノ權衡其中庸ヲ失スルニ至ル會テ二三府縣ノ監獄署ニ就キ之ヲ檢セシニ在監人ノ十中八九ハ概ネ再犯人ナリト云フ初犯ハ姑ク之ヲ舍キ既刑ノ奸惡國典ヲ侮蔑シテ犯罪ヲ數ハスルニ至リテハ刑罰ノ目的ヲ達スルモノト謂フハケン乎世人又云フ現行刑法中規定ノ不備不完ナル條項ヲ指摘シ之ニ改正ヲ加フレハ則チ足ルト然レトモ現行刑法ハ其大體ニ於テ既ニ不可ナル所アリ一部ノ改正ヲ企ツルモ寧ソ改正ノ目的ヲ達スルニ足ランヤ故ニ刑法ノ全部ニ亘リ改正ヲ加ヘ殆ト其舊條項ヲ存セサルニ至ルモ亦之カ爲メナリ今刑法ノ根本ニ係ル改正ノ重要ナル部分ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 重罪輕罪ノ區別ヲ廢シタルコト

重罪輕罪ノ區別ヲ爲スハ學理上其根據アルニテラス又實際上其必要アルニ非サルナリ只刑ノ重キモノヲ科スル罪ヲ名ツケテ重罪ト云ヒ刑ノ輕キモノヲ科スル罪ヲ名ツケテ輕罪ト稱シタルニ過キス然レトモ當時重キ刑ヲ科スヘキ所爲ナリト思惟セシ所ニシテ却テ重ク罰スルノ必要ナク又輕キ刑ヲ科スヘキ所爲ナリト思惟セシ所ニシテ却テ重キ刑ヲ科セサルヘカラサルモノアリ然ルニ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シテ其範圍内ニ於ケルニアラサレハ刑ノ上下ヲ爲スヘカラストセハ犯罪ニ相當スル刑罰ヲ適用スルコトハ到底望ムヘカラサルナリ若シ各犯罪ノ情狀ハ千變萬化ニシテ屢々人ノ豫想外ニ出ツルモノタルコトヲ知ラハ豫メ刑ノ範圍ヲ制限シテ裁判官ノ自由ヲ羈束スルハ未タ以テ善良ナル法律ナリト謂フコトヲ得ス今殺人罪ヲ以テ之ヲ言ハンニ殺人ノ事實ハ同ナリト雖モ其情狀ニ至リテハ千差萬別ニシテ其輕重ノ最ナルモノヲ舉ケテ之ヲ比較スレハ鴻毛泰山モ當ナラサルナリ然ルニ現行刑法ノ如ク殺人罪ハ常ニ重罪トシテ之ヲ論セサルヘカラストスレハ固ヨリ加重減輕ノ方法アリト雖モ未タ此等ノ情狀ニ適中スル所ノ刑ヲ科スルコトヲ得サルヘシ文書偽造罪モ亦然リ現行刑法ニ於テハ官文書ノ偽造罪ハ重罪ニシテ私文書ノ偽造ハ輕罪ナリ然レトモ官文書ノ偽造ニシテ未タ必スシモ社會ノ大害ヲ爲スニ至ラサルモノアリ而シテ

私文書ノ偽造タルモ却テ國家ノ公益ニ大害ヲ及ホスヘキモノアリ然ルニ官文書ノ偽造罪ハ其輕重大小ニ拘ラス必ラス重罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシト爲シ私文書ノ偽造罪ハ必ス輕罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシトセハ犯罪ノ情狀重キモノニ對シテ輕キ刑ヲ科シ其情狀ノ輕キモノニ對シテ重キ刑ヲ科スルノ弊害アルヲ免カレス殊ニ財產ニ對スル罪ニ付テハ情狀ノ差異最モ甚シク而シテ刑ノ範圍甚々狹隘ナルヲ覺ユ巨萬ノ財寶ヲ奪フモ四五年ノ自由刑ヲ科スルニ過キス一錢ノ銅貨ヲ取ルモ二月以上ノ自由刑ヲ受ケサルヘカラスト是ニ於テカ財產ニ對スル犯罪類リニ増加シテ而シテ殆ト犯罪ノ大半ヲ占ムルニ至ル是レ皆現行刑法ニ於テ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シテ刑ノ範圍ヲ狹隘ニシタル弊害ニ因由セスンハアラス今重罪輕罪ノ區別ヲ廢シ大ニ刑ノ範圍ヲ開擴シ各犯罪ヲ共通シテ其適用ヲ爲スコトヲ得セシメハ則チ刑ノ權衡其宜シキヲ得而シテ其目的ヲ達スルニ於テ奏效アルニ庶幾カラシ乎

第二 刑名ヲ減シタルコト

現行刑法ニ於テハ重罪輕罪違警罪ニ付キ各別ノ刑名ヲ設ク重罪ノ刑ハ死刑、無期有期ノ徒刑流刑、重輕ノ懲役禁獄ノ九種ト爲シ輕罪ノ刑ハ重輕ノ禁錮、罰金ノ三種ト爲シ違警罪ノ刑ハ拘留、科料ノ二種ト爲セリ本案ニ於テ刑ノ範圍ヲ開擴シテ重罪輕罪ノ區別ヲ廢

シタルヲ以テ刑名ノ數モ亦隨テ減少セシハ固ヨリ當然ノ結果ナリ

第三 數罪俱發ノ規定ニ變更ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ一ノ重キニ從ヒ處斷スルノ規定ヲ設ケタリ是故ニ一罪ヲ犯シタル者モ數罪ヲ犯シタル者モ其受クヘキ刑罰ハ常ニ同一ナルヲ以テ犯人ハ寧ロ一罪ヲ犯シテ罰セラレシムルハ數罪ヲ犯シテ罰セラレルノ利益ナルニ若カストシテ進ミテ數罪ヲ犯サントスルノ嫌ナキ能ハス刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防禦スルニ在リ然ルニ却テ犯罪ヲ獎勵スル傾向アル規則ヲ設クルハ刑法ノ本旨ニ適合スルモノト謂フヘケンヤ故ニ本案ニ於テハ原則トシテ併科主義ヲ採リ唯例外トシテ多少ノ制限ヲ設ケタリ

第四 再犯加重ノ規定ヲ變更シタルコト

再犯人ハ元來刑罰ノ制裁ヲ受クルモ悔改セサル者ナルヲ以テ之ニ科スル所ノ刑罰ハ特別ナルモノニ非ラサレハ其目的ヲ達スヘカラス然ルニ現行刑法ノ規定ニ據レハ再犯加重ハ僅カニ本刑ニ一等ヲ加フルニ過キサカ故ニ縱令ヒ再犯加重ノ刑ヲ科スルモ其刑罰ハ殆ト通常ノ刑罰ト異ナラス近年再犯者著シク増加セシハ再犯ノ規定其宜シキヲ得サルニ因由セシムルハアラズ凡ソ何人タリト雖モ其習慣ヲ改ムルハ常ニ困難トスル所ナリ犯人ノ犯罪ニ於ケル亦然リ再三罪ヲ犯シテ刑辟ニ觸レタル者ハ慣習其性ヲ成シテ遂ニ自ラ改ムル

コトヲ知ラサルヲ以テ之ニ對シテ特別ノ處分ヲ行フニ非スハ再犯ノ續發ヲ防禦スルノ效ヲ生スルコトヲ得サルヘシ是故ニ本案ニ於テハ再犯者ニ對シテ特別ノ刑罰ヲ科スヘシト爲シ懲役ノ刑ニ處スヘキ罪ヲ再犯シタル者ハ本刑ヲ二倍シタル刑ヲ以テ之ヲ罰スルコトト爲シタリ

第五 監視及ヒ剝奪公權停止公權及ヒ大赦特赦減刑復權等ノ規定ヲ廢シタルコト

監視ノ目的ハ再犯ヲ豫防スルニ在リ然レトモ現行刑法ニ規定スル監視規則ハ甚シク被監視者ノ自由ヲ羈束スルヲ以テ被監視者ハ屢々生活ヲ得ルノ道ニ窮シ却テ再々ヒ罪惡ヲ犯スノ已ムヲ得サルニ出ツル場合アリ殊ニ又監視執行ノ規則ニ違背シタル者ハ犯罪者トシテ之ヲ罰スルヲ以テ一方ニ於テ犯罪ヲ防禦セントシテ一方ニハ犯罪ヲ製造スルノ奇觀ヲ呈シ遂ニ監視ノ刑ハ犯罪發生ノ原因ト爲リテ監視違犯者ノ數ハ漸ク増加シ今日ニ至リテハ竊盜罪ノ數ニ亞クニ至レリ是レ法律ノ目的ニ背戾スルモノト謂フヘキナリ故ニ本案ニ於テハ之ヲ廢シタリ

現行刑法ニ於テハ其罪質如何ヲ問ハス禁錮ノ刑期中ハ總テ公權ヲ停止シ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ公權ヲ剝奪スルコト、爲シタルカ故ニ公權ヲ停止シ又ハ之ヲ剝奪スルノ必要ナキ場合ニ於テモ猶ホ其刑ヲ科スルコト、爲レリ殊ニ公權ノ停止又ハ剝奪ニ付テ

ハ他ノ法律規則ニ於テ必要ナル場合ニ明文ヲ載セタルトキハ已ニ其目的ヲ達スヘシ故ニ之ヲ一ノ刑ト爲サスシテ一ノ行政處分トセハ可ナリ之レ本案ニ於テ廢シタル所以ナリ大赦特赦減刑及ヒ復權ハ大日本帝國憲法ニ於テ明記セルカ如ク 天皇ノ大權ナリ故ニ之ヲ刑法ニ載セルハ體ノ宜シキヲ得タルモノニアラス是亦本案ニ於テ廢シタルモノトス

第六 刑ノ執行猶豫ニ關スル規定ヲ加ヘタルコト

刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防禦スルニ在リ然レトモ犯罪必罰ハ未タ必ラスシモ其目的ヲ達スヘキモノニ非ラス懲治シ易キ犯人ニ在リテハ一旦刑辟ニ觸ルルコトアルモ再ヒ善良ノ民タル能ハサル者ニ非ラサルナリ然ルニ刑法ハ必ラス之ヲ罰シテ假借スル所ナク懲治シ難キ犯人ト共ニ牢獄ニ投シテ顧ミル所ナキトキハ則チ良民亦惡漢ノ爲メニ誘惑セラレテ而シテ忽チ不良ノ性ヲ養成スルニ至ル特ニ短期ノ自由刑ニ至リテハ懲治ノ目的ヲ達スルコト甚タ困難ニシテ却テ獄中ノ惡風ニ感染スルコト至テ容易ナリ牢獄ニ出入シタルカ爲メニ懲治シ難キ犯人ト爲リタル者世間其例ニ乏シカラス刑ノ執行猶豫ハ此弊害ヲ拯フノ目的ニ出テタル新制度ニシテ白耳義佛蘭西ニ於テ已ニ之ヲ實行シ經驗上既ニ其實益アルヲ認ムルニ足レリ

已ニ刑ノ執行猶豫ニ付テハ右ノ理由ヨリシテ單行法律トシテ先年之ヲ實施シタリシカ其

效能ノ著シキヲ認メタリ故ニ本案ニ之ヲ加ヘテ以テ完全ヲ期シタリ

第七 國外ニ於ケル犯罪處分ニ關スル規定ヲ設ケタルコト

帝國外ニ於ケル犯罪處分ニ關シテハ現行刑法一言ノ規定ナシ然レトモ齊シク國家ノ危害タル犯罪ハ之ヲ處罰スルノ必要アリテ獨リ國外ニ於ケル犯罪ハ之ヲ默過スヘシト謂フノ理由ナシ故ニ本案ニ於テハ國外ニ於ケル内外國人ノ犯罪ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタリ

第八 國交ニ關スル犯罪ヲ規定シタルコト

現行刑法ニ於テハ外國及ヒ外國ノ君主又ハ使節ニ對シテ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ヲ罰スルノ規定ナシ此等ノ所爲ハ國際上ノ妨害トナルコト固ヨリ鮮少ナラサルヲ以テ本案ニ於テハ國交ニ關スル犯罪ノ規定ヲ設ケタリ

第九 違警罪ニ關スル規定ヲ削除シタルコト

現行刑法ハ其第四編ニ於テ違警罪トシテ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ一切ノ罪ヲ列記シタリ然レトモ違警罪ハ現行刑法ニ列記シタルモノノミニ止マラス尙ホ地方ノ狀況ニ因リ特別ノ規定ヲ設クルノ必要アリ故ニ本案ニ於テハ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ犯罪ト雖モ輕罪トシテ之ヲ第二編ノ各本條中ニ編入シ其編入スヘカラサルモノハ特別ノ規定ニ委スヘキモノトセリ

以上刑法ヲ改正シタル主旨及ヒ改正セシ要點ヲ述ヘタリ以下此犯罪ノ原因、刑罰權及ヒ犯罪ノ定義ニ付キ一言セン

第壹 犯罪ノ原因

元來刑法ノ目的ハ卷首ニモ一言シタルカ如ク社會ノ安寧ヲ害スル犯罪ヲ撲滅シテ良民ヲシテ安眠セシメントスルニアリ故ニ刑法ハ豫メ社會ノ妨害トナルヘキ事實ヲ規定シ之ニ犯罪ト云フ名ヲ附シ其犯罪ヲ撲滅スル一定ノ手段ヲ設ケ之ヲ刑罰ト稱シタリ

然レトモ其社會ノ妨害ト爲ルヘキ所爲ハ何ナルヤ又其所爲ヲ撲滅スルニ付テハ如何ナル方法ニ依ルヘキヤヲ研究セサレハ完全ニ目的ヲ達スルコト能ハス即チ換言スレバ犯罪ノ原因ハ如何其發生ニ付テ研究ヲ爲サ、ルヘカラス

犯罪即チ社會ノ安寧ヲ妨害スル事實ハ種々アリト雖モ今其主要ナルモノハ左ノ三點ナリトス

一、氣候 氣候ハ犯罪發生ニ付キ關係ヲ有スルコト多シ統計表ニ依レハ人命犯ハ冬氣ヨリ夏季ニ多ク窃盜罪ハ夏季ヨリ冬季ニ於テ最モ多ク行ハルルモノナリ余モ永ク裁判事務ニ從事シ殊ニ豫審事務ヲ最モ永ク掌リアリシカ事實全ク此統計ニ符合ス

此犯罪ヲ撲滅スル方法ハ人爲ノ得テ如何トモ爲スヘカラサル天候ニ基クモノナレハ如何

トモ爲ス能ハサルカ如シ併シ冬季ニ窃盜罪ノ多キ如キハ寒中生活ニ窮スル結果ナリトスレハ貧民ヲシテ特ニ事業ニ從事セシメナハ或ハ撲滅ノ效ヲ奏スルヤモ知ルヘカラス

二、社會ノ情態 社會ノ情態ハ千態萬狀ニシテ犯罪ヲ發生セシムルコト實ニ多シ彼ノ人口ノ繁殖、教育ノ良否、政治思想ノ冷熱、農業ノ豊凶、商工ノ盛衰、食物ノ性質等種々アリトス例ヘハアルコール質ノ飲料ヲ多ク爲ス地方ニ在テハ過激ノ犯罪多ク、開港場ノ如キハ詐欺取財多ク、新聞紙ノ發行ノ如キ紙上殺人罪ノ詳報アルトキハ續テ殺人罪アルカ如シ蓋シ偶マ殺人ノ意アルモ其方法等ニ付テ良心ニ制セラレ決行スル能ハサルニ際シ一旦其犯罪ノ詳報アルヤ其方法手段等ヲ知り之カ導火線トナリ刺激ヲ加ヘラレ終ニ犯罪ヲ決行スルニ至ルヘシ

此種ノ犯罪ヲ撲滅スルニハ一ニ行政上ノ監督ヲ爲シ以テ發生ヲ豫防セサレハ能ハサルヘシ

三、犯人ノ身上 犯罪人ノ身上ヨリ發生スル犯罪原因ハ

- イ、遺傳性ニ因ル犯罪 先天的犯罪ノ血統ヲ受ケタル犯人ナリ
- ロ、慣行性ニ因ル犯罪 犯罪ノ習慣遂ニ性トナリシ犯人ナリ
- ハ、偶發性ニ因ル犯罪 全ク一時偶發ノ不良心所謂出來心カラ生シタル犯人ナリ

斯ノ如キ性ニ因ル犯罪ニシテ「イ」「ロ」ノ如キハ實ニ救フニ由シナク如何トモ爲ス能ハサルモノナレトモ「ハ」ノ如キハ全ク一時的ノモノナレハ其道ヲ以テ救治セハ改過遷善ノ效アルモノトス

「イ」及ヒ「ロ」ノ犯罪ニ付テノ撲滅方法ハ刑法上其犯人ニ對スル相當ノ法則ヲ設ケサレハ決シテ撲滅スルコト能ハス現行刑法カ之ニ對シテ奏效ノ著シカラサルハ未タ以テ彼等ニ適中シタル法則ニアラサルコトヲ示シタリ彼ノ再犯者又ハ數罪連犯者ノ多キハ實ニ適例ナリ故ニ今之ヲ改正シテ以テ彼等ノ如キ犯人ニ對シテ之ヲ適用シ以テ撲滅セシメサルカラス又之ト同時ニ「ハ」ノ犯人ニ對シテモ他ノ二犯人等ニ應用スル現行刑法ハ甚タ宜シカラス故ニ之ニ對シテ處スル適法ノ方法ヲ設ケサルヘカラス是レ亦改正ヲ要スヘキ必要ナリトス

第貳 刑罰權

刑罰權カ社會ノ生存維持上ニ付キ必要ナルコトハ何人ト雖モ異論ナシ然レトモ其因テ來ル所ノ原因ニ付テハ議論百出甲論乙駁未タ確タル定説ナシ今一々之ヲ列記シテ批評ヲ試シカ紙數ノ限リアル決シテ満足ヲ與フコト能ハサルノミナラス又之ヲ研究スルモ實益ナ

シ依テ之ヲ省キ只刑罰權ノ基本ニ付キ多數ノ學者カ唱導スル所ヲ紹介セン

凡ソ世ニ生ヲ得タルモノハ其生存ノ爲メニ競争ス即チ苟モ生存ヲ侵害スルモノアレハ之ニ對シテ直接ニ又ハ間接ニ防禦ヲ爲スハ之レ天然ノ大則ナリ此點ニ於テハ禽獸虫魚モ決シテ區別スルコトナシ彼ノ角牙毒刺鱗鱗アルハ之レ防禦ノ用具ナリ

人モ亦生存上其競争ヲ爲スコトハ同一ニシテ大ハ小ヲ凌キ強ハ弱ヲ制ス而カモ人ハ角牙等ナキヲ以テ之ヲ防禦スルノ道ハ彼等ニ一着ヲ輸セラルルヲ以テ社會ヲ組織シテ共同戮力ニ依テ以テ生存ノ侵害ヲ防禦セサルヘカラス故ニ社會カ生存ノ侵害ヲ受ケタルトキハ社會ハ之ニ對シテ防禦ノ道ヲ講セサルヲ得ス

社會ノ侵害ハ犯罪ニシテ之ヲ防禦スルハ刑罰ナリ強大ニシテ弱小ヲ凌駕スルトキハ其強大者ニ刑罰ヲ加ヘ以テ社會ノ共同利益ヲ保護セサルヘカラス彼等ハ已ニ社會ノ安寧ヲ妨害スル輩ナレハナリ左ニハ社會ハ生存上維持ノ爲メニ此侵害ヲ防禦セサルヲ得ス刑罰權ハ即チ社會カ犯罪ト云フ侵害ヲ防禦スルカ爲メニ有スル所ノ權利ト云フヘシ

已ニ刑罰權ハ社會カ犯罪ノ侵害ヲ防禦スルカ爲メニ有スル所ノ權利ナル以上ハ其必要ナル程度ニ於テ之ヲ事實ニ形ハサルヘカラス即チ今日刑法ノ改正ノ如キ實ニ今日我邦ノ民情ニ適合シテ出來タルモノニシテ之ニ依リテ犯罪ノ侵害ヲ防禦スルニ充分ナリトス

斯ノ如キ性ニ因ル犯罪ニシテ「イ」「ロ」ノ如キハ實ニ救フニ由シナク如何トモ爲ス能ハサルモノナレトモ「ハ」ノ如キハ全ク一時的ノモノナレハ其道ヲ以テ救治セハ改過遷善ノ效アルモノトス

「イ」及「ロ」ノ犯罪ニ付テノ撲滅方法ハ刑法上其犯人ニ對スル相當ノ法則ヲ設ケサレハ決シテ撲滅スルコト能ハス現行刑法力之ニ對シテ奏效ノ著シカラサルハ未タ以テ彼等ニ適中シタル法則ニアラサルコトヲ示シタリ彼ノ再犯者又ハ數罪連犯者ノ多キハ實ニ適例ナリ故ニ今之ヲ改正シテ以テ彼等ノ如キ犯人ニ對シテ之ヲ適用シ以テ撲滅セシメサルカラス又之ト同時ニ「ハ」ノ犯人ニ對シテモ他ノ二犯人等ニ應用スル現行刑法ハ甚タ宜シカラス故ニ之ニ對シテ處スル適法ノ方法ヲ設ケサルヘカラス是レ亦改正ヲ要スヘキ必要ナリトス

第貳 刑罰權

刑罰權カ社會ノ生存維持上ニ付キ必要ナルコトハ何人ト雖モ異論ナシ然レトモ其因テ來ル所ノ原因ニ付テハ議論百出甲論乙駁未タ確タル定説ナシ今一々之ヲ列記シテ批評ヲ試シカ紙數ノ限リアル決シテ満足ヲ與フコト能ハサルノミナラス又之ヲ研究スルモ實益ナ

シ依テ之ヲ省キ只刑罰權ノ基本ニ付キ多數ノ學者カ唱導スル所ヲ紹介セン凡ソ世ニ生ヲ得タルモノハ其生存ノ爲メニ競争ス即チ苟モ生存ヲ侵害スルモノアレハ之ニ對シテ直接ニ又ハ間接ニ防禦ヲ爲スハ之レ天然ノ大則ナリ此點ニ於テハ禽獸虫魚モ決シテ區別スルコトナシ彼ノ角牙毒刺鱗鱗アルハ之レ防禦ノ用具ナリ

人モ亦生存上其競争ヲ爲スコトハ同一ニシテ大ハ小ヲ凌キ強ハ弱ヲ制ス而カモ人ハ角牙等ナキヲ以テ之ヲ防衛スルノ道ハ彼等ニ一着ヲ輸セラルルヲ以テ社會ヲ組織シテ共同戮力ニ依テ以テ生存ノ侵害ヲ防衛セサルヘカラス故ニ社會カ生存ノ侵害ヲ受ケタルトキハ社會ハ之ニ對シテ防衛ノ道ヲ講セサルヲ得ス

社會ノ侵害ハ犯罪ニシテ之ヲ防衛スルハ刑罰ナリ強大ニシテ弱小ヲ凌駕スルトキハ其強大者ニ刑罰ヲ加ヘ以テ社會ノ共同利益ヲ保護セサルヘカラス彼等ハ已ニ社會ノ安寧ヲ妨害スル輩ナレハナリ左シハ社會ハ生存上維持ノ爲メニ此侵害ヲ防衛セサルヲ得ス刑罰權ハ即チ社會カ犯罪ト云フ侵害ヲ防衛スルカ爲メニ有スル所ノ權利ト云フヘシ

已ニ刑罰權ハ社會カ犯罪ノ侵害ヲ防衛スルカ爲メニ有スル所ノ權利ナル以上ハ其必要ナル程度ニ於テ之ヲ事實ニ形ハサ、ルヘカラス即チ今日刑法ノ改正ノ如キ實ニ今日我邦ノ民情ニ適合シテ出來タルモノニシテ之ニ依リテ犯罪ノ侵害ヲ防衛スルニ充分ナリトス

第參 犯罪ノ定義

犯罪ノ定義ニ付テハ學者其說ヲ一ニセス其採ル所ノ主義ニ依リテ各定義ヲ付ス故ニ完全ナル定義ヲ求メントスルモ得ルコト能ハス今改正刑法ノ採ル所ノ主義ニ依リ定義ヲ下ストキハ

犯罪トハ刑罰ノ制裁アル法令ニ依リ豫メ禁止又ハ命令シタル事項ニ違反スル所爲ナリ

ト云フヲ以テ最モ適當シタル定義トス

此定義ヲ分析スルトキハ左ノ三要件ト爲ル

第一 刑罰ノ制裁アル法令アルコト

法令ハ一國ノ安寧秩序ヲ維持スルカ爲メニ發布セラルルモノナレトモ其主トシテ國家ノ公益ヲ維持スルモノト或ハ主トシテ個人ノ私益ヲ保護スルカ爲メニ發シタルモノトアリ其故ニ目的トスル所異ナルニ隨ヒ之ニ對シテ守ラサルモノ、制裁ヲ附スルト否トノ區別ヲ生ス彼ノ個人ノ私益ヲ保護スル法令ノ如キハ其私益ヲ得ントスル個人ニ於テ私權ヲ拋棄セハ可ナリ法令ハ進ンテ之ヲ拒ム理ナシ民法ノ如キ是ナリ

之ニ反シ公益ヲ維持スル法令ノ如キハ個人ニ於テ之ヲ遵守セス之ニ違背シタルトキハ強

行シテ以テ其法令ヲ守ラシメサレハ何ソ公益ヲ保護スルニ至ランヤ之レ制裁ヲ附シテ之ニ背キタルモノ命令ノ如ク爲サ、ル者ヲ強テ隨ハシメサルヘカラス彼ノ刑法ヲ始メ刑罰トシテ制裁ヲ加ヘタルモノハ皆此種ニ屬スルモノナリ

尤トモ民法又ハ商法其他訴訟法ノ如キモノニ付テモ制裁ヲ附スルコトアリ然レトモ之レ決シテ刑罰ト云フコトヲ得ス今刑罰ト稱スルハ刑法ヲ始メ刑事法ニ屬スル法令ニ加ヘタル制裁ヲ云フ彼ノ諸稅則又ハ取締ニ關スル法規ノ如キ類是ナリ

第二 禁止又ハ命令ノ事項アルコト

法令中或ハ爲スヘカラスト禁止シ又ハ爲スヘシト命令シタル事項ハ何人ト雖モ之ニ隨ハサルヘカラス即チ此點ニ付テハ自由ヲ失ヒタルモノナリ

故ニ若シ法令ニ於テ刑罰ノ制裁ヲ設ケ豫メ禁止又ハ命令ノ事項ヲ定メサルトキハ人ハ如何ナル禁止ヲ犯スコトヲ得サルカ又ハ如何ナル命令ニ從ハサルコトヲ得サルカ知ルニ由シナシ從テ之ニ對シテ刑罰ノ制裁ヲ附スルコトヲ得サルヘシ制裁ヲ附スルハ豫メ禁止又ハ命令ノ範圍ヲ定メ置クニアラサレハ能ハサルモノトス

第三 第二ノ事項ニ違反スル所爲アルコト

法令中ニ禁止又ハ命令ノ事項アリテ其禁止又ハ命令ノ如ク人々之ヲ守ルニ於テハ決シテ

犯罪アルコトナシ即チ法令カ之ヲ爲スヘカラスト禁シタルコトヲ爲サス又之ヲ爲スヘシト命シタル事ヲ爲サハ決シテ法令ニ違反シタルモノニアラスシテ法令ヲ遵守シタル良民ナリ之ニ反シ其禁止又ハ命令ノ事項ノ如ク爲サスシテ却テ之ニ反スル行爲ヲ採ルカ如キハ之レ法令ニ違背スルモノニシテ之ヲ犯罪ト稱ス即チ制裁ノ如ク強行セサルヘカラスト然ラサレハ社會ノ安寧秩序ヲ維持スルコト能ハス法令ノ事項ニ違反スルハ全ク社會ノ安寧秩序ヲ妨害スルモノナリ之ヲ維持スルハ制裁ヲ加フルニアリ併シナカラ此違反行爲ハ必ラス社會ニ表白シタルモノナラサルヘカラスト社會ニ表白セサレハ社會ハ未タ何等ノ影響ヲ受ケス從テ安寧秩序ニ妨害ヲ與ヘタリト云フヘカラスト從テ社會ハ之ニ對シテ防衛スル權ナシ故ニ違反ノ行爲ハ必ラス外部ニ表白シタルモノナラサルヘカラスト

違反行爲ニハ禁止又ハ命令ノ事項ト同シク進ンテ爲ス場合ト退キテ爲ササル場合トアリ一ハ作爲ニシテ犯罪ト爲リ一ハ不作爲ニシテ犯罪トナル彼ノ刑法カ人ヲ殺ス勿レ人ノ財物ヲ取ル勿レト禁止シタルヲ進ンテ人ヲ殺シ又ハ財物ヲ奪取シタルトキハ作爲ノ犯罪ナリト云フヘク又彼ノ老者幼者不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アル者カ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ルトキノ如キハ不作爲ノ犯罪ナリ尤トモ刑法ニ於テハ作爲ノ犯罪多シシ

テ不作爲ノ犯罪ハ稀ナリ

以上三要件ヲ具備シタルモノヲ以テ犯罪ト稱スルコトヲ得ヘシ

其他定義中ニ權利ノ執行ニ屬セサルコト(一)又ハ犯罪ヲ爲ス意思アルコト(二)ヲ加フヘシトノ學者アリシモ先輩諸學者殊ニ刑法新進ノ學者ノ唱導スル所ニ依レハ權利ノ執行ニ屬セサルコト、ハ彼ノ本屬長官ノ命令ニ依リテ職務上爲スヘキ行爲ハ罪トナラスト云フコトヲ示シタルナランカ果シテ然ラハ本屬長官ノ命令ハ法律ノ命令ニシテ法律ノ命令ヲ執行シタルニアレハ正當ノ行爲ナリ正當ノ行爲ナレハ犯罪ナラサルコト明カナレハ別ニ之ヲ一條件ト爲スニ及ハス又意思ヲ加フヘシトノ說アルモ禁止又ハ命令ニ違反スル行爲ハ一ノ事實ナリ已ニ違反シタル以上ハ法律上ノ犯罪ハ成立セリ其犯罪ニシテ其違反者ニ責任アルヤ否ヤヲ論スルニ當リテハ初メテ其犯人ノ意思如何ヲ論究スル必要ヲ生ス故ニ意思ナカリセハ無罪タルヘシ開ハ犯人其人ニ關スルモノニシテ事實ニ關スルモノニアラス故ニ犯罪ノ定義ニハ單ニ犯罪タル事實ニ付テ要件ヲ示スヘク意思タル人ニ關シテハ其犯罪ニ付テ責任ヲ研究スルトキニ於テ之カ要件トナルヘシト余モ亦此說ニ贊同スルモノナリ

第一編 總 則

註 本編ニ於テハ各般ノ罪ニ共通スル規定ヲ網羅シタルモノニシテ第二編以下ノ各本條ハ勿論第八條ニ明記シタルカ如ク刑法以外ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニシテ總則ナキモノニ付テモ亦之ヲ適用スルモノトス

現行刑法ノ總則ニ於テ其意味敢テ異ナラス只現行法ト異ナル點ハ刑名ヲ刑ト改メ刑期計算ヲ期間計算トシ刑期及ヒ時効期間ノ計算ニ共用シ期滿免除ハ他ノ法律用語ト同シク時効ト改メ不諭罪及ヒ減輕、數罪俱發、再犯加重、數人共犯、未遂犯罪トアルヲ犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免、未遂罪、併合罪、累犯、共犯トシ加減例及ヒ加減順序ヲ合セテ加減例ト爲シタリ

而シテ徵償處分ハ性質上刑事訴訟法ニ屬スヘク復權ハ 天皇ノ大權ニ屬スヘキモノ親屬例ハ已ニ民法ノ親族編アリ故ニ何レモ之ヲ削除シ之ニ代ユルニ刑ノ執行ヲ加ヘタリ

第一章 法 例

註 本章ハ法例即チ總則中ニ於ケル總則ヲ規定シタリ

而シテ本章ニ於テハ

一、刑法ノ時ニ關スル效力

二、刑法ノ土地ニ關スル效力

三、刑法ノ人ニ關スル效力

四、刑法ノ總則ノ他ノ法令ニ對スル效力

ヲ規定ス

現行刑法ハ第一條ニ於テ罪ノ三別主義ヲ採リ規定シタリト雖モ其區別スヘキ標準アル

ニ非ラス又區別スルモ實益ナキ所ヨリシテ改正刑法ハ之ヲ認メ爲メニ廢棄シタリ

第二條ハ當然ニシテ別ニ明文ヲ存スル必要ナシトシテ削除ス

第四條ニ於テモ亦同一トス

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

註 本條ハ刑法ノ及フヘキ土地ノ範圍ヲ規定シタリ

第一項 本法即チ刑法ハ帝國臣民ナルト又ハ外國人ナルトヲ問ハス苟モ日本帝國内

ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ適用スヘキコトヲ規定シタリ故ニ佛蘭西人カ日本帝國内ニ於テ刑法規定ノ罪ヲ犯シタルトキハ日本ノ裁判所ニ於テ刑法ヲ適用シテ裁判スルニアリトス

抑モ一國ノ法權力及フヘキ土地ノ範圍ニ付テハ古來諸說アリ今左ニ其主要ナルモノヲ舉ク

一、屬地主義 此主義ハ萬邦割據ノ因襲ヨリ來リタルモノニシテ刑法ハ一國ノ領土内ニヨラサレハ效力ヲ有セサルカ故ニ其領土内ニアリテ犯シタルモノハ其國籍ノ如何ヲ論セス犯罪土地ノ刑法ヲ適用スヘシ若シ夫レ領土外ナルトキハ決シテ適用スルコトヲ得ス

此說ニ依レハ領土内ノ犯罪ハ内外國人ヲ論セス之ヲ罰スルコトヲ得テ刑法ノ目的ヲ達シ得ヘシト雖モ領土外ニ在テハ内國人ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ至リ國內ノ惡奸者ハ國外ニ至リテ犯罪ヲ爲スニ至ルヘシ日本ノ如キハ四面海ナルモ權太ノ如キ新領土ニ於テハ一線ヲ跨クレハ領土外トナルノ危險ヲ生ス故ニ刑法ノ如キハ決シテ屬地主義ヲ以テ決スヘキモノニアラス

二、屬人主義 此主義ハ一國ノ國人ハ何國ニ在ルモ常ニ必ラス本國法ニ從ハサルヘ

ラス然レトモ外國人ハ國權ノ及ハサルヲ以テ内國ニアリテ罪ヲ犯スモ決シテ刑法ヲ適用ヲ爲スヘカラス

此說ノ如キハ實ニ價值ナシ元來刑法ハ實ニ其國ノ安寧秩序ヲ維持スルモノナレハ假令外國人ト雖モ之ヲ放任スルコトヲ得ス若シ斯ノ如クセハ一國ノ主權ハ外國人ノ爲メニ紊亂セラルルニ至ルヘシ豈斯ノ如キ不法アラシヤ

三、折衷主義 此主義ハ前二主義ヲ折衷シタルモノニシテ刑法ハ其領土内ニ於テハ内外國人ヲ問ハス之ヲ適用シ且其國民ニ對シテハ假令外國ニ在ルトキト雖モ之ヲ適用ス

此主義ニ於テハ二主義ヲ折衷シタルモノナレトモ未タ完全ナラス即テ外國人ニシテ外國ニ於テ日本國ノ刑法ニアル罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ適用スルコトヲ得ス刑法上ノ犯罪ニシテ帝國ノ安寧秩序ヲ保護スル上ニ於テ外國人カ外國ニ於テ犯シタルトキモ亦維持上之ヲ適用セサルヘカラサル場合ヲ生スヘシ故ニ折衷主義モ亦完全ナル能ハス

四、保護主義 此主義ハ刑法ヲ最モ廣ク及ホサントスルモノニシテ内國ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ内外國人ノ區別ナク適用シ又外國ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ内國

ノ自體及ヒ内國人ニ對スル場合ニ於テハ内外國人ヲ問ハス尙ホ刑法ヲ適用スル主義トス

此主義ハ改正刑法ノ採用スル所ニシテ第二條乃至第四條ニ規定シタリ

帝國内トハ果シテ如何ナルモノヲ云フヤニ付テハ敢テ地理上大日本帝國ヲ組織スル所ノ土地ノミナラス苟モ大日本帝國ノ主權ノ及フ所ハ何處タリトモ帝國内ト稱ス今左ニ帝國内ト看做スヘキモノヲ示サン

一、日本領海 國際公法上ニ依レハ海ハ萬國共通ニシテ平等ニ之ヲ用ヒ自由ナリトス然レトモ此共通海ハ交通ノ便ヲ得ルト間斷ナク主權ヲ行フコトヲ得サルトニ外ナラサレハ一國ノ海邊ナルトキハ之ヲ及ホスコトヲ得ス即チ其國ノ防禦ノ爲メ且近海ノ如キハ間斷ナク主權ヲ行フコトヲ得レハナリ

而シテ此領海トハ沿岸ヲ距ル幾許ナルヤニ付テハ古來問題ヲ生シタルモ輒近ニ於テ巴里國際法會議ノ際海岸ヲ距ル六海里ヲ以テ之カ境ト爲シ其外ハ海洋トシテ萬國共通シ其内ハ海岸ノ領土内トシテ主權ヲ及ホスアリ故ニ刑法モ亦六海里内ハ帝國内トシテ適用セラルルモノトス

二、占領地 平時又ハ戰時ニ於テ我軍隊カ占領セシ外國領土ニシテ我刑法ノ適用ヲ

見ルヘシ蓋シ占領地ハ敵國ノ主權ノ執行ヲ遮斷スルモノナレハ其占領地内ニアル
内外國人ニ對シ我法權ヲ行フハ當然トス

三、治外法權ノ行ハルル外國 元來獨立國ハ其領土内ニ於テ主權ヲ行ヒ苟モ領土内
ニ在テハ總テノ犯罪ニ對シテ内外人ノ區別ナク常ニ自國ノ法律ヲ適用スヘキモノ
ナリ然ルニ外國人ニ對シテ自國ノ裁判權ヲ行ハレスシテ各外國人ノ本國ノ裁判權
ヲ行フコトハ之レ條約上行ハルルモノニシテ之ヲ治外法權ト云フ

故ニ我邦ノ如キモ條約改正前ハ我刑法ハ外國人ニ及ハス又日清戰爭後我邦ノ清國
及ヒ朝鮮國ニ於ケルカ如キモ治外法權ヲ有シ清韓國ニ在ル日本人ハ清韓國ノ刑法
ヲ適用セラレスシテ我國ノ刑法ノ適用ヲ受クルカ如シ

併シナカラ清韓國ハ我邦ニ對シテハ治外法權ヲ有シ從テ彼ノ刑法ハ及ハサルモ決
シテ領土ト云フヘカラス故ニ外國人ヲモ我カ刑法ヲ適用シテ處斷スルコトヲ得ス
只自國人民ノミノ分限ナリトス

尙ホ領土ト看做スヘキモノハ船舶ニアリ船舶ニ付テハ次項ニ規定アルヲ以テ次項ノ
解釋ニ讓ル

第二項 帝國外ニ在ル帝國ノ船舶内ニ於ケル犯罪ニ付テモ亦何人ヲ問ハス刑法ヲ適

用スヘシ

前項ニ於テ一言セシカ如ク本邦ノ船舶カ領土内ニ在ル場合ニ於テハ敢テ異議ナシト
雖モ一度我領土ヲ離ルルヤ船舶内ニ生シタル罪ニ付テハ刑法ノ效力ヲ定ムルニアラ
サレハ頗ル疑ヲ生スル虞アリ

元來船舶ニ對シテハ國際法上各領土ナリト看做スヲ以テ日本ノ船舶ハ其軍艦ト商船
トヲ問ハス皆我邦ノ領土トス隨テ船舶内ノ犯罪ハ本法ヲ適用シテ可ナリ

然レトモ軍艦ニ在テハ絶對的可ナリトスルモ商船ニ在テハ其所在ニ依リ大ニ區別ス
ルヲ要ス

一、内國領海又ハ公海ニ在ルトキ 内國領海ニ在ルトキハ當然本法ヲ適用スヘキハ
勿論ナリ其公海ニ在ルトキハ公海ハ何レノ國ノ主權ヲモ行ハレサルヲ以テ船舶所
屬國ノ刑法即チ我カ船舶ナレハ本法ヲ適用スヘキヤ亦勿論ナリ

二、外國ノ領海ニ在ルトキ 船舶カ其屬スル國ノ領土ノ一部ナリト看做ストキハ二
國ノ主權ノ抵觸ヲ見ルヘシ此場合ニ於テハ國際公法上軍艦ト商船トニ區別シテ論
セサルヘカラス

軍艦ニ在テハ防禦ノ用ニ供スルモノニシテ内地ノ砲臺ト毫モ異ナラサレハ假令外

國領海ニアルトキモ其艦内ノ犯罪ニ付テハ本法ヲ適用スルハ當然トス
 商船ニ在テハ之レ一私人ノ私有ニシテ假令領地外ニ在テモ私人カ其所在地法ニ從
 フカ如ク船舶モ亦其國ノ法律ニ從フヘキハ當然ナルカ如キモ各國ニ於ケル例ハ之
 フ異ニセリ英國ノ如キハ嚴然トシテ英國法ヲ適用スヘキモ佛國ノ如キハ非船員ノ
 犯罪又ハ非船員ニ對スル犯罪ナル時ト船舶内ノ犯罪ニシテ其碇泊地ノ公安ヲ害ス
 ル時ト船舶碇泊地ノ官憲ヨリ救護ノ求メアル時ト此三個ノミハ佛國ノ法律ヲ以テ
 處分セリ此三個以外ノ場合ニ於テハ佛國ハ外國船舶ニ對シテハ治外法權ヲ認メタ
 リ
 斯ノ如ク各國採ル所ノ法律ヲ異ニスルモ我邦ニ於テハ本項ノ如ク帝國外ニアル船
 舶ニ於テノ犯罪ニ付テモ第一項ト同シク本法ヲ適用スルコト、爲シタリ蓋シ必要
 上所屬國法ヲ適用シタルモノトス

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シ
 タル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百五十四條第五百五十五條第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ
 罪

六 第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ罪

七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第二項

、第六百六十五條第二項、第六百六十六條第二項ノ未遂罪

註 本條ハ帝國外ニ於テ生シタル罪ニ付テモ尙ホ本法ヲ適用スヘキ場合ヲ規定シタル
 モノトス

前條ニ於テ帝國内ニ生シタル罪ニ關スル規定ヲ設ケタリト雖モ帝國外ニ於テ生シタ
 ル罪ト雖モ尙ホ之ヲ處罰スル必要アルヲ以テ本條ノ場合ニ於テハ所謂保護主義ヲ採
 リタリ

已ニ論述セシカ如ク元來刑罰權ナルモノハ社會ノ自存ヲ計ルモノナレハ苟モ領土内
 ノ爲メニ利害得失ヲ生シタル事柄ナルトキハ假令領土外ニ於テ生シタルモノト雖モ

我國ノ公安ヲ害サレタルモノナレハ之ヲ維持ノ爲メニハ刑罰權ヲ行ハサルヘカラス
即チ本條ニ於テ之ヲ認メ一以下七ニ至ルマテ列記セル各犯罪ハ實ニ我國ノ安寧秩序
ヲ害シ我國民ノ利益ヲ害シタル著シキモノナレハ其犯罪人ノ内外人ヲ問ハス本法ヲ
適用セサルヘカラス

各列記シタル犯罪ニ付テハ一々轉載セス請フ各本條ニ就キ詳悉ヲ知ルヘシ

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民
ニ之ヲ適用ス

- 一 第九十八條、第九十九條第一項ノ罪、第九十八條、第九十九條第一項
ノ例ニ依リ處斷スヘキ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
- 二 第九十九條ノ罪
- 三 第一百五十九條乃至第一百六十一條ノ罪
- 四 第一百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第一百七十六條乃至第一百七十九條、第一百八十一條及ヒ第一百八十
四條ノ罪

- 六 第九十九條、第一百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
- 八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
- 九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタ
ル罪
- 十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
- 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
- 十二 第二百三十條ノ罪
- 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第
二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
- 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
- 十五 第二百五十三條ノ罪
- 十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

註 本條ハ帝國外ニ於テ帝國臣民ノ犯シタル罪及ヒ外國人ニ於テ帝國臣民ニ對シ犯シタル罪ニ付キ規定シタリ

第一項 帝國外ニ於テ被害者ノ日本人タルト外國人タルトヲ問ハス苟モ生命、身體、自由、財産又ハ信用ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ對シテハ矢張本法ヲ適用スヘキモノトス

蓋シ斯ノ如キ犯人アルニモ拘ハラヌ帝國外ナリトシテ不問ニ付センカ我國ノ安寧ヲ維持スルコトヲ得ン殊ニ帝國臣民ハ帝國ノ法律ヲ遵奉スヘキ義務アルモノナレハ本法ニ於テ明文アル以上ハ之ヲ罰セサルヘカラス而シテ斯ノ如キハ我國民ハ我國ヘ永住スル權利ヲ有スル者ナレハ之ヲ國境外ニ追放スルコトヲ得ス之ヲ追放セサレハ國內良民ト伍ヲ爲スニ至リ安寧秩序ヲ維持スルコトヲ得ン國民ノ幸福ヲ増進シ安寧ヲ維持センニハ本條ヲ設ケサルヘカラス論者ハ屬人主義ヲ採リタリト云ヘリ或ハ一説ナラン

本項ニ各列記スル本條ハ前條ト同シク茲ニ省ク各本條ニ就テ其罪質ヲ知ルヘシ

第二項 帝國外ニ於テ外國人カ日本人ニ對シテ第一項ノ列記スル各本條ノ如キ犯罪ヲ爲シタルトキ即チ帝國臣民ノ被害者ナルトキニ於テモ亦其外國人ニ本法ヲ適用スヘキモノトス

元來帝國外ニ於テ外國人互ヒノ場合ニ於テハ我國ノ法律ヲ以テ支配スヘキ必要ナシト雖モ若シモ被害者ニシテ日本人ナルトキハ我國ハ其臣民ノ所在地ニ付テ保護スルノ義務アリ即チ我國民ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ我國ノ刑罰權ヲ行フヘキハ當然ナリトス

帝國臣民トハ大日本帝國憲法第十八條ニ明定セラレ法律ヲ以テ之ヲ定ムトシ國籍法ヲ以テ日本臣民タルノ要件ヲ定メタリ其大略ハ左ノ如シ

一、父カ日本人ナルトキハ其生レタル子ハ日本人ナリ

二、父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ日本人ナリ

三、日本ニ生レタル子ノ父母共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ日本ナリ

四、日本人ノ妻ト爲リタル外國人

- 五、日本人ノ入夫ト爲リタル外國人
- 六、日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタル外國人
- 七、日本人ノ養子ト爲リタル外國人
- 八、歸化ヲ爲シタル外國人
- 九、日本ノ國籍ヲ取得シタル外國人ノ妻但妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ適用セス
- 十、同上外國人ノ未成年者ノ子但前同斷
尚ホ帝國臣民ニシテ國籍ヲ喪失スヘキ場合ハ左ノ如シ
- 一、日本ノ婦女カ外國人ト婚姻シタルトキ
- 二、婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限り失フ
- 三、自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキ
- 四、日本ノ國籍ヲ失フタル者ノ妻及ヒ子カ其モノノ國籍ヲ取得シタルトキ
- 五、日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキ但日本人ノ妻入夫又ハ養子ト爲リタルモノハ此限ニアラス

以上滿十七歳以上ノ男子ニシテ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スヘキ義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

- 一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 二 第一百五十六條ノ罪
- 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

本條ハ公務員ニ於テ帝國外ニ在テ犯シタル罪ニ付キ本法ヲ適用スルコトヲ規定シタリ

帝國外ニ於テ帝國臣民カ犯シタル罪ニ付キ本法ヲ適用スヘキコトニ付テハ已ニ第二一條及ヒ第三條ニ之ヲ規定シタリシカ本條ハ特ニ帝國ノ公務員ニ對シテ適用スヘキ條項ヲ示シタリ

本條列記スル各本條ハ其條目ニ就キ之ヲ詳悉スヘキモ其條項ハ何レモ一ノ職務ヲ帶

ヒタル者ニ於テ犯シ得ヘキ罪ナレハ例ヘ外國ニ在テ犯シタリト雖モ公益ノ爲メ官紀取締ノ爲メ之ヲ罰セサルヘカラス
公務員トハ如何ナル者ナルヤニ付テハ第七條ニ之ヲ示ス

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

註 本條ハ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ニ對シテハ再ヒ公訴ヲ起スコトヲ得ヘキヤ否ヤヲ規定ス

本條ニ依ルトキハ外國ニ於テ一旦確定裁判ヲ受ケタルモノト雖モ尙ホ同一ノ行為ニ付キ更ニ内地ニ於テ處罰スルコトヲ得ヘシト規定シタリ

抑モ同一ノ犯罪ニ付キ二個ノ裁判ヲ受クルハ一事再理ナリ一事再理ハ審理スル裁判所ノ何國ニ屬スルヲ問ハス已ニ一個ノ裁判所ニ於テ確定判決ヲ受クルトキハ之ニ依リテ保障セラレ他ノ裁判所之ヲ再ヒ判決スルコトヲ得サルヲ原則トス故ニ本條ノ如

キハ確定判決ノ效力ヲ無視シ一事再理ノ原則ニ背キタルモノナリトノ説ヲ爲スモノアリ

論者ノ説ノ如キ立法論トシテ價值ナキニアラス然レトモ凡ソ確定判決ノ效力ヲ認ムルハ同一國ノ同一法律ニ基キ判決ヲ下シタルトキニ於テ然ルモノトス故ニ假令内國及ヒ外國ニ於テ前後同一事件ニ付キ同一犯人ニ對シ處罰スルコトアルモ決シテ一事再理ノ原則ニ背クモノニアラサルナリ若シモ之ヲシテ一事再理ナリトスルトキハ外國ノ確定判決ハ我國ニ於テ效力ヲ有シ終ニ我主權ヲ侵害セラルルノ不結果ヲ來タスヘシ左レハ原則トシテハ本條本文ノ如ク規定シタル所以ナリ

然レトモ一旦外國ニ於テ確定判決ヲ經テ已ニ其執行ノ全部又ハ一部ヲ受ケタル者ニ對シテ尙ホ再ヒ責罰ヲ加フルトセンカ屢々殘酷ト爲リ不幸ニ遭遇スヘシ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ宜シク刑ヲ言渡スノ際其執行ヲ全部ニ對シテハ免除スルカ又ハ一部ニ付テハ減輕スルカ又ハ假令一部ト雖モ場合ニ依リ免除スルコト、シ以テ但書ヲ加ヘタルモノトス

終リニ一言スヘキハ外國ニ於テ犯罪シタル者日本ニ來ラサルトキ又ハ日本ニ於テ犯罪シタルモノ外國ヘ逃亡シタル者ニ付テハ我國ハ直チニ犯人所在ノ外國ニ侵入シテ

被告人ヲ逮捕スル權能ナシ故ニ彼國ニ請求シテ犯人ノ引渡ヲ受クヘキモノトス已ニ外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結セシ場合アリ又明治二十年八月勅令第四十二號ヲ以テ逃亡犯罪人引渡條例ヲ發布セリ請フ參照セヨ

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

本條ハ新舊二法ノ比照セシ場合ニ於テ處罰スヘキ刑ヲ規定ス

原則ニ在テハ犯罪當時ノ法ト判決當時ノ法ト牴觸セシトキハ判決當時ノ法即チ新法ハ既往ニ溯ルコトヲ得サルモノナリ故ニ新法發布以前ノ犯罪ニ對シテハ新法ヲ適用スルコトヲ許サス即チ舊法ニ於テ罰セサル所爲又ハ輕ク罰シタル所爲ニ對シ新法ハ假令之ヲ罰シ又ハ重ク罰スルモ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス然レトモ又例外ヲ設ケ以テ新法ヲシテ舊法時代ノ所爲ニ對シテ適用スルコトヲ得セシメタリ即チ新法カ舊法ヨリ寛大ナルトキニアリ本條ハ即チ其例外ノ場合ヲ規定シタルモノトス

抑モ舊法時代ト新法時代ト法律ノ變更アル場合ハ種々アリ舊法時代ニハ罰セス又ハ輕ク罰シタルモノヲ新法之ヲ罰シ又ハ重ク罰スルコトアリ又之ニ反シ舊法時代ハ罰シ又ハ重ク罰シタルモノヲ新法之ヲ罰セス又ハ輕ク罰スルコトアリ其何レニスルモ

シ又ハ重ク罰シタルモノヲ新法之ヲ罰セス又ハ輕ク罰スルコトアリ其何レニスルモ舊法時代ニ必要アリシモ新法時代ニ於テ之ヲ不必要ト認メ舊法時代ニ不必要ナリシモ新法時代ト爲ツテ必要ヲ生シタルモノナリ

左レハ舊法時代ノ人民ハ舊法ニ從フ義務アリ又權利ヲ有シタルモノナリシニ新法ニ於テ之ヲ變更シタリシト云フ未ダ權利義務ナキ人民ニ其責ヲ負ハシムルカ如キハ不道理トス殊ニ舊法ニ於テ罰シタル所爲ノ如キハ當時社會ニ於テ罰スル必要アリテ定メタルモノナリ然ルニ新法ニ於テ之ヲ罰セストスルトキハ社會已ニ其必要ヲ認メサルニアレハ假令其所爲カ舊法時代ニ成立シタリトスルモ之ヲ罰スルノ必要ナシト同シク舊法之ヲ罰セシテ新法之ヲ罰スルモノトセンカ人民ハ已ニ舊法時代ニ在テハ正當ノ行爲ナリト信シタリシニ新法ニ於テ之ヲ罰スル必要ヲ生シタルハ將來ニ於テ然ルヘク行爲アリタル當時ハ未タ必要ナキ時代ナレハ之ヲ罰スルト云フカ如キハ不當ノ甚シキモノナリ其輕キ刑ヲ重クシタルトキノ如キモ亦同一トス然ルニモ拘ラス本條ニ於テハ新法ニ於テ輕キトキハ其輕キモノヲ適用シ若シ舊法ニ於テ輕キトキハ尙ホ其舊法ニ從フヘキ旨ヲ規定シタリ其新法ノ輕キニ從フヘキモ舊法時代ニ於ケル重キ刑ハ不必要ト爲リタリ其不必要ノモノヲ強ユル理ナケレハナリ

故ニ新法ノ輕キニ從ハシム又舊法ニ於テ輕キトキハ其儘舊法ヲ適用スルハ舊法時代ニ於テハ輕キヲ以テ正當トシタリシナリ新法ニ於テ其重クセシハ必要ヲ生シタルカ爲メナリ其必要ヲ生シタルコトハ犯人ニ於テ未知ノ事柄ナリ其未知ノ事ヲ以テ責ムルハ不當ニシテ人民ハ枕ヲ高クスルコト能ハサルナリ故ニ當時ノ刑ヲ以テ處分スルハ至當ナリトス

今新舊二法ヲ比較スル標準ニシテ其主ナルモノハ左ノ如シ

- 一、新法カ舊法ノ刑ヲ廢止シタルトキ 之レ新法輕キモノトス
- 二、新法カ舊法ノ行爲ヲ罰セス又ハ宥恕ヲ與ヘタルトキ 之レ亦新法ヲ輕シトス
- 三、新舊二法其刑ノ性質同一ニシテ刑期金額ノ長短多寡ヲ異ニシタルトキ 此時ハ新舊二法ノ長期多額ヲ比較シ其短ク寡キモノヲ以テ輕シトス
- 四、新法カ舊法ノ罪名ヲ變更シタルトキ 此時ハ刑期金額ノ短ク寡キモノヲ輕シトス

現行刑法第三條ト對照スルニ其第一項ハ之ヲ削除シタリ蓋シ別ニ明記スルノ必要ナク法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得サルハ自明ノ理ナレハナリ又第二項ニ於テ新舊ノ法ヲ比照シ云々トアルヲ本條之ヲ削除シタリ蓋シ斯ノ如ク規

定スルトキハ只前後二回ノ刑ノ變更ノミヲ意味スルノ疑アリ元來新舊法ヲ比スルニハ必ラズ前後二回ニ限ラスシテ犯時當時ト判決當時トノ中間ニ尙ホ刑ノ變更アルコトヲ豫想セサルヘカラス例ヘハ犯時ニ於テハ禁獄トシ中間ニ在テ科料トシ判決當時ニハ無罪トナルヘキ場合アラシム豫想セサルヘカラスアルヲ以テ本條ハ特ニ新舊ノ法ヲ比照シ云々ヲ避ケ其輕キモノヲ適用スト改メタリ又第二項中ニ未タ判決ヲ經サル云々ノ文字アリシモ已ニ本條ニ於テ「適用ス」ト明記セハ其裁判確定前ナルコト明白ナレハ是亦削除シタリ終リニ臨ミ犯人ハ如何ナル時期ニ至ルマテ本條ヲ適用セラルヤト云フニ確定判決マテハ其利益ヲ受クヘキモノト云ハサルヘカラス即チ終審ノ判決アルマテハ何時ニテモ二法比照ノ利益ヲ受クヘシ且確定後未タ執行以前ニ新法發布アルトキノ如キハ理論トシテハ確定判決ノ儘執行スヘシト雖モ此場合ノ如キハ特赦ヲ以テ救済スヘキモノト思考ス

判例ニ依レハ

舊法ハ數罪俱發例ヲ適用シ新法ハ數罪ヲ併科スルトキハ舊法ヲ輕シトス(三二、九、九)輕罪刑ノ體刑ニ在テハ刑期ノ長キモノヲ以テ重シトシ罰金刑ハ多額ノモノヲ以テ重

シトス(三二二、二、九)

罰金ノ刑ハ禁錮ノ刑ヨリモ輕シトス(三六、六、四)

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務

ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

本條ハ公務員ト公務所トノ例ヲ示シタル規定トス

第一項 本項ハ公務員トハ如何ナルモノナルヤヲ例示シ本法中ニアル公務員ノ誰ナ

ルコトヲ明ラカニシタリ而シテ法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員トハ

多クアリ國會議員ノ如キ又其委員ノ如キ市町村會ノ議員、商業會議所ノ議員、組合

ノ役員、水利組合ノ役員、民團ノ役員等皆之ニ包含ス

第二項 公務所モ亦官署ハ勿論公署ヨリ第一項ニ示シタル商業會議所、組合役場、

民團役所モ亦包含ス

現行刑法ニ在テハ官吏及ヒ官署ノミノ規定ナリシカ明治二十三年法律第百號ヲ以テ公

吏及ヒ公署モ刑法上官吏及ヒ官署ト同視セシメタリ本條ハ尙ホ一步ヲ進メ廣ク規定

シタルモノトス

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適

用ス但其法令ニ特別規定アルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ本法ノ總則ヲ他ニ適用スヘキコトヲ規定シタリ

他ノ法令ニシテ別ニ總則ヲ設ケタルモノハ其特別ノ總則ニ依リテ其場合ヲ支配スヘ

シト雖モ其法令ニ總則ノ掲ケナキモノニ付テハ本法ノ總則ヲ適用スルモノトス蓋シ

本法ハ刑ヲ定メタル法令ニ對シテハ普通法ナレハナリ

現行刑法第五條ニ依レハ本條ト其趣旨敢テ異ナラス且第五條第二項ヲ本條ノ本文トシ

第一項ヲ但書ト爲シタル差ノミ

又法律規則トアルモ今日ニ於テハ法律命令ノ中ニ包含スルモノナレハ之ヲ約メテ法

令ト爲シタルニ外ナラス

第二章 刑

本章ハ刑ノ種類及ヒ其執行ノ大則ヲ規定ス

抑モ刑トハ刑罰ヲ云フ刑罰ハ犯罪人ニ科スル苦痛ナリ而シテ此苦痛ナルモノハ身體

ニ及ホスモノアリ或ハ自由ニ及ホスモノアリ或ハ權利ニ及ホスモノアリ或ハ財産ニ

及ホスモノアリ其最モ苦痛ヲ感スルモノハ身體ニ及ホスヘキモノニシテ死刑ノ如キハ最モ適例トス

本法ニ於テハ其刑罰ハ第九條ニ列記シタルカ如ク主刑ニ屬スルモノヲ六種トシ附加刑ニ屬スルモノ一種トス

今立法者カ斯ノ如ク刑ヲ定ムルニ付テハ大ニ心ヲ用キタルモノナルヘシ即チ其痛苦ノ程度ニ付テハ之ヲ定ムル實ニ困難トス或ハ酷ニ失スルト譏リ又ハ寛ニ流ルルト慨シ議論百出スト雖モ之ヲ定ムルニハ自ラ一定ノ條件アリ其條件ニ適合シテ犯人ヲシテ痛苦ヲ感セシムル程度ヲ以テ立法ノ要ヲ得タルモノト云ハサルヘカラス即チ左ニ刑罰ヲ定ムル必要條件ヲ略説セン

第一 刑罰ハ適法ナルコトヲ要ス

一定ノ犯罪ニ科スルニ一定ノ刑罰ヲ以テスルヲ要ス故ニ裁判所ニ於テ犯人ニ科スルニハ刑法ニ定メタル刑罰ヲ以テスヘシ之レ刑罰ノ適法ナルコトヲ期スルニアリ若シ夫レ裁判官ニシテ刑法明記以外ノ刑罰ヲ以テセハ適法ナルモノニハアラサルナリ

第二 刑罰ハ平等均一ナルコトヲ要ス

刑罰ハ各犯人ニ對シテ平等均一ナラサルヘカラス即チ老幼男女又ハ貴賤貧富ヲ區別スルカ如キハ不當トス尤トモ其刑罰ヲ執行スルニ付テハ種々ナル事情ノ下ニ區別ヲ設ケサルヘカラサルハ當然トス彼ノ現行刑法ノ懷胎婦ノ死刑ヲ猶豫スルカ如キ老幼ニ依リテ定役ニ區別ヲ立ツルカ如キ類ナリ

併シナカラ此平等均一トハ各犯人ニ科スルニ同一ノ刑期金額ヲ以テスヘシト解スヘカラス只科スヘキ刑罰ハ同一ニシテ其實際刑ヲ科スルニ付テハ犯人ノ身分ニ應ジテ科セサルヘカラス例ヘハ竊盜罪ハ何人モ竊盜罪ナレトモ其犯人ニ對スル場合ハ十年ノモノアリ五年ノモノアルヘシ

第三 刑罰ハ犯人ノ一身ニ屬スルコトヲ要ス

犯罪ノ責任ハ其犯罪者ニ於テ責ヲ負ハシムルモノニシテ他人代ツテ之ヲ負フヘキモノニアラス又其犯人ヲ除ク外ハ連鎖セシムル理ナシ昔ハ九族皆刑セラレタルコトアルモ今日ハ之ヲ許サス殊ニ罰金ノ刑ノ如キハ其相續人之ヲ辨濟スルカ如ク解スルモノモアラシカ罰金モ亦刑ナリ執行前ニ死スルトキハ消滅スルハ當然トス以上ノ外刑ノ性質トシテ犯人ヲシテ苦痛セシメ以テ再ヒ爲サ、ランコトヲ期スルト同時ニ是ニ倣ハントスルモノヲシテ警戒セシムルコトヲ必要トスヘシ

現行刑法第二章刑例ノ下三節ニ於テ第六條ニ刑ノ宣告スヘキコトヲ規定セリ之レ裁判

手續ニ屬スルモノナリ又第十二條但書乃至第十六條ノ如キハ行刑ノ手續ナリ
其他工錢ヲ交付スル等ノ如キハ何レ監獄手續ニ外ナラサレハ之ヲ削除シタリ

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ
附加刑トス

註 本條ハ刑ノ主刑及ヒ附加刑ヲ示シタル規定トス

本條ニ依レハ主刑トハ

- 一、死刑
 - 二、懲役
 - 三、禁錮
 - 四、罰金
 - 五、拘留
 - 六、科料
- トシ、附加刑トハ
一、沒收
ノ一トス

抑モ主刑中死刑ニ對シテ之ヲ存廢スルノ可否ニ付キ學說未タ一致セス然レトモ我國
ニ於テハ未タ之ヲ廢止スルノ時宜ニアラス否未タ廢止ヲ許サス元來死刑ナルモノハ
或ハ慘刻ニ過クル刑ナリト云フモ其死刑ニ處スヘキ社會ノ出來事ハ社會ニ在テ實ニ
嫌惡スヘク殘忍貪慾酷薄ナルモノニ限ルナリ彼等ハ慈愛心ナク廉耻心ナキモノニシ
テ社會カ保護セントスル身體財產ヲ破壞シ烏有ニ歸セシムルモノナリ社會維持ノ大
本ヲ傷ケ其危險ヤ實ニ測知スヘカラス彼等カ社會ニ放遊スル間ハ社會ハ決シテ安堵
セス晝夜心ヲ寒カラシムルモノナリ故ニ他ノ方法ヲ以テ之ニ苦痛ヲ感セシムルモ決
シテ悔悟スヘキモノニアラス只茲ニ至リテハ彼ノ生命ヲ絶ツヨリ他ニ策ナキモノナ
リ即チ死刑ハ未タ從來ノ實驗ニ徴シ又之ヲ理論ニ鑑ミ充分ナル成果ヲ擧クルモノト
ス

世ノ死刑廢止論者ノ如キハ名ヲ之ニ籍リテ一時ヲ街フモノナリ決シテ本心ヨリ出テ
タル說ニアラス若シ夫レ其論者ニシテ強盜殺人ニ遇ヒ又ハ謀殺セラレタルトキハ如
何之ヲ反省セハ思ヒ半ニ過キン只一笑ニ付スル價值アリヤ否ヤ疑フノミ

懲役及ヒ禁錮ハ自由刑ニシテ懲役ニハ定役ヲ科シ禁錮ニハ定役ヲ科セス其他罰金ノ
如キ拘留及ヒ科料ノ如キ附加刑ノ沒收ノ如キハ別ニ論スルノ要ナシ

現行刑法ニ於テハ第六條乃至第十條ニ於テ主刑及ヒ附加刑ヲ規定シタリ新法ニ於テモ此二刑ハ之ヲ認メタリ

而シテ現行刑法ニ於テ主刑ヲ重輕罪ニ分チ又其刑ニ付テハ定役ヲ付スルモノト否ラサルモノトアリシモ其執行方法ニ至リテハ殆ト其輕重ヲ區別スル標準ナシ斯ノ如キハ階級ノ多數ナルカ爲メ刑ノ範圍狹隘ト爲リ弊害ヲ生ス故ニ之ヲ改正シテ自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ擴張シタリ

罰金刑ヲ主刑ノミトシ附加刑ニ之ヲ置カサルハ實質上ノ差異ナキニ依ル附加刑ニ公權剝奪、停止公權及ヒ監視ヲ置カサルコトモ已ニ卷首ニ於テ詳論シタレハ別ニ茲ニ反論セス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノ

ヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

註 本條ハ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ定メタリ

第一項 主刑ノ輕重ノ順序ハ前條ノ如ク死刑ヲ重トシ次ハ懲役ニシテ次ハ禁錮トシ順次科料ニ及ヒ科料ヲ以テ最モ輕キモノトシタリ

然レトモ無期ノ禁錮ト有期ノ懲役ト比スルトキハ無期禁錮ヲ以テ重シトスヘシ又假令有期ト雖モ必ラス懲役ヲ重シトセス若シモ有期禁錮カ有期懲役ヨリ其長期ヲ比較シテ二倍ヲ超ユル長キモノナルトキハ假令禁錮ト雖モ之ヲ重シトセリ

第二項 本項ハ同種ノ刑ニ付テ輕重ヲ示シタルモノニシテ懲役、禁錮、拘留ノ如キ各其長期短期アリテ同シ刑ヲ比較スルニ其長期ノ長キモノハ夫ヲ重トスヘク長期ノ同シキモノナルトキハ短期ノ長キモノヲ以テ重トス例ヘバ一ハ十五年以下六月以上ノ懲役ニシテ一ハ十年以下一年以上ノ懲役ナリトセンカ十五年ノ懲役ヲ重シトシ之ニ反シ十年以下ノ禁錮ト一月以上十年以下ノ禁錮ナリトセハ後ノ禁錮ヲ重シトスルカ如シ其罰金科料ニ於テモ前ノ例ト同一トス

第三項 二個以上ノ死刑又ハ長短期ノ同一又ハ寡額ノ同一ナル同種ノ刑ニ付テハ他

ニ依ルヘキ數字ナキヲ以テ只犯情ニ依リテ其輕重ヲ定ムルニアリトス

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

本條ハ死刑執行ニ關スル規定トス

第一項 死刑ハ絞首スルモノトス而シテ其場所ハ監獄内トシ之カ密行トス其執行ニ付テハ檢事、典獄、書記ノ立會ヲ爲スコトハ勿論ナリ

第二項 死刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ其執行前マテ何レノ場所ニ拘禁シ置クヘキヤハ大ニ疑問ニ屬シタリシカ之ヲ明ラカニシ監獄ニ拘置スルコト、シタリ

現行刑法第十二條ニ於テハ絞首ストノミ規定シタルヲ以テ一旦絞首スルモ蘇生シタルトキハ如何スヘキヤ大ニ疑問ト爲リ實地ニ於テ問題ト爲リタルコトアリシカ今本條ニ於テハ絞首シテ執行スト改メタルヲ以テ其疑問ヲ解決シ絶命セシムルコトヲ示シタリ其他本條第二項ヲ設ケタルハ現行刑法ノ不備ヲ補ヒタルニ外ナラス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

本條ハ懲役ノコトヲ規定シタリ

第一項 懲役ハ無期ト有期トニ分チ其有期懲役ヲ短期一月以上長期十五年以下トシタリ各本條ニ依リテ詳悉スヘシ

第二項 懲役ノ執行ハ監獄内ニ拘置シ監獄則ノ規定ニ從ヒ定役ニ服サシム現行刑法ニ於ケル徒刑、懲役及ヒ重禁錮ヲ併合シタルモノヲ新法ハ之ヲ懲役トシタリ故ニ現行刑法ノ各刑ヲ通算スルトキハ十一日以上十五年以下トナルヘシ新法ハ一月以上十五年トシタルヲ以テ只十九日間ノ狹隘トナルノミ

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

本條ハ禁錮ニ付テノ規定トス

第一項 禁錮ハ之ヲ無期ト有期トニ區別シ有期ノ禁錮ヲ一月以上十五年以下トシタリ

第二項 禁錮ノ執行ニ付テハ單ニ監獄ニ拘置シタルマテニシテ定役ナキモノトス

現行刑法ニ於ケル流刑、禁獄、輕禁錮ヲ共通シテ新法ノ禁錮ニ改メタリ故ニ現行刑法ノ各刑期ヲ通算スレハ十一日以上十五年以下トナル前條ト同シク此場合ニ於テモ十九日ノ狹隘ヲ生シタルノミ

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

本條ハ懲役又ハ禁錮ヲ増減スル場合ノ刑期ヲ規定シタリ

有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重又ハ減輕スルトキハ左ノ例ト爲ルニアリ

一、加重シタルトキ 加重スルトキハ十五年以上二十年ニ至ル懲役又ハ禁錮ト爲ルニアリ

二、減輕シタルトキ 減輕シタルトキハ一月以下ノ懲役又ハ禁錮ト爲ルニアリ
斯ノ如キハ第十二條及ヒ第十三條ノ例外ナルヲ以テ本條殊ニ之ヲ明記シタルモノトス即チ特別ノ懲役又ハ禁錮アルモノト云フヘキナリ

一月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ其短期ハ何レマテ輕減シ得ヘキヤト云フニ第六十八條ノ第三號ニ依レハ刑期ノ二分ノ一ヲ減ストアルヲ以テ先ツ第一著ニ於テハ十五日マテ減輕スルコトヲ得ヘシ而シテ第七十一條ノ規定アリ且第六十七條ノ規定アル

ヲ以テ尙ホ酌量減輕ヲ用ユルトキハ其刑期ノ二分ノ一即チ七日半トナルヘシ是ヨリ以下ニハ法律上下スコトヲ許サ、レハ第七十條ニ依リ七日以上ノ懲役又ハ禁錮トナルニアリトス

現行刑法ニ於テハ第七十條及ヒ第七十一條ニ之ヲ規定シタリト雖モ一ハ加ヘテ重罪ニ入レス一ハ減シテ拘留ニ處ストセリ本條ハ刑名ニ付テハ之ヲ變更セス特別ニ長期ト短期ノ懲役又ハ禁錮ヲ設ケタルモノトス

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

本條ハ罰金ノ額及ヒ輕減スヘキ場合ノ額ヲ規定ス

罰金ノ額ハ其寡數ヲ二十圓トス其多額ニ付テハ各本條ニ之ヲ規定スルヲ以テ別ニ之ヲ規定セサルモノトス

而シテ罰金ヲ減輕スヘキ場合ニ於テハ其二十圓以下ニ降スコトヲ得ルモ之レ矢張罰金トセリ其寡數ヲ示サ、ルハ前條ニ於テ說述シタルカ如ク二分ノ一ヲ以テ一減輕トスルモノナレハ算出上自ラ明ラカナルヲ以テナリ

次ニ其加重スヘキ場合ニ於ケル金額ニ付キ何等ノ規定ナキヲ怪マン左レトモ新法ハ

加重ニ付テハ併合罪ト累犯トノミニ之ヲ行ヘリ而シテ罰金刑ニ付キ第九章及ヒ第十章ヲ通覽スルニ加重スヘキ場合ヲ見ス故ニ之ヲ規定スルコト能ハサルカ故ナリ
現行刑法第二十六條ニ於テハ罰金ハ二圓以上ト爲シタリシモ其科料ヲ二十圓未滿トシタル權衡ヨリ金額ヲ昇ラシメタルニ外ナラス而シテ仍ホ各本條云々ノ文字ハ當然ナルヲ以テ削除シタリ

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス

本條ハ拘留ノコトヲ規定シタリ

拘留ハ一日以上三十日未滿トシタリ又其執行ハ拘留場ニ拘留シ以テ定役ニ服サシムルコトナキモノトス

現行刑法第二十八條ニ依レハ一日以上十日以下トシ刑期狹隘ナリ殊ニ新法ハ有期懲役又ハ禁錮ハ一月以上ト爲シタルヲ以テ現行刑法ノ如ク空位ノ存スルコトナキモノトス

第十七條 科料八十錢以上二十圓未滿トス

本條ハ科料ニ付テ規定シタリ

科料ハ十錢以上二十圓未滿トシタリ第十五條ノ罰金ハ二十圓以上トシタルヲ以テ權

衡ヲ保テリ

現行刑法第二十九條ニ於テハ科料ハ五錢以上一圓九十五錢ナレトモ範圍頗ル狹隘ニ付キ改正ヲ加ヘタルニ外ナラス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内

ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

註 本條ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ノ處置方法ヲ規定シタリ

第一項 凡ソ罰金又ハ科料ハ金額ヲ徵收スルコトヲ目的トスル刑ナレハ必ラスヤ金額ヲ徵收セントスルモ財産ナキ者ニ在テハ其目的ヲ達スルコトヲ得ス

此場合ニ於テ立法例トシテ二個ノ方法アリ一ハ即チ現行刑法ノ如ク換刑處分ニシテ一ハ即チ換刑セスシテ勞役場ニ拘束シ勞役セシメ其利得ヲ以テ金額ヲ納メシムルモノナリ今新法ニ於テハ第二ノ方法ヲ採用シタリ

即チ罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ其金高ニ拘ハラヌ一日以上一年以下ノ期間之

ヲ勞役場ニ留置シ以テ便宜勞役ニ從事セシメ利得ヲ以テ罰金ノ幾分ニ充テシメントシタルモノトス

第二項 右ノ理由ト同シク科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ勞役場ニ留置シ勞役ニ從事セシメ利得ヲ以テ科料ノ幾分ニ充テシメントス

第三項 科料ハ之ヲ併科スルコトハ第五十三條ニ明定シタリ故ニ若シモ二個以上ノ科料ニシテ完納スルコト能ハサルトキハ留置日數ノ増加シテ不當ノ長期ト爲ルヤノ

恐レアルヲ以テ假令幾干ノ併科アルモ六十日ヲ超ユルコトヲ得セシメサルモノトス

第四項 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ裁判官ニ於テ相當ノ期間ヲ定メ完納スルコト能ハサル場合ニ執行スル爲メ言渡シ置クニアリスノ如ク爲ストキハ財産アルモノハ必ス金額ヲ納メシメ以テ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ其財産ナキ者ニ於テ初メテ留置スルコトヲ得ヘシ

第五項 罰金又ハ科料ノ裁判確定シタル後ハ必ラス之ヲ完納セシムヘク又完納スルコト能ハサルトキハ留置ノ執行ヲ爲スヘキハ當然ナルモ其目的トスル所ハ金額ヲ納付ニアレハ成ルヘク其目的ヲ達センカ爲メ尙ホ本人ノ承諾ヲ待テ留置ノ執行ヲ爲スモノトス

第六項 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其幾分ヲ納付スルコトヲ許ス其納付セシトキハ全額ト言渡サレタル留置日數トヲ比例シテ割合ヲ定メ之ヲ控除シ殘日數ヲ留置スルモノトス例ヘハ罰金二十圓ト共二十日ノ留置ヲ言渡サレタルモノアリシニ後日十圓ヲ納付シタルトキハ比例日數一日ニ對スル二圓ノ割合ヲ以テ十圓分即五日ヲ控除シ殘リ五日ノ留置ニ代ユルカ如シ

第七項 第六項ハ未タ留置セサルトキニアリ若シモ留置期間内ニ於テ幾分ヲ納メタルトキニ於テモ前項同一ノ手續ヲ爲シ留置日數ヲ短縮セシムルモノトス

第八項 留置一日ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ許サス蓋シ一日ニ滿タサル金額ヲ納ムルコトヲ許ストシ一日ニ滿タシムルトキハ納入者ハ不當ノ利得ヲ得ルコトトナリ又之ニ反シ一日ニ滿タシメサルトキハ國家カ不當ノ利ヲ得ルコト、ナルヲ以テナリ

現行刑法第二十七條ニ於テ本條ト同意味ノ條文アリ然レトモ其立法例ニ於テ現行法ハ換刑處分ヲ本トシ財産ナキモノハ自由刑ニ處セラレ獄中ニ呻吟スルニ止マリ國家ハ爲メニ經費ヲ損失スルコト、爲レリ改正法ハ之ヲ改メタルヲ以テ官民共ニ利得タルモノナリ又納完スルト否トハ本人ニ任シタル結果財産アル者モ換刑ヲ欲スル嫌アリ

テ刑ノ目的ニ反スルモ改正法ハ之ヲ改メタリ

換刑日數ハ一日ヲ一圓ト打算シタルカ目下經濟界ニ於ケル趨勢ハ當ヲ得サラシメタルヲ以テ之ヲ定メス裁判官ヲシテ事實上ニ於テ之ヲ定メシメ又期間モ二年ノ長期ハ酷ヲ失スルヲ以テ之ヲ短縮セリ其他納付手續上ニ付キ不備ヲ補ヒタルノミ

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
 - 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物
 - 三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
- 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

註 本條ハ沒收ニ關スルコトヲ規定シタリ

第一項 沒收ハ一ノ附加刑タリ犯罪人ヲシテ一ノ苦痛ヲ感セシムルモノナレハ本項列記スル物ハ何レモ之カ沒收セラルルニ於テハ犯人ハ苦痛ヲ感スルモノナリ本項ニ依レハ一乃至ノ物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ故ニ裁判所ニ於テ沒收スルモ價值ナク徒ラニ手數ノ係ル物ナルトキハ沒收ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

之レ大ニ便益ニシテ余等屢々無價物ニ對シテ宣告シタルコトヲ思ヘハ實ニ滑稽ナリトス故ニ裁判所ハ一ノ權利ト爲リ沒收スルト否トハ之ヲ隨意ニ爲スコトヲ得ヘシ左ニ各號ニ就キ分說セン

第一號 本號ハ犯罪行爲ヲ組成スル物即チ罪體タルヘキ物ナリ即チ從來唱導スル偽造又ハ變造ノ貨幣ノ如キ阿片烟ノ如キ公然陳列シタル猥褻ノ圖畫物品ノ如キ類ナリ故ニ是等ニ對シテモ亦裁判所ハ沒收スルト否トヲ撰擇セシメタリ

第二號 本號ニ於テハ犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物ナリ例ヘハ人ヲ殺スニ用ヒタル兇器ノ如キ放火ニ用キタルマツチノ如キ門戸ヲ破壞シタル鑿ノ如キ又ハ之ヲ跡越スルカ爲メノ梯子ノ如キ類ナリ而シテ供セントシタル物ヲモ包含セシメタルヲ以テ直接ニ使用セサルモ已ニ使用セントシタル物ナルトキハ沒收ス例ヘハ人ヲ殺ス爲メニ刀ヲ大小二本用意シ一本ニテ目的ヲ達セシトキハ次ノ一本ヲ使用セントシタルトキノ如キハ將ニ二本トモ沒收スルカ如シ

第三號 本號ハ犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リテ得タル物トアリ例ヘハ竊取シタル衣類金錢ノ如キ詐取シタル金品ノ如キ賄賂ニ因テ得タル物件ノ如シ之レ犯罪ニ因リテ得タル物ナリ然ルニ犯罪行爲ヨリ生シタル物トハ彼ノ從來大ニ困難ヲ感シ居リ

竊取シタル金ヲ以テ買入タル衣類ノ如キ又ハ竊取シタル衣類ヲ入質シテ得タル金ノ如キ遺失金ヲ占有シテ之ヲ交換シタル金品ノ如キ類トス

第二項 沒收ハ其物カ犯人ノ所有ニ係ルトキハ勿論ナレトモ尙ホ所有者ナキ場合又ハ所有者不明ナル場合ニ於テ之ヲ適用スルモノトス

故ニ若シ第一項列記ノ物ニシテ被害者アルカ又ハ第三者アルトキハ決シテ沒收スルコトヲ得ス其場合ニ於テハ行政處分ヲ以テ下付スヘキモノトス

終リニ禁制物ニ付テハ一ノ明文ナシ是亦一ノ行政處分ニ任シタルモノトス蓋シ元來禁制シタル物件ハ各人ノ所有又ハ占有ヲ禁シタルモノニシテ犯罪人ニ於テ毫モ苦痛ヲ與フルコトナシ故ニ行政處分ニ一任シタルヲ以テ優レルモノトス

現行刑法第四十三條及ヒ第四十四條ニ於テ沒收ノ規則ヲ爲シタリ而シテ其第四十四條ニ於テハ禁制物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收スト定メタルヲ以テ爲メニ當事者ナクシテ刑ヲ言渡サルルノ奇觀アリ又二個條ニ於テハ裁判所ノ職務トシテ命シタルヲ以テ必ラス宣告セサルヘカラサルモノナレトモ其手數ノミ多クシテ價値ナキモノ、如キハ其必要ナシ故ニ新法ハ之ヲ一ノ權利ト認メタリ又犯罪ノ用ニ供シタル物ノ如キモ狹隘ニ失スルヲ以テ尙ホ供セントシタル物ヲモ加ヘ又取得シタル物ニ付テモ亦

犯罪行為ヨリ生シタル物ヲモ加ヘ以テ沒收物ノ意義ヲ明確ニシタリ
判決例

郵便税ヲ免ルル目的ヲ以テ使用済ノ郵便端書ヲ再ヒ使用シタル時ハ其端書ハ犯用物
件トシテ沒收スヘシ(三〇、二九)

印影ヲ偽造證書ニ押捺シテ行使シタルトキハ其印類ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナリ
(三二、一〇、一一〇)

沒收スヘキ物件ノ存在ト其事由トカ審理上明白ナルトキハ假令其物件カ公廷ニ形ハ
レサルモ之ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲スヲ妨ケス(三六、一〇、一九)

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非
サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル
物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

註 本條ハ拘留又ハ科料ノ場合ニ於ケル沒收及ヒ其例外ヲ示ス

拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ハ事態輕微ナルヲ以テ此種ノ罪ノ犯人ニ對シテハ常ニ沒
收例ヲ適用スル必要ナシ故ニ特別ノ規定アルモノヲ除外ハ沒收ヲ科セサルモノト
爲シタリ尤トモ前條第一號ノ物ニ付テハ之ヲ例外トシタリ之レ其物ノ性質上ニ於テ

又罪體ヲ爲スニ於テ寬宥セシムルコト能ハサル物ナレハナリ

現行刑法ニ於テハ本條ノ意味ヲ規定セズ新法ハ其不備ヲ補ヒタリ

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ヘ算入スルコ
トヲ得

註 本條ハ未決拘留ノ日數ヲ本刑ニ算入スルニ付テノ規定トス

未決拘留ト雖モ自由ヲ拘束セラルルモノナリ然レトモ全然之ヲ本刑ニスルトキハ或
ハ本刑ヨリ長クナルヘキ場合ヲ生シ刑罰ノ主旨ニ反スルコトアルヘキヲ以テ之ヲ裁
判官ニ任シ以テ時宜ニ應シ處置セシム

現行刑法第五十一條ニ於テ新法ノ意味ノ幾部ヲ規定シタルヲ見ルモ皆上訴ニ係ル場合
ノミ本條ハ敢テ上訴スルト否トニ拘ラス本刑ニ算入セラルルコト、ヲ得ルニ至リ大
ニ犯人ノ利益トナルヘシ

第二章 期間計算

註 本章ハ期間ヲ計算スル方法手續ヲ規定ス

期間計算トハ苟モ刑法上ノ期間ナルトキハ之ニ依リテ總テ計算スルコトヲ示シタリ

故ニ刑期ノミナラス時効ノ如キモ亦本章ニ依テ計算スルモノトス
現行刑法第一編第二章第五節ニ刑期計算ト題シタリ故ニ刑期ノミノ用ニ供シタルモノ
ト云フヘクシテ時効ノ如キハ之ニ依ルコト能ハサルノ感アリ故ニ新法ノ如ク改メタ
リ

第二十二條 期間ヲ定ムル二月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒ テ之ヲ計算ス

本條ハ月及ヒ年ノ計算方法ヲ規定ス

月又ハ年ヲ以テ期間ヲ計算スルニハ曆ニ依ルトアルヲ以テ月ノ大小又ハ閏月ヲ問ハ
ス何レモ年ト共ニ其日ヨリ翌月又ハ翌年ノ前日マテヲ計算スヘキモノトス例ヘハ明
治四十年二月一日ニ一月ノ刑ヲ受ケタルトキハ同年三月三十一日ヲ以テ終ルヘク又
同日ニ二年ノ期間ヲ計算セントセハ明治四十二年一月三十一日ヲ以テ終ル類ナリ
現行刑法第四十九條ニ於テハ一月ヲ三十日ト限定シタリシモ月ノ大小平閏アリテ或ハ
不利ヲ來タスカ爲メ二年ト同シク曆ニ從ハシメタリ又一日ニ付テハ二十四時ト限定
シタリシモ是ハ別ニ規定ヲ待タスシテ明瞭ナレハ爭フコトナシ故ニ之ヲ削除セリ

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

本條ハ刑期ノ起算點及ヒ拘禁セラサル日數ノ算入方法ヲ規定シタリ

第一項 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スト定メタリ蓋シ社會ノ刑罰權カ發生スルハ
正ニ裁判確定シタル日ナリ故ニ刑期ハ確定ノ日ヲ以テ起算點トナシタリ
本項ニ依レハ被告人ニ於テ上訴ヲ爲スモ亦檢事ニ於テ上訴ヲ爲スモ又何レカ上訴ノ
當不當ナルヲ問ハス等シク裁判確定ノ日ト爲シタリ實ニ改正ノ主旨ハ其當ヲ得タル
モノトス

第二項 上訴中又ハ其他ニ於テ拘禁セラレサル日數モ亦刑期ニ算入セス前項說キタ
ルカ如ク上訴ヲ名トシテ刑期ヲ短カクシ又ハ僥倖ニモ免レントスル輩アルヲ以テナ
リ殊ニ拘禁セラレハ刑罰權ハ未タ執行セラレサルニアレハ此點ヨリシテモ必ラス刑
期ニ算入セサルヘキハ至當トス

現行刑法第五十條第五十一條ニ夫々規定アリ其第五十條ノ如キハ敢テ明文ヲ待タサレ
ハ之ヲ削除シ第五十一條ニ於テハ刑名宣告ノ日ヨリ計算シテ上訴アルトキハ大ニ刑
期ノ利益ヲ與ヘタリ故ニ犯人ハ上訴ヲナシテ萬一ヲ僥倖セントシ爲メニ上訴ノ數甚
タ多ク且夫カ爲メニ苦役ヲ免レントシタリ改正法ハ此弊害ヲ防遏シ苟モ拘禁セラ

日ハ其理由ヲ問ハス總テ刑期ニ算入セサルヲ以テ正當トシ從來ノ弊害ヲ矯正スヘキヲ期シタリ

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時
效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

註 本條ハ受刑ノ初日及ヒ放免ノ日ヲ規定ス

第一項 受刑ノ初日ハ或ハ午前又ハ午後ナルヲ以テ之カ時間ニ依リテ一日ヲ計算スルトキハ錯雜ヲ生スルニ依リ假令其時間ニ多少ヲ生スルモ受刑者ノ利益ノ爲メニ其日ヲ一日ニ計算ス又時効期間モ亦前同一ノ理由ニ依リ一日ニ計算スルモノトス

第二項 放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フハ蓋シ計算上夜十二時ヲ以テ刑期ノ滿期ト爲ルモ之ヲ夜ニ於テ放免スルコトハ行ハレス殊ニ受刑ノ日ニ於テ多少不足ナルニ拘ハラス全一日ト爲シアレハ放免ノ日ハ其翌日即チ滿期ノ翌日之ヲ行フモ決シテ受刑者ニ不利益ヲ與フルカ如キコトハナカルヘシ之レ第二項ヲ設ケタル所以ナリ
現行刑法第四十九條第二項ヲ修正シタルモノニシテ且時効期間ノ初日ノ計算ニ關スル規定ヲ新設セルモノナリ

現行法ハ放免ノ日ハ刑期ニ算入セスト謂ヒ改正法ハ放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フトシタリ併シ是唯文字ノ修正ノミニシテ其趣旨ハ少シモ異ナルコトナク現行法ニ於テモ終了ノ翌日放免スルニアレハナリ

第四章 刑ノ執行猶豫

註 本章ハ刑ノ執行猶豫ノコトヲ規定セリ

刑ノ執行猶豫トハ或ル有期刑ノ言渡ヲ受ケタル者カ情狀ニ依リ其刑ノ執行ヲ或ル期間猶豫スルヲ云フ

已ニ卷首犯罪ノ原因ヲ説クニ當リ犯人ノ身上モ犯罪原因ノ一ナルコト及ヒ其原因ハ遺傳性、慣行性及ヒ偶發性ニ因ルヘキコトヲモ説キタリ
而シテ他ハ暫ク措キ偶發性ノ犯罪ハ實ニ一時全ク不良心ノ偶發シタルモノニシテ所謂一時ノ出來心ヨリ生シタルモノナレハ之ニ適當ナル救治方法アルトキハ改過遷善ノ效アルモノナリ所謂可治ノ犯人ニシテ懲戒的方法ニ依リテ改悛セシメサルヘカラス是故ニ從來刑ノ執行猶豫ヲ規定シテ單行令トシテ發布シ之カ實地ニ試ミタルニ大ニ其結果ノ良好ヲ見ルニ至レリ

元來偶發性ノ犯人ヲシテ彼ノ他性ノ如キ奸惡ナル輩ト其ニ同一ノ獄舎ニ投スルトキ

ハ彼ノ監獄ハ犯罪研究所ノ如ク云ヒツ、アル場所ナレハ他性ノ犯人ノ教化ニヨリテ却テ犯罪術ニ長スルノ恐レアリ已ニ初犯者ニシテ實ニ斯ノ如キ現象ヲ顯シタル事實ヲ視ル左レハ刑ノ執行猶豫ニシテ一時行ハレタルヤ大ニ此患ヲ除キ改過遷善ノ途ニ傾向シ來リタリ今ヤ刑法ヲ改正スルニ際シ單行律ヲ擧ケテ茲ニ移シ且刑法改正ノ各條及ヒ其主旨ニ基キ之ヲ修正シ列記シタリ

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

註 本條ハ執行猶豫ヲ得ヘキ者及ヒ要件ヲ規定シタリ
刑ノ執行猶豫ヲ受クヘキ場合ハ左ノ條件ヲ具備セサルヘカラス

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取

- 一 二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルモノ
 - 二 裁判確定シタルモノ
- 而シテ之ヲ受クヘキ資格ハ左ノ條件ヲ具備セサルヘカラス
- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキモノ
 - 二 假令前號ノ刑ニ處セラレタルコトアリトスルモ已ニ執行ヲ終リタル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキモノ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキモノ
- 以上ノ各條件具備スル上ニ於テ情狀ヲ斟酌シ一年以上五年以下ノ期間ヲ定メ其期間内刑ノ執行ヲ猶豫スルニアリトス蓋シ初犯ナルカ又ハ假令累犯ナルモ或ル年限ヲ經過シテ其間惡事ヲ再ヒセサルハ其素行ヲ慎ミタル者ヲ認メタルニ外ナラス
- 罰金ニ關シテハ執行猶豫ナキハ如何ト云フモノアレトモ元來執行猶豫ハ不可治ノ犯人ト共ニ爲サスシテ良心ニ復サシムル主旨ナリ然ルニ罰金ハ監獄ニ入ルコトナケルハ監内ニ於ケル犯行ノ習性ヲ養成セラルルノ虞ナク從テ自暴自棄ノ念ヲ發シ罪ヲ累スルカ如キ結果ナシト認メタルカ故ナリ

消ス可シ

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

註 本條ハ刑ノ執行猶豫ヲ取消スヘキ場合ヲ規定シタリ

前條ニ於テ述ヘタルカ如ク刑ノ執行猶豫ヲ爲スヘキ場合ハ一々要件ヲ具備セサルヘカラス故ニ其要件ニ反スルトキハ之ヲ取消スヘキハ至當トス

第一號 前條ノ如ク或ル期間内執行ヲ猶豫セラレツ、アル間ニ於テ更ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ而シテ特ニ禁錮以上トシタルハ罰金ノ刑ハ元來刑ノ執行猶豫ヲ與ヘサルモノナレハナリ

第二號 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキニシテ已ニ猶豫ノ言渡前ニ於テ未タ發覺シアラサルモノナリトス

第三號 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ即チ猶豫ノ言渡後ニ於テ前條第二號ノ要件ヲ具備セサル者ナルコト發覺シタルコト

以上三個ノ原由中ノ一アル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキモノトス蓋シ前條ノ如ク是等ノモノニ對シテハ決シテ猶豫ヲ與フヘキ必要ナケレハナリ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

註 本條ハ刑ノ執行猶豫ノ效力ヲ規定シタリ

刑ノ執行猶豫ノ效力ニ關シテハ立法主義ニ二個アリ

- 一 ハ刑ノ效力ヲ消滅セシムルモノ
- 一 ハ刑ノ執行ノミヲ免除スルモノ

是ナリ而シテ本條ハ第一ノ立法主義ヲ採用シタリ故ニ刑ノ執行猶豫ノ期間ヲ無事ニ經過シタルトキハ全ク無垢ノ人ト爲ルヘシ

論者或ハ曰ク若シモ斯ノ如ク無垢ノ人タルコト、爲リシモノトセンカ刑ノ執行猶豫ヲ受クルコト能ハサル罰金ノ刑ノ如キハ其刑ノ性質輕キモノニモ拘ラス此恩典ニ浴

スルコト能ハスシテ比較的不幸ノ身トナルヘシ故ニ第二ノ主義ヲ以テ正當トシ已ニ前年ノ議會ニ於テ提出セル第一ノ草案(即チ明治三十五年ニ提出セシ分)ノ如キハ第二ノ主義ヲ採リ只刑ノ執行ヲ免除ストシタリト或ハ當時斯ノ如キ草案モ有リシナラシ然レトモ已ニ刑ノ執行猶豫ヲ受ケ其期間他ニ一モ犯罪セサルハ實ニ其當時ノ犯罪ハ偶發性ニシテ決シテ社會ヲ故ラニ害スル意ナク所謂全クノ出來心ナルコトヲ示スモノナリ然ルニ尙ホ刑ノ言渡ヲ存スルトセハ其人ハ刑餘ノ人タルコトハ決シテ消滅セサルヘシ本人ノ意ニ於テハ改悛ノ結果無垢人タランコトヲ欲スルニアリ又罰金ノ刑ノ如キ刑其モノニ於テ決シテ他ノ禁錮以上ノ刑ノ如キ人ノ厭フヘキモノニアラス各本條ニ示スカ如ク何レモ其性質實ニ恕スヘキモノナリ是ト彼トハ比スヘキニアラス故ニ改正刑法ヲ以テ最モ適シタルモノト云ハサルヘカラス

第五章 假出獄

本條ハ假出獄ノコトヲ規定シタリ

假出獄トハ未タ刑期ヲ終ラサル犯罪人ヲ出獄セシメ或ル條件ヲ定メテ自由ニ生活ヲ爲サシムル制度ナリ

元來假出獄ヲ設クルニ付テハ原因アリ左ノ如シ

- 第一 犯罪人ヲシテ過ヲ改メ善ニ遷ラシムルノ政策ナリ彼等ハ獄ヲ出ラントスル念ハ始終之ヲ離レス故ニ此制ヲ設クルトキハ獄外ノ生活ヲ營ムコトヲ得改心ノ上改心ヲ爲サハ已ニ利アルコトヲ知り自新ヲ促シ一旦假出獄ヲ許サハ再ヒ獄ニ入ラサラシメ再ヒ惡事ヲ爲サスト悔悟セン之レ即チ改過遷善ヲ獎勵スルニアリ
- 第二 假出獄ハ獄舎生活ヨリ普通生活ニ移ルノ豫備ヲ爲サシムル益アリ元來永ク獄内ニアリテ勞働スルモノハ其生活ハ慣例トナリ一朝放免セララルトキハ自由ノ境遇ニ卒然變シ久シク苦楚艱難ニ局促セシモノ其反動ヨリシテ却テ放逸無賴ト爲リ終ニ自活ノ途ヲ失ヒ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルヘシ故ニ普通生活ニ移ルニ先チ試ミニ半ハ自由ナル生活ヲ爲サシムルハ大ニ將來ノ弊害ヲ豫防スル效力アリトス
- 第三 假出獄ノ制ハ監獄費ヲ節減シ人民ノ負擔ヲ輕カラシムルノ利益アリ以上ノ理由ニ依リ此制度ヲ設ケタリシモ之ヲ濫用スルトキハ大ニ弊害ヲ來タスニアレハ當路者ハ注意ヲ要スルニアリ
- 第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期徒刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期徒刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

本條ハ假出獄ノ條件ヲ規定シタリ

抑モ假出獄ヲ許スト否トハ行政官廳ノ處分ナリ而シテ假出獄ヲ許スニ付テハ左ノ條件ヲ具備セサルヘカラス

- 一、懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ナルコト
- 二、改悛ノ狀アルトキ

是ナリ而シテ其有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後ナルコトヲ必要トス

現行刑法第五十三條ニ依レハ獄則ヲ遵守シ悛改ノ狀アル時トアリテ此二條件ヲ必要ト

シタリシカ新法ニ於テハ獄則ヲ遵守スル一條件ヲ削除シタリ蓋シ改悛ノ狀アルハ畢竟獄則ヲ遵守スルノ結果ナレハ別ニ一條件トスルノ必要ナキヲ以テノ故ナリ

又有期刑ニ於テハ刑期ノ四分ノ三トシ無期刑ニ於テハ十五年ヲ經過シタル後トアリ而シテ新法ハ之ヲ長シトシ一ヲ三分一トシ一ヲ十年トシタリ蓋シ已ニ改悛ノ狀アル

モノト認ムル以上ハ斯ノ如ク長クスルニ及ハサルカ故ナリ其長キハ却テ囚人ヲシテ自暴自棄ノ弊ニ陷ラシメタルニ過キサルナリ

判決例

上訴中ノ保釋日數ハ之ヲ刑期ニ算入スヘキモノニ非ス(三二、一〇、二七)

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコ

トヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

本條ハ假出獄處分ヲ取消スヘキ場合ヲ規定シタリ

第一項 本項ハ假出獄ノ處分ヲ取消スヘキ理由ヲ列記シタリ

第一號 假出獄ハ條件附放免ニシテ改悛ノ狀アルヲ認メタリ然ルニ其處分中更ニ罰金以上ノ刑ニ處セラルルハ決シテ改悛ノ實ヲ示シタルモノニアラスシテ却テ改悛

セス改悛ハ一時出獄ノ假面ヲ爲シタルニアリ故ニ之ヲ取消スハ當然トス

第二號 已ニ第一號ニ於テ假出獄ヲ取消ス以上ハ本號ノ場合ニ於テモ之ヲ取消スヘキハ亦當然トス

第三號 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレ其刑ヲ執行スヘキ者ニ付テハ後ノ刑ニ付キ假出獄ヲ許スヘキ理由ナケレハナリ

第四號 本號ニ依レハ假出獄取締規則ノ制定ヲ爲スヘキヲ豫想セリ故ニ其取締規則ニ違背シタルモノハ之ヲ取消スヘキハ是亦至當ナリトス

第二項 第一項ノ原由ニ因リ假出獄ヲ取消シタルトキハ其出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セシメサルモノトス蓋シ當然ニシテ假出獄ヲ爲サシムヘキモノニアラサレハ之ヲ消滅セシムルハ至當タリ

現行刑法第五十六條ニ依レハ單ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ニ付テノミ規定シタレトモ他原由アルコト本條ノ如クナレハ之ヲ修正シタルニアリトス

第二十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦

同シ

本條ハ拘留者及ヒ留置者ニ付テノ出場スル場合ヲ規定ス

第一項 已ニ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルモノニ付テハ情狀ニ因リ刑ノ執行猶豫ヲ爲シ又改悛ノ狀アル者ニ付テハ假出獄ノ處分ヲ許スモノナリ然ルニ輕キ拘留ニ處セラレタル者ニ在テハ斯ノ如キ恩典ヲ與ヘサルハ實ニ不權衡ニシテ且少シク酷ナレハ本項ノ如ク何時ニテモ假ニ出場スルコトヲ得セシメタリ而シテ此場合ニ於テモ尙ホ情狀ニ因ルコトハ必要條件ナリトス

第二項 第一項ト同一ノ理由ニ基キ罰金又ハ科料ヲ完納セスシテ留置ノ處分ヲ受ケタル者ニ付テモ亦同一ナリトス

第六章 時効

本章ハ時効ノコトヲ規定シタリ

時効トハ時ノ經過ニ因リテ效力ヲ爲ストノ意ナリ即チ民法上ニ用ユル時効ト其意味相同シ

現行刑法第一編第二章第七節ニ於テハ期滿免除ト題セリ其意義時効ト異ナルコトナシ唯時効ノ語ハ民法其他ノ法令ニ於テ成語ト爲ルヲ以テ之ヲ採用シタルニ外ナラス

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

■ 本條ハ時効ニ因リテ刑ノ執行ノ免除ヲ得ヘキコトヲ規定シタリ

一旦裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其刑ハ記録ニ止マリ保存シテ假令幾百年ヲ經過スルモ消滅スヘキ理由ナシ又決シテ遺忘スルコトナシ然レトモ刑ノ執行ニ付テハ一定ノ期間ヲ經過スレハ社會ニ於テ犯罪事實ヲ遺忘シ其結果刑ノ執行ヲ必要トセサルコトアルヘシ若シモ時効ノ制度ヲ廢止シテ一旦刑ノ言渡ヲ受ケタルモノハ幾百年ヲ經過スルモ尙ホ刑ノ執行ヲ受ケシムルモノトセンカ却テ世人ハ之ヲ憫ミ法ノ尊ムヘキヲ感セス威信ヲ忘レテ却テ之ヲ嫌惡スルノ情ヲ生ス之レ時効ノ制度ヲ設ケタル所以ナリ

尙ホ一言注意スヘキハ本條ニ明記スルカ如ク時効ハ刑其モノヲ免除スルニアラスシテ刑ノ執行ヲ免除スルモノナリ故ニ假令ハ人ヲ殺シタルモノ已ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタルモ已ニ三十年ヲ經過シタル今日其犯人ヲ逮捕シタリトスルモ其犯人ハ矢張死刑ノ宣告ヲ受ケタル囚人ナリ只其囚人ヲ絞首セサルノミ全ク無垢ノ人トナルニハアラサルコトヲ記憶セサルヘカラス

現行刑法第五十八條ト同一ノ趣旨トス

第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケ

サルニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未満ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

■ 本條ハ時効ノ期間ヲ定メタリ

時効ハ刑ノ言渡確定シタル後本條列記ノ各刑ニ對スル各期間内其執行ヲ免レタルトキニ完成スルモノトス即チ其期間ノ滿了ヲ以テ時効ヲ取得シ刑ノ執行ヲ免除セララルモノトス

本條列記スルカ如ク其刑罰ニ依リテ期間ヲ異ニシタルハ抑モ犯人ハ悉ク同一種類ノ者ニアラス或ハ營業的ノモノアリ或ハ偶然的ノモノアリ隨テ其刑罰ニ付テモ或ハ重

ク或ハ輕キモノヲ生ス社會ニ於テモ偶然的ノ犯人ニ對シテハ深ク之ヲ惡マサルモ慣行的ノ犯人ニ對シテハ社會ハ最モ深ク之ヲ恐ル故ニ慣行的ノ犯人ニ對シテハ遺忘スルコト永ク時日ヲ要スヘク偶然的ノモノ、如キハ遺忘スルコト速シ故ニ其期間ヲ設クルニ付テモ亦社會ノ危險ヲ去ル時期ノ程度ヲ斟酌シテ期間ヲ定メサルヘカラス之レ本條列記ノ如ク其刑罰ノ種類ニ依リテ時効ノ期間ニ長短アル所以ナリ

時効ハ刑ノ執行權ヲ免除スルモノナレハ必ラス執行スヘキ必要アル刑罰ナラサルヘカラサルヲ以テ刑ノ確定前ニハ之ヲ適用セシムサルニアリ而シテ本條列記ノ刑ハ何レモ執行スヘキモノナレハナリ

罰金科料及ヒ沒收ニ付テハ刑ノ執行上他ノ自由刑ト異ナルヲ以テ之ニ時効ヲ與フルハ如何トノ論アリト雖モ是等ノ刑モ已ニ確定セル以上ハ一ノ債權ニシテ政府ハ債權者ノ地位ヲ有ス已ニ一ノ債權トスレハ民法上ニ於テモ時効ヲ認ムルト同シク刑法上モ亦之ヲ認ムルモ決シテ不當ニアラサルナリ

現行刑法第五十九條ト同一ニシテ只其異ナルハ期間ニ長短アルノミ蓋シ刑期ノ範圍ヲ擴張セシ結果ニ伴フモノアリ又ハ現行法ニ於テ長キニ失スルモノアリテ然ルノミ

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

間内ハ進行セス

本條ハ執行猶豫ヲ受ケ又ハ執行ノ停止シタル場合ニ於ケル時効ノ進行ヲ定ム

元來時効ハ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ノ爲メニ之ヲ設ケタルモノナリ故ニ本條ノ如ク法令ニ依リテ正當ニ其執行ヲ免レタル日數ノ如キハ時効ノ期間ニ算入スルコトヲ得サルモノトス左レハ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタルモノ又ハ假出獄ノ爲メ出獄シタル日數ノ如キハ之ヲ算入セサルモノトス

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

本條ハ時効ノ中斷ヲ爲ス場合ヲ規定ス

第一項 時効ノ中斷ハ刑ノ執行ノ爲メニ犯人ヲ逮捕シタルニ因リテ生ス故ニ假令ハ無期ノ懲役ニ處セラレタルモノカ逃走シテ十年ノ後逮捕セラレタルトキハ既往ノ十年ハ消滅シ了スルモノナレハ再ヒ時効ヲ得ントセハ再ヒ逃亡シテ更ニ二十年ヲ經過

セサルヘカラス然レトモ其犯人ノ逮捕カ刑ノ執行ニ付テノ爲メナラサルヘカラス故ニ逮捕狀ニ依リテ逮捕セラルルカ又ハ然ラサルモ已ニ逃走シタル犯人ニシテ常ニ其筋ノ注目ニ依リテ逮捕セラレタルトキナラサルヘカラス左レハ懲役ノ犯人トハ知ラスシテ一時他ノ嫌疑上逮捕セラレ疑晴レテ放免セラルルトキノ如キハ其期間ハ前後通算セラルルモノトス

第二項 罰金料及ヒ沒收ニ付テハ何レモ財産ヲ徵收スヘキモノナレハ此等ノ刑ニシテ若シ其全數ヲ分チ數回ニ分納セシメントセハ未タ完納セサル前已ニ時効ノ成就スル虞アルヲ以テ本項ノ如ク刑ノ執行行爲ニ因リテ中斷セシメ從テ時効ハ常ニ最後ノ執行行爲ヨリ更ニ其進行ヲ始ムヘキモノトシタルナリ

現行刑法第六十一條及ヒ第六十二條ノ規定ト同一ノ意味ナリ只缺席裁判ニ係ル場合ヲ規定セス又逮捕狀ヲ發布シタルコトヲ云ハサルノミ蓋シ逮捕狀發布ノミトスルトキハ少シク狹隘トナルヘシ又缺席裁判ニ付テハ規定ナキモ开ハ當然ナリ何ントナレハ時効ハ新法第三十二條ノ如ク刑ノ言渡確定シタル後ニアラサハ進行セサルモノナリ缺席判決ハ決シテ刑ノ言渡確定シタルモノニアラスシテ公訴中ノモノナリ其公訴中ノモノニ對シテ時効ヲ與フルハ實ニ不當トス現行刑法ハ已ニ缺席判決ニ付テハ特

例ヲ設ケタリト雖モ新法之ヲ設ケサル以上ハ原則ニ從ヒ缺席裁判ヲ受ケタルモノハ刑ノ時効ヲ得ルコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス併シナカラハ缺席裁判ハ訴訟手續法ニ依リテ故障期間ヲ與ヘタリ其故障期間ヲ經過シタルトキハ其缺席裁判ハ確定シタルモノト看做サ、ルヘカラス已ニ缺席裁判ニシテ確定シタリトセンカ其時ヨリ新法第三十二條ハ適用セラルヘク又從テ第三十四條ノ如ク缺席裁判ノ刑ノ執行ノ爲メ犯人ヲ逮捕スルノ手續ヲ盡スナルヘシ夫レ斯ノ如ク解スルトキハ特ニ缺席裁判ニ付キ明文ヲ載セスト雖モ本章全體ヲ適用シテ何ソ不可アラン暫ラク記シテ讀者ノ教ヲ乞ハントス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

註 本章ハ犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免ヲ規定シタリ

抑モ犯罪ノ不成立トハ犯罪ノ事實アルモ之ヲ犯罪ト爲サ、ルモノヲ云フ即チ換言スレハ形式上犯罪事實アルモ之カ罪ト爲ラサル場合ナリ即チ第三十五條ノ如キ第三十六條第一項ノ如キ其他法文上「罰セス」ト明記セルモノ皆此類ニ屬ス又刑ノ減免トハ形式上犯罪事實アリ而シテ又其實質ハ犯罪トシテ當然刑罰ヲ加フヘキモノナレトモ或ル情狀ノ爲メニ刑ヲ減輕シ若クハ免除スルヲ云フ即チ第三十六條

第二項ノ如キ其他法文上刑ヲ減輕又ハ免除スト明記シタルモノ皆此類ニ屬ス
 今本章ニ於テハ斯ノ如ク二個ノ場合ヲ包含セシメテ規定シタリ其詳細ハ各本條ニ入
 リテ説述セン

終リニ臨ミ本章ハ犯罪ノ責任ニ關係スルモノナリ故ニ其責任ノ如何ヲ論スルニ先チ
 刑法ノ及フヘキ區域ヲ一言セサルヘカラス即チ刑法ハ如何ナル物ニ及フカ又其例外
 アルヤ否ヲ略述セントス

故ニ犯罪ノ主體及ヒ客體、責任ノ原則及ヒ例外ニ付テ一斑ヲ示サン

第一 犯罪ノ主體

元來犯罪ノ事實ヲ行フテ其責任ヲ負フニ付テハ必ラス智識ト自由トヲ具ヘタル者ノ
 意思ヨリ出ツルコトヲ必要トスルハ當然タリ今此二原素ヲ具フルモノハ天地間ニ在
 テハ吾人人類ニ外ナラス左レハ犯罪ヲ爲シ而シテ犯罪ノ責任ヲ負フハ吾人人類ナリ
 ト云ハサルヘカラス

民法上ニ於テハ人ニ二種アリトシ自然人ト法人ト是ナリ自然人トハ吾人人類ノ如ク
 造化ノ妙用ニヨリテ母ノ胎内ヨリ生出シタルモノニシテ法人トハ法令ノ規定ニヨリ
 認めテ人類ト同一ノ權義ヲ有セシムルモノナリ即チ公法人トシテハ國縣郡市町村ノ

如キ私法人トシテハ會社ノ如シ

然シテ此二種ノ人ハ皆刑法上ノ責任ヲ負フヘキヤト云フニ法人ノ如キハ無形ノ人ナ
 レハ決シテ犯罪上ノ責任ヲ負フヘキ能力ナキモノナリ然レトモ法人ハ自ラ活動スル
 ニアラスシテ法人ヲ組織スル人法人ヲ代表シテ活動スル人自ラニ於テ責ヲ負フコト
 アルヘシ此場合ニ於テハ犯罪ハ法人ニアラスシテ其實際ニ當リタル人ニ於テ責任ヲ
 負フヘキモノトス尤トモ民事上ノ責任ニ付テハ法人ノ權義内ナルトキハ假令自ラ衝
 ニ當リタル活動者ニ於テ之ヲ爲スモ法人自體ニ於テ其責ヲ負フヘキモノトシタリ
 以上刑法上ニ在テハ實體ノ人ヲ以テ責任ヲ負ハシムルモノナリ決シテ假想的ノ人ニ
 對シテハ責任ヲ負ハシメサルヲ以テ原則トス即チ刑法ハ常ニ事實ヲ目的トスルモノ
 ナレハナリ

第二 犯罪ノ客體

犯罪ノ客體タルニハ犯罪ノ責任ヲ負フヘキ能力即チ犯罪ノ主體タル能力ヲ有セサル
 モノナリ換言スレハ人タル一條件ヲ有スルトキハ皆犯罪ノ客體ト爲リ老幼男女内外
 國人ノ區別アルコトナシ殊ニ之ヲ延長シテ人トナルヘキ胎内ニアル者又ハ死シテ人
 タル機能ノ働キヲ止メタル者ニ於テモ亦客體タルヲ失ハス彼ノ墮胎罪ノ如キ墳墓發

掘罪ノ如シ

八十六

次ニ法人ハ如何ト云フニ法人ハ自ラ活動スルコト能ハサル人ナレハ犯罪ノ主體トナル能力ナキコトハ前段已ニ説述シタリト雖モ其犯罪ノ客體タルコトハ毫モ疑ナキ所ナリ何トナレハ法人ハ法令ニ於テ人類ト同シク財産ヲ所有シ權利義務ヲ有シ其法律上認メタル範圍内ニ於テハ吾人人類ト同一ナリ果シテ然ラハ吾人カ他ヨリ侵害セラレルト同シク法人モ亦侵害セラルルコトアルヘシ例ヘハ吾人所有ノ家屋ニ放火セラ、ト同シク會社所有ノ建物ヲ燒燬セラル、コトアルヘシ故ニ法人ハ犯罪ノ客體タルコトヲ得ヘシ

人以外ノ物體ニ付テハ其生命アルモノト否トヲ問ハス決シテ客體タルコトヲ得ス只此等ノ物ハ犯罪ノ目的タルコトヲ得ルノミ彼ノ現行刑法ニ於ケル牛馬、家畜ヲ殺シタル罪ノ如シ或ハ之ヲ稱シテ犯罪ノ客體タリト云フモノアラシ然レトモ其主旨トスル所ハ家畜ノ所有權ヲ安全ナラシムルニアリ又今日唱導スル獸類虐待ノ罪ノ如キモ決シテ獸類ニ對シテ生命ノ保存權ヲ與ヘタルニアラスシテ公然虐待スルハ善良ノ風俗ヲ維持スル點ヨリ罰セントスルニアリ敢テ混同ナキヲ要ス

尙ホ禮拜所ニ對スル不敬罪ニ於テモ亦同様ニシテ決シテ神祠佛堂ナリ其内ニ安置ス

ル神靈又ハ佛像ニ對シテ保護スルノ主旨ニアラサルヘシ其主旨トスル所ハ我國ノ美風良俗ハ神ヲ敬シ佛ヲ崇ル等國家ノ治安ヲ維持スルニ於テ必要ノ具ナリ此美風良俗タル國民ノ敬崇心ノ發達ヲ妨害スルヲ以テ之ヲ防止センカ爲ニシテ決シテ神靈佛像ヲシテ犯罪ノ客體ト爲スニハアラサルナリ

第三 責任ノ原則

凡テノ責任ハ自己ノ意思ヨリ出テ、爲シタル所爲ニアラサレハ負フヘキモノニアラス蓋シ人ノ意思ハ精神ヨリ出テ精神ハ人生凡百ノ行爲ヲ左右スルノ力アルモノナレハ其力ニ因ラスシテ爲シタル行爲ハ自己ノ行爲ナリト云フヲ得サルナリ左レハ天地間ニ於テ有機物無機物ヲ問ハス他力ニヨリテ制セラレ而シテ後爲シタル行爲ハ如何ナル行爲ト雖モ其責ニ任スヘキモノニアラサルナリ例ヘハ樹木ノ枝風ノ爲メニ倒レテ人ヲ殺傷シタリトセンカ其枝決シテ殺傷ノ責任者ニアラス其枝ヲ倒シタル風モ亦責任者ニアラス漸次之ヲ溯リテ研究スルトキハ造物者ノ爲メニ強制セラレタルモノニ外ナラサレハ何物モ其責ニ任スヘキモノニアラス然ラハ自由ノ意思ヲ有スルモノニアラサレハ其爲シタル行爲ニ付キ其責任ヲ負ハシムルコト能ハザレハナリ

然レトモ其自由ノ意思モ亦是非ノ辨別ヲ判斷スルモノナラサルヘカラス故ニ其行爲

八十七

第一編總則 第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

ニシテ是非ノ辨別ナキトキハ其行爲ニ對シテ責任ナキモノナリ善事ヲ爲セハ善ト爲
リ惡事ヲ爲セハ惡トナル等其行爲ニシテ其結果ヲ識別スル智識ヲ有セサレハ自ラ其
行爲ヲ爲サ、ルト同一ニシテ其行爲ノ結果ニ付キ責ニ任スヘキニアラス左レハ今有
機體無機體ニシテ自己ノ爲シタル行爲ニ付キ是非ノ辨別ヲ分ツヘキ智識ナキ者ハ其
行爲ノ結果カ是非カ之ヲ知ル能力ナキヲ以テ何レニシテモ其責任ヲ負フコトヲ得
サルナリ例ヘハ山中ノ野猪來リテ人ヲ嚙殺ストセンカ野猪ハ自由ナルモノナリ又他
力ノ強制ニ因ラサルモノナリ然レトモ人ヲ殺スノ是非ニ至リテハ決シテ辨別アルモ
ノニアラサルナリ故ニ野猪ニ對シテハ其責ヲ負ハシムルコト能ハサルナリ然レハ其
行爲ニ付キ責任ヲ負ハサントスルハ自由ノ意思アリテ而シテ其意思カ是非善惡ヲ辨
別スル智識アル意思ヲ有スル者ナラサルヘカラス
以上ノ如ク責任者ハ必ラス自由ノ意思ト智識ノ意思トアルモノナラサルヘカラサル
モ刑法上ノ責任ヲ負ハシムルニ付テハ尙ホ犯罪ヲ爲スモノナラサルヲ得ス故ニ今犯
罪人トシテ刑法上ノ責ヲ負フヘキモノハ自由ト智識トノ意思ヲ有シ且犯罪行爲ヲ爲
シタルモノナリトス

第四 責任ノ例外

已ニ前段略述スルカ如ク犯罪ノ責任者ハ法令上ノ犯罪行爲ヲ爲シタル自由ト智識ノ
意思アルモノナレトモ其條件ヲ欠クトキハ全然其責ヲ負ハスコト能ハサル場合ヲ生
ス之レ責任ノ例外アル所以ナリ

責任ノ例外ニハ權利ノ執行ト犯罪ノ無能力トアリ其權利ノ執行トハ犯罪ノ事實アリ
トスルモ權利ノ執行ニ屬シ全ク形體上ノ要素ヲ欠クモノヲ云ヒ犯罪ノ無能力トハ犯
罪ノ事實ヲ行フモ之ヲ行フノ意思ヲ有セサルモノヲ云フ尙ホ之ヲ細別スルトキハ

法令及ヒ業務行爲 (第三十五條)
權利ノ執行
正當防衛 (第三十六條)

強制 (第三十七條)

無犯意 (第三十八條)

精神喪失 (第三十九條及ヒ第四十條)

年齡 (第四十一條)

トス各本條ニ於テ詳述セントス

現行刑法ニ於テ第一編第四章ニ不論罪及ヒ減輕ト題シ三節ヲ設ケタリシカ改正法ハ其
内第三節ヲ除キ之ヲ修正シ其題ヲ本章ノ如ク改メタリ

尙ホ現行刑法第三編第一章第三節ノ正當防衛ニ關スルモノハ總則ニ於テ規定スルモノナルヲ以テ之ヲ本章ニ移シタルモノトス

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

本條ハ責任ノ例外ノ一ナル權利ノ執行ノ第一ヲ規定シタリ

本條ハ左ノ二個ノ問題ヲ規定シタリ

- 一 法令ニ因リ爲シタル行爲
- 二 正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲

一 法令ニ因リ爲シタル行爲

法令トハ法律命令ヲ包含シ其法令ニ因リテ爲シタル行爲ハ所謂法令ヨリ命シタル行爲ナリ故ニ其行爲ニシテ刑法上ノ刑罰ヲ受クヘキ責任者ナリト雖モ其行爲ハ正當ニシテ決シテ法令ノ禁止命令ノ違反ニアラサレハ犯罪ヲ構成セサルモノトス彼ノ巡查カ犯人ヲ逮捕シ裁判官カ犯人ヲ拘束シ行政行爲ニ依リテ他人ノ所有權ヲ傷フカ如キハ皆法令ニ因リテ爲シタル行爲ナリ若シモ普通ノ場合ナレハ或ハ不法ノ監禁逮捕又ハ所有權侵害ニシテ何レモ刑法上ノ犯罪人タラサルヘカラス

法令ニ因リテ爲シタル行爲ハ直接ニ爲シタルノミナラス本屬長官ノ命令ニ依リテ爲シタル行爲モ亦同様ナリトス本屬長官ハ天皇ノ大權ニ依リテ任命セラレ其官制ノ範圍内ニ於テ其職務ヲ行ヒ之ヲ命令スルモノナレハナリ然レトモ其命令ハ常ニ法令ニ定メタル範圍内ニアラサレハ效力ナシ故ニ法令以外ニ於テハ假令本屬長官ト雖モ命令スル權ナシ從テ之ヲ行フモ之レ一個私人ノ行爲ト何ソ異ナラン例ヘハ裁判官ノ命令ニ依リテ豫戒令ヲ施行シ知事ノ命令ニ依リテ人ヲ拘留シタルカ如シ其裁判官知事ハ法令以外ノ命令ヲ爲シタルモノナリ一私人ノ行動ナリ其命ヲ受ケテ爲シタル僚屬ハ一私人ノ命ヲ受ケテ一私人トシテ爲シタル行爲ナリ故ニ刑法上ノ責ヲ負ハサルヘカラス

二 正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲

正當ノ業務ニ因リテ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ負ハサルハ至當トス之レ決シテ犯罪トナルニハアラサルナリ例ヘハ擊劍家ノ如ク角力ノ如ク又ハ外科醫ノ如キ皆人ノ身體ニ對シ毆打ヲ加フルモノナリ何レモ刑法上ノ毆打創傷罪ヲ構成スヘキモノニアラス併シナカラ此場合ニ於テモ擊劍家ノ勝負ヲ爲シ角力ノ生命ヲ交換シ醫師ノ患者ノ首ヲ斷ツ等ノコトハ決シテ無責任ニテラス何ントナレハ之レ業務ノ區域ヲ超ユル

モノナリ

尙ホ注意ヲ要スヘキハ民法上ニ於ケル親權ノ結果ニ於ケル子ヲ懲戒スル權ナリ此場
合ニ於テモ子ヲ拘束スルコトヲ得ヘキモ刑法上ノ不法監禁ノ罪ハ構成セサルモノナ
レトモ親自ラ懲戒權アリトシテ子ヲ毆打シタル場合ニ於テ其程度ヲ超ユルトキハ決
シテ無責任ナリト云フヘカラス

現行刑法第七十六條ニ於テハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル行爲ノ責任
ノミヲ規定シタリシモ業務上ニ付テハ規定ヲ欠クヲ以テ本條ニ於テ之ヲ完全セシメ
タリ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル
爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス
防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スル
コトヲ得

本條ハ正當防衛ノコトヲ規定シタリ

第一項 夫レ吾人ハ社會ヲ組織シ社會ノ力ニ依リテ吾人ノ權利ヲ保護セラレント欲
シ苟モ吾人ニ對シテ權利ヲ妨害スルモノアルトキハ社會ノ力ヲ以テ之カ防衛ヲ受ケ

是ナリ

サルヘカラス故ニ今日ニ在テハ吾人自ラ手ヲ下シテ裁判ヲ爲スヲ許サス社會ニ於テ
組織上或ル機關ヲ設ケ之ニ依リテ妨害スル者ヲ裁判セシムルニアリトス
然レトモ權利ノ侵害ノ急迫ニシテ社會ノ保護ヲ請求スルニ違アラサルカ又之カ請求
ヲ爲スヘカラサル場合ニ在テハ吾人ハ手ヲ拱シテ侵害ヲ甘受スルノ義務アルヘキコ
トナシ必ラスヤ自ラ進ンテ之ヲ防衛スル權利ヲ有ス即チ正當防衛是ナリ
然レトモ自ラ防衛權アリトスルモ其防衛ニシテ不當ト爲リ已ニ法令ニ於テ禁止シ又
ハ命令シタルモノニ反スル行爲ナルトキハ其行爲ハ決シテ恕スルコトナク法令ニ依
リテ刑罰ニ處スヘシ茲ヲ以テ其防衛權ノ範圍ト方法トヲ示シ以テ刑法ニ明文ヲ設ケ
之カ防衛權ノ執行ヲ認ムル必要アリトス之レ本條アル所以ナリ
本項ニ依ルトキハ正當防衛ニハ左ノ條件ヲ必要トス

- 一 權利ノ侵害カ急迫ナルコト
- 二 侵害ハ不正ナルコト

第一條件 侵害ノ急迫ナルハ所謂已ムコトヲ得サルノ一句ヲ以テ知ルコトヲ得ヘ
シ若シモ侵害ニシテ別ニ急迫ナラサルトキハ其侵害カ重大ナリト雖モ決シテ自ラ裁

第一編總則 第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

九十四

判スルノ權ナシ社會ニ訴ヘ社會ノ力ニ依リテ之カ防衛ヲ爲サ、ルヘカラス故ニ斯ノ如キハ正當ノモノト云フヘカラス元來正當ハ必要ヨリ生スルモノナリ必要ハ急迫ヨリ生スルモノナレハ其防衛ニシテ正當ナリトセハ急迫アラサルヘカラス之レ急迫ヲ以テ正當防衛ノ一條件ト爲シタル所以ナリ

然シテ如何ナル場合ヲ以テ急迫ナリヤハ全ク事實ノ問題ナリ裁判官ニ於テ宜シク注意シテ判斷ヲ下サ、ルヘカラス

然レトモ其侵害ヲ受クルハ身體財產ニ限ラス總テノ行爲ニ於テ之ヲ見ル只身體ト財產トニ於テ最モ其多キヲ見得ヘシ何レニスルモ自己ハ勿論他人ノ權利ヲ侵害セラルルニ急迫ナル場合ニ於テ防衛ノ方法ヲ行フニアラサレハ到底之ヲ避クルニ途ナク之ヲ緩慢ナラシムルニ於テハ自己又ハ他人ノ權利ヲ侵害セラル、程度ニ在ルヲ必要トス其身體ニ對シテハ生命ハ勿論毆打、監禁、制縛、節操等皆之ヲ防衛スルコトヲ得ヘシ或ル論者ハ藝娼妓ニ對シテハ防衛權ヲ認メスト然レトモ防衛權ヲ行フニ付テハ決シテ資格ヲ論セス又假令賣淫ヲ以テ業トスルモ強姦罪ニハ被害者ノ身分ヲ以テ區別セス藝娼妓ト雖モ刑法ノ保護ヲ受ケサルヘカラス已ニ刑法上ノ保護ヲ受クヘキモノトセハ正當防衛權ヲ認ムルコトハ明ラカナリ

九十五

次ニ財產ニ對シテハ所有權ノ安全ヲ維持スルカ爲メニ外ナラサレハ保全ヲ計ルニ於テ必要ナル程度ニ於テ防衛ヲ認メサルヘカラス而シテ財產ニ對シテ急迫ナル侵害トハ如何ナル場合ナルカト云フニ本項別ニ之ヲ明記セスシテ事實裁判官ノ認定ニ委シタリシモ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スルニ於テ認メサルヘカラス現行刑法第三百十五條ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ヲ列記シタリ即チ之ニ依リテ事實ヲ認定スルニ不可ナカラシ

第二條件 侵害ノ不正ナルコトヲ要スルハ蓋シ其侵害ニシテ正當ナリトセハ決シテ正當防衛權ヲ許スヘカラス例ヘハ巡查カ令狀ヲ持テ吾人ヲ逮捕スルニ際リ假令暴力ヲ用ヒラル、モ決シテ之ニ抵抗スル權ナシ若シ之ニ抵抗セハ却テ職務抗拒罪ヲ構成スルニ至ルヘシ巡查ハ正當ノ執行ニシテ決シテ不正ノ行爲ニアラサルナリ若シ之ニ反シ巡查ニシテ令狀ナクシテ非現行犯ナリトシテ吾人ニ向ツテ暴力ヲ用ヒ逮捕セントスルヤ之レ、其行爲ハ法令ニ違反シタルモノニシテ不正ノ行爲ナリ吾人ニ對シテハ不正ノ侵害ナリ之ニ對シテ防衛スルモ決シテ刑法上ノ責ナク所謂正當防衛ナリトス

以上ノ如ク二條件ヲ具備シタル場合ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ

罰スルコトヲ許サ、ルモノトス

第二項 假令急迫不正ノ侵害ニシテ防衛上已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ナリト雖モ必要ノ程度ヲ超ユルトキハ決シテ正當防衛ニハアラサルナリ已ニ正當防衛ニアラストセハ刑法上ノ責任ハ負ハサルヘカラス然レトモ斟酌スヘキ場合ナルヲ以テ事實裁判官ハ之ヲ審案シ其情狀ニ因リテ或ハ刑ヲ減輕シ或ハ免除スルコトヲ得セシメタリ只第一項ノ罰セスト云フ場合ト混同セサランコトヲ要ス

現行刑法ニ於テハ本條ニ適スルモノハ其第三百十四條乃至第三百十六條ニアリ之ヲ併合シテ本條ノ如ク改正ヲ爲シタルモノトス

其要點ハ現行法ハ殺傷ニ關スル特別ノ不諭罪トシテ第三編第一章第三節中ニ規定シタレトモ危急防衛ノ方法ハ單ニ殺傷ノミニ關セス故ニ總則ニ之ヲ移シタリ

次ニ現行法ハ防衛ノ目的物ハ生命、身體、財產等ニ限定シタレトモ本條ニ於テハ之ヲ他ノ權利ニマテ及ホシ以テ保護スヘキモノト認メタリ

次ニ現行法ハ防衛スヘキ侵害ノ程度ニ付テハ其規定不十分ニシテ只第三百十四條但書ニ於テ不正ノ行爲ニ依リ自ラ招キタル暴行ニアラサルコトヲ示スノミ依テ本條ハ之ヲ明確ニシ侵害ノ急迫ニシテ不正ナルコトヲ要スル旨ヲ規定シタリ

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

本條ハ危難ヲ避クルカ爲メニ出テタル行爲ニ付テノ規定トス
第一項 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對シ現在ノ危難即チ天災、事變ハ勿論苟モ避クヘカラサル危難ヲ受ケタル場合ニ於テ其難ヲ避ケンカ爲メ眞ニ必要ナル行爲即チ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ罪トシテ之ヲ罰セサルモノトス例ヘハ出火ノ際其危難ヲ避ケンテ群集ヲ蹂躪シテ之ヲ倒シ爲メニ負傷セシメ或ハ之ヲ壓殺シタル場合ノ如キ又ハ破船ニ遇ヒ一片ノ板ヲ以テ僅カニ生命ヲ繋キツツアルモノヲ排斥シテ其片板ヲ奪ヒ自己ノ身體ヲ防衛スルニ出テ其者ヲシテ溺死セシメタル場合ノ如シ

此場合ニ於ケル所爲ハ一ノ防衛ニシテ決シテ他力ノ強制アルニアラス只防衛ノ方法ナルヲ以テ罪ヲ爲サ、ルモノト云フヘシ或ハ斯ノ如ク論スルトキハ前條ノ正當防衛ト同一ナルカ如キモ決シテ然ラス正當防衛ハ我ヲ害セントスル者ニ對シテ行フ權ニシテ本項ハ然ラサルモノニ對シテ行フモノナリ抑モ斯ノ如キ場合ハ互ニ自己ノ生命ヲ救護セント欲スルトキニシテ其力ノ實際優リタルモノヲ以テ勝ヲ制セシメ夫ヲシテ正當ノ行爲ナリト認メシメタルニ外ナラス

而シテ此等ノ權利ヲ保護スル必要ニ出テタル行爲ナリト雖モ其行爲ヨリ生シタル害ニシテ其避ケントシタル害ヨリモ大ニシテ畢竟保護セントスル權利ヲ比スレハ却テ重大ナル他人ノ權利ヲ害シタル場合ニ於テハ其行爲ヲ罪ト爲ササレハ遂ニ其弊ニ堪ヘサルニ至ルヘキヲ以テ攻撃セラレタル權利ト已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ニ依リ侵害セラレタル權利トヲ比較シ以テ或ハ全ク其行爲ヲ罪ト爲サ、ルヘク或ハ其行爲ヲ罪トシテ之ヲ罰スヘク又ハ之ヲ罰スルモ其刑ヲ減輕スルコトヲ得セシメタルニアリトス

左レハ危難ノ場合竝ニ其程度ヲ量定スルハ一ニ事實ニ依ラサルヘカラス事實ハ千態萬狀ニシテ必ラス一律スヘカラサルモ其必要ナル標準トシテ擧クルトキハ蓋シ左ノ

四個ニ外ナラス

- 一、其事變カ犯人ノ意外ニ出テ豫知スヘカラサルモノナルコトヲ必要トス故ニ若シモ豫知スルコトヲ得ヘクシテ之ヲ避クルノ方法アルニモ拘ラス尙ホ進ンテ其境遇ニ至リタルトキハ決シテ其責ヲ免ルヘカラス
- 二、危難ハ其遇ヒタル者ノ精神ニ充分恐怖ノ念ヲ發スヘキ性質ノモノナラサルヘカラス故ニ其遇ヒタル者ノ身分、年齢、男、女等ヲ斟酌スヘキ必要アリ
- 三、危難ハ必ラス重劇ニシテ之ニ遇フテ爲シタル行爲ヨリ輕微ナラサルコトヲ必要トス
- 四、危難ハ危急見現在ニシテ犯罪行爲ヲ以テスルニアラサレハ到底之ヲ避クルコトヲ得サル場合ナラサルヘカラス

第二項 本項ハ業務上他人ヲ救護スヘキ特別ノ義務アル者ニ關スル規定ニシテ第一項ノ場合ニ於テ若シモ犯人カ職務ヲ以テ爲シタルモノナルトキハ決シテ之ヲ適用セサルナリ例ヘハ火災ノ際巡查又ハ消防夫カ人ヲ倒傷シ又ハ壓殺シタル場合ノ如キ類ナリ

現行刑法第七十五條ト同意味ノ規定ナリト雖モ左ノ點ニ於テ大ニ異ナルヲ見ル

一 現行法第七十五條第一項ニ於テハ有形ノ自由ヲ喪失シタル場合ヲ規定シタリ然レトモ外力ノ爲メニ全ク強制セラレテ爲シタル場合ハ即チ外力ノ作用ノ結果ニシテ決シテ自己ノ行爲ニアラス所謂器械的働ヲ爲シタルモノナレハ無論罪アルヘキ理ナシ依テ新法ハ之ヲ删除シ唯意思ノ上ニ受ケタル外力ノ結果ニ關スル規定ノミヲ設ケタルナリ

二 同第二項ハ自己若クハ親屬ノ身體ニノミ制限スルモ本法ハ自己又ハ他人ノ貴重ナル權利タル生命、身體、自由及ヒ財産ヲ保護スヘキモノト認メ修正シタリ

三、現行刑法ハ攻撃セラレタル物ヲ最モ貴重ナル身體ニ限リタルヲ以テ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ常ニ罪ト爲ラサルコト、爲シタリ之レ身體ノ價值ハ其已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ヨリモ重大ナルカ故ナリ之ニ反シ新法ハ攻撃セラレタル物ハ生命、身體、自由及ヒ財産ナルヲ以テ假令此等ノ權利ヲ保護スル現實ノ必要ニ出テタル行爲ナリト雖モ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ヨリモ大ニシテ畢竟保護セントシタル權利ニ比スレハ却テ重大ナル他人ノ權利ヲ害シタル場合、於テハ其行爲ヲ罪ト爲ササレハ遂ニ其弊ニ堪ヘサルニ至ルヘキヲ以テ新法ハ裁判官ヲシテ攻撃セラレタル權利ト已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ニ依

リ侵害セラレタル權利トヲ比較シ或ハ罪ト爲サス或ハ罪トシテ之ヲ減免スルコト、爲シタリ

四 現行刑法ハ自己ノ權利ヲ保護スヘキ危難ノ程度ヲ天災又ハ意外ノ變ニ因リ避クヘカラサル危難ト爲シタリシカスノ如キ例示的の文字ハ無用ナルヲ以テ現在ノ危難ト改メ語ヲ簡約シテ却テ其意義ヲ明確ナラシメタリ

五 職務上他人ヲ救護スヘキ特別ノ義務アル者ニ關シテハ規定ヲ欠キタリシヲ以テ新タニ之ヲ設ケタリ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

註 本條ハ無意犯ノコトヲ規定シタリ

第一編總則 第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第一項 犯罪ノ責任ヲ論スル必要條件ハ辨別ト自由ト而シテ罪ヲ犯ス意思トニ外ナ
 ラス故ニ苟モ此一條件ヲ欠クトキハ假令犯罪行為ヲ行フモ決シテ其責ニ任セス
 元來犯意トハ犯罪ヲ行フ意思ニシテ犯罪タルコトヲ知リテ之ヲ行ハントスル決意ナ
 リ故ニ此決意ヨリ出テタル行為ハ皆犯罪ナレトモ此決意ヨリ出テサル行為ハ假令犯
 罪ヲ構成スルモ未タ犯人ニ責任アリト云フヘカラス即チ犯罪ノ意思ナキ行為ハ責任
 ノ要素ヲ欠クヲ以テ罰スルコトヲ得サルナリ

例ヘハ獵夫ノ獸ヲ射ント欲シ發砲シテ樵夫ヲ銃殺シタルカ如キ少年ノ石ヲ投シタル
 ニ通行人ニ中ツテ傷ヲ受ケタルカ如キハ何レモ其事ヲ行ハントシテ之ヲ行ヒ又其事
 タル決シテ不正行為ニアラサルヲ以テ正當ニ爲シ得ラルルモノナルニ之ヲ決行シテ
 偶然ニ不正ノ結果ヲ見ルニ至リタリ然ラハ其結果ハ犯罪トナルモ其犯人ノ決意ハ決
 シテ罪ヲ犯ス意ニアラサレハ所謂犯意ナキ行為ナリ故ニ獵夫モ少年モ殺傷ニ付テハ
 責任ヲ負フヘキモノニアラス

尙ホ注意ヲ要スヘキハ犯人ニシテ辨別ト自由ノ其一ヲ欠クトキハ全ク意思ナキモノ
 ナレハ決シテ責任ヲ負フヘキモノニアラス故ニ辨別アリ自由アル意思ヲ有スル犯人
 カ其爲ス行為ノ不正ヲ知リテ行ヒタルトキハ有意犯ナリ辨別アリ自由アル意思ヲ有
 スル犯人カ其爲ス行為ノ不正ヲ知ラスシテ偶然行ヒタルトキハ無意犯ナリ此二者ヲ
 混同セサランコトヲ要ス

然レトモ本項ニ於テ但書ヲ設ケ法律ニ於テ特ニ規定アル場合ハ其責任ヲ負ハサルヘ
 カラス彼ノ過失罪ノ如キ此類ナリ

第二項 本項ハ犯意ヲ以テ不正ノ行為ヲ行ヒタルニ其加重ノ原因又ハ重キ情狀ヲ知
 ラサルモノナリ一ニ之ヲ犯意ト過失トノ併發ナリト云ヘリ例ヘハ普通人ナリト信シ
 テ父母ヲ殺シタルカ如キ又十三歳以上ノ婦女ナリト信シテ姦淫シタルニ十三歳未滿
 ノ女ナリシカ如キ類ニシテ犯罪ヲ爲シタルコトハ勿論ナルモ其父母タリ十三歳未滿
 ノ女ナリト云フコトハ知ラサルモノナリ故ニ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得サラン
 ムルモノトス

第三項 本項ハ法律ノ錯誤アル場合ニシテ法律ヲ知ラサルヲ口實トシ決シテ責任ヲ
 免ルヘカラス法律ハ人民之ヲ知ルヘキモノト推定スルヨリ來リ又ハ法律ヲ知ラサル
 ハ其者ノ過失ナリトノ理由ヨリ來ル條項ナリト論スルモノアルモ決シテ然ルニアラ
 ス人民カ其必要ノ場合ニ於テ法律ヲ知り又ハ之ヲ研究スルコトヲ得ルカ爲メニハ法
 律施行ノ猶豫期間アリ其期間ニシテ經過スルトキハ各人ハ實際其法律ヲ知ルト否ト

ヲ論セス直チニ之ヲ適用セラルルモノナリ故ニ法式ニ從ヒ法律ヲ公布シタル以上ハ一般人民ハ之ヲ知リタルモノト均シク適用スルニアレハ法律ヲ知ラストシテ罪ヲ強ルルコトヲ許サ、ルモノトス併シナカラ或ハ眞實法律ヲ知ラスシテ不幸ニ陷ルモノナキニシモアラス彼ノ孤島僻遠ニアル者ノ如キ交通遮斷ノ爲メニ公布アリシヲ知ラサルモノ、如キ外國人始メテ日本ニ來リ未タ其日淺キモノ、如キ大ニ酌量スヘキモノアレハ但書ヲ加ヘ刑ヲ減輕スルコトヲ得セシメタリ

現行刑法第七十七條ニ修正ヲ加ヘタル新法トス

第七十七條ノ第二項ハ同條第一項ノ適用ニ過キサレハ之ヲ削除シ他ノ二項ハ實際ノ必要上ヨリ存シタリ且第四項ニ但書ヲ加ヘタルハ不幸ニシテ罪ニ陥リ事實憫諒スヘキ者ナキニアラサルヲ以テノ故ナリ

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

本條ハ心神喪失者ト心神耗弱者トニ對スル規定トス

第一項 心神喪失者トハ果シテ如何ナルモノナルヤハ醫學上ノ問題ニシテ其事實ニ於テ鑑定ヲ求メサルヘカラス故ニ斯ノ如キハ事實裁判官ノ認定ニ讓ラサルヘカラサ

ルモ先ツ知覺精神ヲ喪失シタル者ニシテ其天性ト中途ノ發病ト一時ニ發シタルトト問ハサルモノトス而シテ此等ノ行爲ハ犯罪タルコトノ辨別ト自由トヲ欠キタルモノナレハ刑法上ノ責任ヲ負ハシムルコト能ハス之レ本項アル所以ナリ

酒狂ニ付テハ學者ノ議論一定セサルモ今日ニ於テハ果シテ心神喪失セシヤ否ヤヲ事實ニ徴シ以テ有罪無罪ヲ論決スヘキモノトス

第二項 心神耗弱者トハ第一項ニ比シ比較的輕キ者ヲ云ヘリ果シテ心神耗弱者ト認め得ヘキヤ否ヤハ事實ノ問題トス果シテ斯ノ如ク心神耗弱者ト認めラルル場合ニ於テハ第一項ニ比較シ無罪者タルコトヲ得サルモ多少有恕スヘキモノナレハ其刑ヲ減輕シタルモノトス

現行刑法第七十八條ハ知覺精神ノ喪失ニ因リ是非ヲ辨別セサル者トアリテ常ニ知覺精神ノ喪失ニ因ルコト及ヒ是非ヲ辨別セサルコトノ二條件ヲ具備セサルヘカラサルコト、シタリシカ已ニ知覺精神ノ喪失セシモノトスレハ何レモ是非ヲ辨別セサルモノナルヘシ故ニ決シテ此二條件ヲ區別スル必要ナキモノトス左レハ之ヲ修正シテ心神喪失者トシ其果シテ然ルカ否ヤハ事實ノ認定ニ任セリ又本法第二項ノ如キハ之ヲ規定シアラサルヲ以テ其欠ヲ補ヒタリ

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

註 本條ハ瘖啞者ニ付テノ規定トス

凡ソ瘖啞者ニハ生レナカラ瘖且啞ナル者アリ又生レテ後精神ニ異常ヲ生シ瘖啞者トナル者アリ其生レナカラニシテ瘖啞トナリタルモノニ在テハ智識ノ發達ヲ養成スル機關ヲ失ヒタルカ爲メ全ク是非辨別ノ區別ヲ爲ス意思ナシト雖モ生レテ後瘖啞トナリタル者ニ在テハ外形上普通人ト多少異ナル點アルモ精神上ノ發達ニアリテハ必ラス常人ト異ナリト云フヘカラス唯或ハ多少異ナリタル感能ヲ有シ機能ノ發達ヲ欠クル所アラン殊ニ今日ハ瘖啞教育ノ方法備ハリ普通ノ智識ヲ得ル便宜アリ多少犯罪ノ責任ヲ辨別スル者アルヲ以テ瘖啞者ハ全然之ヲ罰セスト爲サス事實ヲ斟酌シ或ハ之ヲ罰セス或ハ之カ刑期ヲ減輕スルニ止メントス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

註 本條ハ年齢ニ依ル罪ニ付テノ規定トス

刑法上ノ責任ハ十四歳ニ滿タサルモノニハ負ハシメサルモノトス而シテ其男女ト貴賤貧富ヲ論セス苟モ十四歳ニ滿タサルモノ、所爲ハ決シテ罪トセサルナリ或ハ曰ク十四歳未滿ト雖モ是非ノ辨別ヲ爲スモノアリ之ヲシテ全然無罪タラシムルハ大ナル誤ナリト然レトモ之ヲ區別スルニ付テハ困難ニシテ一々其人ニ就テ事實ヲ審案スルコト現行刑法ノ如ク爲サ、ルヘカラス

元來現行刑法第七十九條ニ於テ責任年齢ヲ十二歳ニ定メタルハ別ニ據ルヘキ定見ナク古來ノ立法例ニ從ヒタルモノナリ古ハ幼年犯罪者ニ對シ懲治ノ方法十分ナラサルノミナラス刑罰ノ目的モ又今日ト等シカラサリシヲ以テ極メテ責任年齢ヲ低クナシタルモノナレトモ近來生理學ノ發達ニ伴ヒ幼者ノ智能ハ如此速ニ發達ヲ爲サス從テ責任年齢ノ低キニ失スルヲ非難スルニ至レリ且今日ハ追々幼年犯罪者ヲ懲治スル設備ヲ整ヘ得ルニ至レルヲ以テ現行刑法ノ如ク三階級ヲ認ムル必要ナシ故ニ本條ノ如ク修正シタルモノトス

然ラハ民法ト同シク何故ニ二十歳未滿ト爲サ、ルヤノ反問アルヘシ然レトモ民事ノ行爲ハ人生相互ノ權利義務ノ關係ニ屬スルモノナリ、實ニ複雑ニシテ甚タ困難ニシテ豫メ利害得失ヲ研究シ以テ撰擇スルノ智能ヲ有セシムルニハ實ニ完全ナル發達ニ

至ルヲ俟タサルヲ得ス故ニ民法ニ在テハ夫等ヲ斟酌シ以テ二十歳未滿ノモノヲ未成年者トシタルニアリ之ニ反シ刑法上ノ行爲ハ犯人ノ責任ヲ定ムルノミニシテ唯其行爲ハ正不正是カ非カヲ知ルヲ以テ足ル實ニ刑事行爲其者ハ複雑ナルモ責任ヲ定ムルニ付テハ單純ナリ左レハ是非不正等ヲ識別スル智能アレハ可ナリ而シテ人ノ良心ハ人生萬般ノ行爲ヲ指導シ其發達ハ速ニシテ未タ智識ノ發達即チ利害得失ノ關係ヲ知ル能力ノ未タ欠クル時ニ於テモ事物ノ正不正善惡ヲ知ル良心ハ正ニ整ヘリ左レハ刑法上ノ責任年齢ト民法上ノ責任年齢トハ蓋シ良心ノ發達ニ於テ定ムル標準ヲ異ナラシメタルハ至當トス

現行刑法ニ於テ第七十九條第八十條第八十一條及ヒ第八十三條ニ責任年齢ニ付キ之ヲ區別シタリト雖モ本文已ニ説明スル事由ニ依リ之ヲ修正シタルコト明瞭ナレハ別ニ之ヲ詳悉セス殊ニ幼年囚ヲ罰スルモ其利益甚タ少ナク却テ累犯ノ幼年囚ヲ増スコトハ大ニ憂慮セサルヘカラサル今日ナレハ本條ノ修正ハ最モ適切ナルモノト云フヘシ
第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦

同シ

註 本條ハ自首減輕ノ場合ヲ規定ス

第一項 罪ヲ犯シテ未タ官ニ發覺セサル以前ニ於テ自ら犯罪者ナリト名乗り出ル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ヘシト元來罪ヲ犯シ社會ノ安寧秩序ヲ害シタル者ハ爲メニ刑罰ヲ受クヘキハ當然ナリ然ルニモ拘ハラス自首シ來ルトキハ之ヲ宥恕スルカ如キハ決シテ正當ノ理ニアラサルナリ然レトモ犯罪アリテ其事未タ發覺セス又其犯人未タ逮捕セサル時ニ際シテハ社會ノ危害ハ實ニ去ラスシテ萬民枕ヲ高クシテ眠ルコト能ハス此場合ニ於テ社會カ其犯罪人ヲ捕ヘ危害ノ速カニ消滅セシメントスルハ實ニ當然ナレハ刑罰ノ威力ヲ犠牲ニ供シ以テ犯罪發覺ノ速成ヲ期スルニアリ故ニ減輕ヲ餌ニシテ犯人ヲ捕フルニアリトス左レハ自首者ヲ賞スルニアラス社會ノ危害ヲ速ニ斷タントスルニ外ナラス

本項ニ於テ事未タ發覺セストハ犯人ノ誰ナルコトヲ知覺セサル場合ヲ云ヘリ又官トハ犯罪ノ搜查權ヲ有スル官署ヲ云フ故ニ檢事又ハ司法警察官ナリトス左レハ豫審判事又ハ公判判事ニ自首スルカ如キハ其效ナキモノトス
第二項 告訴ヲ待テ論スヘキ罪ニ付テハ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル時モ亦同一

第一編總則 第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

トス蓋シ告訴權ヲ有スル者ハ其犯罪ニ付キ自由ヲ有スルモノニシテ官ニ首服スルト敢テ異ナラス

現行刑法第八十五條及ヒ第八十六條ニ依レハ謀殺故殺ニ係ルモノヲ除キ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減シ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニハ其損害賠償ノ程度ニ因リ減等ノ度ヲ異ニスルノ規定アリシモ謀殺故殺ニ係ル者ヲ除外スル理由ナク又自首者ニハ必ラス本刑ニ一等ヲ減スル爲メ自首減等ヲ期シテ罪ヲ犯ス者ナキニアラサルノミナラス賠償ノ程度ニ從テ減等ノ度ヲ異ニスル如キハ其規定細微ニ過キ弊害ヲ生スル虞アリ是ヲ以テ罪ノ種類ヲ問ハス自首シタル者ハ只減輕スルコトヲ得ルコト、爲シタルナリ

又本條第二項ハ現行刑法第八十七條ノ趣旨ト同一タリ只財産ニ對スル罪ト云ハスシテ告訴ヲ待テ訴追スヘキ罪ニ限ルコト、爲シタルハ親告罪ノ性質上頗ル適當ナリトシ修正ヲ加ヘタル所以ナリ

判決例

刑法第八十五條ハ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ官ニ自首シタル者ハ減等スルノ法規ニシテ脱監逃走ノ如キ已發罪ハ該法條支配外トス(二四、六、二九)

裁判宣告前ニ任意ニ自白シタルハ自首ト云フヲ得ス(二七、六、一八)

刑法第八十五條ノ官トハ搜查權ヲ有スル檢事又ハ司法警察官ヲ指示シタルモノニシテ搜查權ヲ有セサル豫審判事ハ包含セス(二八、三、一一)

第八章 未遂罪

本章ハ未遂罪ノコトヲ規定シタリ

抑モ犯罪ヲ行フニ必ラス之ヲ發意スルヨリ結了スルマテハ種々ナル段階アリ而シテ其段階ヲ故障ナク通過シテ實行ヲ爲シ事實上ノ錯誤ナキ場合ヲ既遂犯ト稱シ事實上ノ錯誤アル場合ヲ稱シテ未遂犯ト云フ

今未遂犯ノ順序ヲ示セハ

- 一 犯罪ノ發意 即チ犯人カ一定ノ罪ヲ犯スノ考ヲ爲ストキ
- 二 犯罪ノ豫備 即チ其犯罪ノ發意ヲ實行スルカ爲メニ必要ナル準備ヲ爲ストキ
- 三 犯罪ノ實行 豫備既ニ成リテ犯罪ノ事實ニ進行シ之ヲ行ヒ畢ルマテヲ云フ
- 四 著手未遂 犯罪ノ實行ヲ終ラスシテ犯人ノ意外ノ錯誤ヲ爲シテ之ヲ止メタル片
- 五 缺效未遂 犯罪ノ實行ヲ終ハリテ其目的ヲ達スルコト能ハサリシトキ
- 六 不能犯 犯人ノ目的トスル所ノモノ若クハ其用フル所ノ方法ニ於テ犯罪ヲ構成

スルニ足ラサルトキ

七 中止犯 犯人自ラ其犯罪ヲ中止シタルトキ

以下分説セン

一 犯罪ノ發意

犯罪ノ發意トハ犯罪ヲ爲サントシ將ニ之ヲ行ハントスル決心ナリ或ハ之ヲ發意ト決心トノ二個ニ分類スル學者アリト雖モ之レヲ一ニシテ云フモ決シテ不當ニアラス元來發意ハ犯罪ノ構成上最モ必要ニシテ其根源ナリ例ヘハ人ヲ怨テ殺サントシ人ノ物ヲ竊取セントスルカ如シ故ニ犯罪ノ生スル源ナレハ其危險云フヘカラス若シ之ヲ防クコトアレハ社會ノ犯罪ハ其痕跡ヲ絶ツニ至ルヘシ

然ラハ發意ヲ罰スルカ否刑法上之ヲ罰セサルヲ原則トス何ントナレハ社會ノ刑罰權ハ社會ノ生存ヲ維持センカ爲メニ行フモノニシテ社會ノ生存權ヲ防衛スルノ具ナリ故ニ危害現在スルニアラサレハ刑罰權ヲ行ハス社會ニ何等ノ危害ナク生存權ハ維持セラルトキハ之ヲ行フ必要ヲ生セサルナリ即チ發意ハ犯人ノ胸中ニアレトモ未タ社會ニ顯ハレサルモノナリ故ニ其表ハレサルモノニ對シテ防衛スルノ必要ナケレハナリ殊ニ意思ハ發生シ易ク又消滅シ易シ今忽チ人ヲ殺サント意思ヲ生スルモ人ヲ殺

サハ我亦刑セラレントスルノ意思ヲ生スレハ其意思忽チ消滅ス故ニ斯ノ如キ變遷極リナキモノヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ

二 犯罪ノ豫備

犯罪ノ豫備トハ罪ヲ犯サンカ爲メニ行フ所ハ準備ナリ故ニ外部ニ表レタル事實ニシテ已ニ社會トノ關係ヲ發生シタルモノトス左レハ他日之ニ原因シテ社會ノ秩序ヲ紊亂スルノ結果ヲ生スヘキモノナレハ之ヲ罰セサルヘカラサルカ曰ク犯罪ノ豫備ハ之ヲ罰スル場合ト之ヲ罰セサル場合ト二個アリ

之ヲ罰セサルハ社會ニ於テモ危險行爲ト爲サ、ルニアリ豫備ハ唯タ後日危害ノ媒ト爲ルヘシトノ豫想ヲ以テ之ヲ罰スルトセンカ實ニ防衛權ノ趣旨ニ適ハサルナリ殊ニ豫備ハ多クノ場合ニ於テ社會生存上ノ必要行爲ト爲リ人民ハ之ニ依リテ生活ノ必要ヲ充タスコトアリ斯ノ如ク生活ニ必要ナル行爲ヲ以テ後日犯罪ヲ爲スヘシト豫想シ以テ之ヲ罰スルハ謂ハレナキモノト云フヘシ彼ノ刀劍商ノ如シ其店頭ノ刀ヲ買フハ之ヲ愛翫センカ爲メ又ハ護身用ノ爲メ又ハ人ニ贈ランカ爲メナルコトアリ之ヲ賣ルハ以テ利ヲ得生活上ニ充テントスルニアリ何レモ社會生存權ニ必要ナル行爲ナリシニ其之ヲ買フハ殺人ノ爲メニアルヘシ又之ヲ賣ルハ之ヲ助ケタルニアリトスレハ實

ニ社會ノ生存上危險ヲ認ムルニ至ルヘシ即チ刀ノ賣買ノ如キハ社會ニ對シテ危險
生スルモノニアラス社會ノ生存權ヲ害シタルモノニアラストシ以テ罰セサルニアリ
トス

又之ヲ罰スルモノトセンカ必ラス豫備ノ所爲カ社會ノ危害ヲ爲スニ足ルヘキモノナ
ラサルヘカラス刑法第七十八條及第九十三條ノ如キハ之レ罰スル例示ニシテ法律カ
社會ノ危害ヲ爲ス一犯罪トシテ掲ゲタルモノトス

三 犯罪ノ實行

犯罪ノ豫備已ニ終ハリ犯人ハ因テ以テ其目的トスル犯罪行爲ヲ行フニ至ルヲ犯罪ノ
實行ト云フ故ニ犯人ニシテ其犯罪ヲ實行シテ其目的ヲ達シタルトキハ既遂犯ニ
シテ刑法ノ各本條ニ依リテ罰セラルルコトハ別ニ論スルノ必要ナシ

然シテ其犯人カ犯罪ノ目的ヲ達セントシテ達スルコト能ハス之ヲ未遂犯ト云フ即チ
四乃至七ハ犯罪ノ實行中ニ於ケル体様ナリトス

四 著手未遂犯

犯罪ノ豫備ヲ終リタル後犯罪事實ノ一部ヲ行ヒ始メタルヲ犯罪ノ著手ト云ヒ其將サ
ニ進ンテ全部ニ及ハントスル途中意外ノ錯誤ニ遭ヒテ犯罪ノ實行ヲ妨ケラレ其希望

セシ直接ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ著手未遂犯ト云フ

故ニ著手未遂犯ヲ知ルニハ犯罪ノ著手ヲ知ラサルヘカラス犯罪ノ著手ヲ知ラントセ
ハ犯罪ノ構成條件ヲ知ルヘク又犯罪ノ構成條件ヲ知ラントセハ各犯罪ノ解剖ヲ爲サ
ルヘカラス而シテ各犯罪ノ解剖ヲ爲スニハ各本條ニ付キ一々之ヲ分解セサルヘカ
ラス蓋シ各犯罪ハ其構成條件各々異ナルカ故ナリ

例ヘハ委託物費消費ノ如キハ物件ノ委託ヲ受クルコト(一)其物件ヲ消費スルコト
(二)ノ二條件ヲ必要トシ何レカ其一ヲ欠クトキハ構成セス又文書偽造行使罪ノ如キ
文書ヲ偽造スルコト(一)其文書ヲ行使スルコト(二)ノ二條件ヲ要シ何レカ一ヲ欠
クトキハ構成條件ヲ欠クヘシ又竊盜ノ如キ他人ノ物品ナルコト(一)之ヲ竊取スル
コト(二)ノ二條件ヲ要スヘシ故ニ竊取スルモ自己ノモノナルトキノ如キ他人ノ物
品ナルモ之ヲ取違ヘタルトキノ如キハ竊盜ノ條件ヲ欠クカ如シ

結局犯罪ノ著手トナルヘキ事實ヲ知ルハ各犯人ニ付キ如何ナル犯罪行爲ヲ行ハント
スルノ意思アリヤ其意思ニシテ判明セハ其行ヒタル所ノ行爲ハ果シテ刑法ノ各本條
ニ於テ禁スル構成條件ニ係ルモノナルヤ否ヲ研究シ以テ明ラカニスヘシ
然レトモ或ル犯罪ニシテ著手トナルヘキモノ、他ノ犯罪ニ於テ著手トナラサルモノ

アリ假令ハ窃盜ノ意思ヲ以テ門戸ヲ踰越シタルトキハ窃盜罪ノ著手トナルヘキモ若シ殺人ノ意思ヲ以テ爲シタルトセハ未タ以テ殺人罪ノ著手ト爲スヘキモノニハアラス故ニ犯罪構成條件ヲ行ヒ始メタル場合ヲ犯罪ノ著手ト云フヘシ

五 缺效未遂犯

犯人ニ於テ犯罪構成條件ノ全部ヲ行ヒ了リタルモ意外ノ錯誤ノ爲メニ其目的ヲ達スルコト能ハサルヲ云フ故ニ一方ヨリ云ヘハ犯罪行爲ハ完全ニ成立シタルハ既遂犯ナルモ一方ヨリ云ヘハ犯人ノ目的ヲ達セサルヲ以テ其一部ニ於テ欠クル所アリ之レ未遂犯トシタル所以ナリ彼ノ人ヲ殺サントシ毒藥ヲ服サシメントスルニ際シ之ヲ覆シタルカ如キハ著手未遂犯ナリ被害者之ヲ服用シタル後毒藥ト知り直チニ解毒劑ヲ服用シ死ヲ免レタルトキノ如キハ缺效未遂犯ナリ

六 不能犯

不能犯トハ犯人ニ於テ犯罪構成條件ノ行爲ヲ行フト雖モ手段又ハ目的ノ錯誤ニ因リ到底犯罪ヨリ生スヘキ直接ノ結果ヲ收ムルコト能ハサルモノヲ云フ例ヘハ懷胎シタル婦女ナリト信シ墮胎藥ヲ用ヒタルニ懷胎セサリシカ如キ又人ヲ毒殺セントシテ毒藥ト信シ砂糖ヲ服用セシメタルカ如シ斯ノ如キハ墮胎又ハ毒殺ノ目的ヲ達セント欲スルモ或ハ手段上ニ或ハ目的上ニ錯誤アリテ到底遂クルコト能ハサルモノナレハナリ

不能犯ハ刑法上之ヲ罰セサルヲ以テ原則トス即チ外見犯罪ノ實行アリト雖モ内容上只犯罪ノ決意ヲ表白シタルニ過キス犯人ノ一方ヨリ見ルトキハ其罪ヲ犯サントシタル行爲ハ明カラニ犯罪ノ決意ヲ現シタルモ社會ノ一方ヨリ見ルトキハ少シモ危害ヲ發生セス故ニ社會ニ於テ刑罰權ヲ行フ理由ナケレハナリ

七 中止犯

中止犯トハ犯罪ノ實行中犯人自ラ任意ニ實行ヲ中止シタルモノナリ而シテ中止犯ニ付テハ如何ナル處分ヲ爲スヘキヤト云フニ大ニ區別シテ之ヲ論セサルヘカラス即チ犯罪ノ實行ニ著手シタルモ未タ何等ノ結果ヲ生セサルニ先チ中止シタルトキハ之ヲ罰スルコトナシト雖モ一旦犯罪ニ著手シテ已ニ多少結果ヲ生シタル以後ニ於テ中止シタルカ如キ場合ニ於テハ現在ノ結果ニ付キ其罪ヲ論セサルヘカラス例ヘハ殺害ノ意思ヲ以テ人ニ一撃ヲ加ヘタリシカ俄ニ惻隱ノ心ヲ生シ之ヲ中止シタルカ如シ此場合ニ於テハ犯人ハ毆打創傷ノ責ヲ免ルヘカラス若シ夫レ之ヲ中止シタルハ器械ノ粗ナル爲メカ又ハ手練ノ拙ナル爲メナリトセハ之レ缺效未遂犯ニシテ只酌量減輕ヲ爲

スノミトス

以上未遂犯ノ場合ヲ略述シタリ而シテ本法ハ如何ナル場合ヲ罰スルカ各本條ニ付テ
詳悉セントス

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スル
コトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ刑ヲ減輕又ハ免
除ス

註 本條ハ未遂犯ニ付テノ規定トス

犯罪ノ實行ニ著手シテ之ヲ遂ケサルモノニ付テハ已ニ之ヲ詳論シタリ即チ本條ハ犯
罪構成條件ニ著手シテ未タ其目的ヲ遂ケサルモノナリ而シテ其未タ遂ケサルトハ前
說セシカ如ク著手未遂ト缺效未遂アリ其原因ノ如何ヲ論セス總テ未遂犯ト稱スルコ
トヲ得ヘシ

又但書ヲ以テ中止犯ニ於テモ其場合ヲ斟酌シ或ハ之ヲ減輕シ又ハ罰セサルコトアリ
トス其事ハ例ヲ示シテ已ニ説明シタリ

現行刑法第一百十二條ニ於テハ犯罪ノ實行ニ著手シタル後意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ
之ヲ遂ケサルモノハ未遂犯罪トシタリ然レトモ一旦犯罪ノ實行ニ著手シタル後犯人

之ヲ遂ケサリシ場合ニ於テハ其未遂ノ原因意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因ルト否トヲ問
ハス總テ之ヲ未遂罪ト爲スヘキモノナリ故ニ現行法ヲ改メ本條ノ如ク其場合如何ヲ
示サ、ルナリ即チ著手未遂ト缺效未遂トノ區別ヲ爲サ、ルモノトス

又其處分ニ於テモ必ラス刑ヲ減輕スト爲サシテ一ニ情狀ニ依ルコト、シ「得」トシ
タリ蓋シ未遂犯ノ結果タル危害ハ既遂罪ノ結果タル危害ニ比シテハ多少輕キモノナ
キニアラスト雖モ時トシテハ其犯情ノ怒スヘカラサルモノアルヲ以テ其刑ヲ減輕ス
ルト否トハ事實裁判官ニ任シタリ

併シナカラ犯罪著手後中止シタル場合ニ於テハ社會ニ及ホス害惡少ナク且犯情モ亦
憫察スヘキ所アルヲ以テ之ヲ罰スル場合ニモ一般ニ減輕スルモノトシ情狀ニ因リ其
刑ヲ免除スルコトヲ得セシメタリ但書ヲ加ヘタルハ若シモ之レナキトキハ刑ノ不權
衡ヲ來タスノミナラス中止スルモ尙ホ未遂罪トシテ罰セラルルヲ以テ寧ロ遂行セン
トスルノ輩出ルヤ知ルヘカラス之レ新タニ設ケタル所以ナリ

判決例

他人ノ注意ニ因リ畏懼ノ念ヲ生シテ犯罪ヲ中止シタルハ中止犯ニ非ラスシテ未遂犯
ナリ(三二、一〇、三三)

犯罪ノ豫備トハ犯罪構成ノ要素タル行為ニ著手スル以前ノ行為ヲ云フ苟モ其要素タル行為ニ著手シタル以上ハ如何ナル程度ニ於テ發覺スルモ常ニ犯罪ノ未遂ヲ以テ論ス(三六、一二、二二)

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

本條ハ未遂罪ヲ罰スヘキ場合ヲ規定シタリ

未遂罪ヲ問フヘキ犯罪ハ各本條ニ於テ之ヲ明記スルコトヲ定メタリ

現行刑法第一百三條ニ於テハ總テ重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルコト、爲シタレトモ其重罪中未遂犯ヲ構成スルコト能ハサルモノアルヲ以テ此ノ如キ規定ハ不當トス且又廣キニ失スルノ恐アリ故ニ本條ノ如ク修正シ未遂犯トシテ罰スヘキ場合ハ各本條ニ於テ規定スルコト、ナシタリ

第九章 併合罪

本章ハ併合罪ノコトヲ規定ス

併合罪トハ確定裁判ヲ經サル數罪ヲ云フ抑モ一人ニシテ數個ノ犯罪ヲ爲シタルモノ罰スルニ付キ其方法三個アリ蓋シ現今歐洲各國ニ於テ行ハルル所ノ主義トス即チ左ノ如シ

第一 併科主義

此主義ハ數罪ヲ犯シタルモノハ其數罪ヲ併科スルモノナリ蓋シ一罪アレハ一刑之ニ伴フノ理ヨリ刑法ノ原則ト爲シタルニアリ一罪ニ付テ一刑ヲ科スヘキヲ以テ數罪アレハ數刑ヲ科スヘキハ自然ノ數ナルカ如シ數罪ヲ犯シテ只一刑ノミヲ科スルトセハ他ノ數罪ハ犯人ノ利得トナル故ニ或ハ犯人ヲシテ犯罪ヲ獎勵スルヤノ感アルヘシ即チ一罪ヲ犯シテモ一刑ナリ數罪ヲ犯スモ一刑ナリ寧ロ數罪ヲ犯シテ一刑ニ處セラルルハ得策ナリト云フカ如キニ至リテハ併科主義ハ刑法上ノ純理ニ適フヤモ知ルヘカラス

併シナカラ一利一害ニシテ併科主義ニ付テハ第一各犯罪ヲ通シテ適用スルコト能ハサルナリ例ヘハ二個ノ死刑ニ處スヘキ犯罪アリトセンカ二度死刑ニ處スルコト能ハサルヘシ又他ノ場合例ヘハ死刑ト無期刑ト併科スルコトモ亦能ハサルヘシ只死刑若クハ無期刑ト他ノ有期刑ト併科スルカ又ハ有期刑互ニ併科スルカノ場合ノミ故ニ各刑罰ニ通シテ適用スルコトヲ得サルノミナラス第二ニハ酷ニ失スルナリ即チ微少ナル刑モ之ヲ併科スルトキハ重大ナル一刑ニ處セラルルニ當ルヘシ而シテ其刑ノ長短ヨリ比スルトキハ罪質ニ於テ大ニ異ナルヲ見ル故ニ是亦當ヲ得サルニアリ左レハ此

主義ハ刑法ノ精神ニ反スルモノトス

第二 吸收主義

此主義ハ數罪中最モ重キ所爲ニ對シテ刑ヲ科シ他ノ輕キ所爲ハ重キ所爲中ニ吸收セラル、ト云フニアリ

此主義ハ佛國及ヒ我邦ノ採用スル所ニシテ併科主義ノ如ク大ナル弊害ヲ見スト雖モ他ニ大ナル弊害ヲ生スルニアリ即チ數罪ヲ犯シタル場合ニ一ノ重キ所爲ニ付テノミ罰セラレ他ノ輕キ所爲ハ重キモノニ吸收セラレ不問ニ付セラレルノ利アルヨリ犯人ハ一罪ヲ犯シテ一刑ヲ受ケンヨリ寧ロ數罪ヲ犯シテ一刑ヲ受ケント所謂犯罪ヲ獎勵スルニアリスノ如キハ刑罰ノ本旨ニ背キ何等效能ナキニ至ルヘシ併科主義ニ於テ一言シタルカ如ク苟モ刑ヲ犯シテ之ヲ罰スヘシトセハ數罪ヲ犯シテ一刑ノミヲ受ケ他ヲ科セサルト云フカ如キ理アラシヤ

第三 制限併科主義

此主義ハ第一ノ併科主義ヲ制限シテ弊害ヲ防キ數個ノ罪ノ各所爲ヲ罰シテ第二ノ吸收主義ノ弊害ヲ除キタリ故ニ此主義ハ原則上數個ノ犯罪ニ對シテ悉ク刑罰ヲ併科シ而シテ其併科ノ程度ヲ制限シテ第一主義ノ如キ弊害ヲ除カントシタルニアリ即チ數

罪ヲ犯シタルモノナレハ其數罪ヲ混一ニシテ特別ノ一罪ト爲シ之ニ特別ノ刑ヲ加ヘントスルニアリ而シテ罰金科料ノ如キハ常ニ之ヲ併科ス
此主義ハ現今獨、白、和等ノ歐洲各國ニ於テ行ハレタルモノニシテ新法モ亦之ニ倣ヒ各本條ノ如ク規定シタルモノトス

現行刑法ニ於テハ數罪俱發ノ名アリシモ今之ヲ改メテ併合罪トシタリ蓋シ確定裁判ヲ經サル數罪ハ必ラスシモ俱ニ發覺スルコトナク一罪已ニ確定裁判ヲ經タル後他ノ一罪ノ發覺スル場合ナキニアラス此等ノ場合ニ於テ數罪俱發ノ名ハ稍穩當ヲ欠ク嫌アリ故ニ之ヲ併合罪ト稱ス併シナカラ併合罪トスルモ各罪合併シテ新ニ一罪ト爲スニアラス各罪ハ尙ホ獨立シテ存在セシメ唯之ヲ併合シテ處斷スル義ナリトス
數罪俱發ノ場合ニ於テハ違警罪ヲ除ク外ハ所謂吸收主義ナリ其弊害ノコトハ已ニ前段之ヲ説キタリ新法ハ之ヲ認メ制限併科主義ヲ採用シ各本條ノ如ク規定シ死刑又ハ無期刑ニ當ル罪ト他ノ罪ノ併合セシトキハ之ヲ例外トシタリ

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

本條ハ併合罪ノ性質ヲ規定シタリ

確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪ト云ヘリ故ニ例ヘハ竊盜ヲ三度犯シ又ハ竊盜詐欺取財等四度犯シ何レモ未タ確定ノ裁判ヲ受ケサルトキハ之ヲ併合罪ト云ヒ以下ノ條目ニ照シテ裁判スルニアリ

若シモ其數罪中一ノ罪ニ付キ確定裁判ヲ受ケアリタルトキハ其確定裁判アリタル罪ト其確定裁判前ノ罪トヲ以テ併合罪トセリ例ヘハ二月十日ニ竊盜ヲ爲シ十五日モ亦之ヲ爲シ廿日ニ詐欺取財ヲ犯シタリトシ其内ニ付キ二月十五日ノ竊盜罪ノミ裁判ヲ受ケ確定シタリトセンカ此確定裁判アリタル二月十五日ノ罪ト裁判確定前ニ犯シタル二月十日ト二月二十日ノ兩度ノ罪ヲ以テ併合罪ヲ組織スルニアリトス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及沒收ハ此限ニ在ラス

本條ハ併合罪中一罪ハ死刑又ハ無期刑ニ處スヘキトキノ場合ヲ規定ス
第一項 數罪中其内ノ一罪カ死刑ニ處スヘキモノナルトキハ他ノ刑ハ科セスシテ一

ノ吸收主義ニシテ例外トシタリ蓋シ他ノ刑ヲ科シ得サルコトアルヲ以テ沒收ノ外ハ科セサルコト、爲シタリ而シテ沒收ハ被告人ノ身體ニ關係ナク之ヲ執行シ得ヘケレハナリ

第二項 又數罪中ニ無期ノ懲役又ハ無期ノ禁錮ニ處スヘキトキモ是亦他ノ刑ヲ科セサルモノトス是第一項ト同一ノ理ニシテ罰金、科料及ヒ沒收ノ外ハ科セサルコト、爲シタリ其沒收ノ刑ニ付テハ前項ト同一ノ理トス殊ニ罰金及ヒ科料ノ如キモ被告人ノ財産ヨリ徵收スルモノニシテ之ヲ併科スルモ差支ナケレハナリ

或ハ曰ハン第一項ノ死刑ト罰金及ヒ科料ト併合セシトキハ第二項ノ如ク併科シテ差支ナキカ如キニ第一項但書ニハ之ヲ除キタルハ如何ト云フニ已ニ死刑ニ處セラルルモノナリ極刑ヲ科スルニ當リテ罰金及ヒ科料ノ如キ輕キ刑ヲ科スルモ何ソ懲戒スルニ足ランヤ之レ但書ニ於テ金刑ヲ除キタル所以ナルカ

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ制限併科主義ヲ示ス

二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ科スヘキ場合ニシテ其數罪中最モ重キ罪ニ對スル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルヲ以テ併合罪ニ對スル刑ノ長期ト爲スヲ以テ原則トシタリ例ヘハ竊盜罪ヲ犯シ次ニ故買罪ヲ犯シ詐欺取財罪ヲ犯シタリトセヨ何レモ十年以下ノ懲役ニシテ第十條ニ依リテ犯情重キ竊盜罪ヲ重トセハ本條ニ從ヒ第二百三十六條ノ十年ニ其半數即チ五年ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トシ此犯人ヲ十五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

若シ此犯人ニシテ竊盜ト賍物收受罪トヲ犯シタルトキハ本條ニ依リ重キ竊盜罪ニ半數ヲ加ヘ十五年以下ノ懲役ニ處スヘキヤト云フニ本條但書ニ依レハ各罪ニ付定メタル刑ノ長期ヲ合セタルモノニ超ユルコトヲ得ストアリテ收受罪ハ第二百五十七條ニ依リ三年以下ノ懲役ナリ然ラハ第二百三十六條ノ十年ト合算スルトキハ十三年トナルニアリ然ラハ本條本文ニ依リテ算出シタル十五年ハ之ヨリ超ユルコト二年ナレハ重キニ失スルノ恐レアルヲ以テ此場合ニ於テハ犯人ヲ十三年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス蓋シ斯ノ如ク爲サ、レハ制限併科ノ主旨ニ反シ各刑ヲ併科シタルヨリ重キ刑ヲ科スルニ至ルヘケレハナリ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

本條ハ罰金ニ付テノ併合罪ヲ規定ス

第一項 刑ノ性質上併科シ得ラル、モノハ總テ併合スルノ主義ヲ採用スルヲ以テ罰金ノ如キハ他ノ刑ト併科スルコトヲ得ヘキニ依リ本項ヲ以テ原則トス故ニ懲役又ハ禁錮又ハ拘留ト併發シタルトキニ於テモ罰金ハ併科スルニアリ唯第四十六條第一項但書ニ於テ之カ例外ヲ認メ死刑ト併セ發シタルトキハ併科セサルニアリトス
第二項 二個以上ノ罰金ヲ併科スヘキトキハ其罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷スルコトヲ規定シタリ蓋シ併科主義ニシテ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ範圍内ニ於テ處斷シタル罰金額ヲ合算スルモ各罪ニ付キ定メタル罰金額ヲ合算シタル範圍内ニ於テ其罪ヲ處斷スルモ理ニ於テ異ナルコトナシ但罰金刑ノ範圍廣クシテ自由ニ之ヲ酌量シ得ル便宜ヲ存スルノ優レルノミ
例ヘハ巡查ノ職務執行ニ際シ侮辱ヲ加ヘタルモノカ後日過テ人ヲ傷害セシトキハ此

犯人ハ一ハ第九十六條ニ依リ三百圓以下ノ罰金ニシテ一ハ第二百十條ニ依リ五百圓以下ノ罰金トス故ニ此場合ニ於テハ本項ニ從ヒ此者ニ對シ八百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

本條ハ沒收ノ刑ニ付テノ併合ヲ規定シタリ

第一項 沒收ノ刑ハ第四十六條ニ規定シタルカ如ク何レノ場合ニ於テモ格別トシテ併科スル主義ヲ採リタリ蓋シ沒收ハ他ノ刑ト異ナリ必要上科スル特別ノ刑ニシテ被告人ノ財産ヨリ徵收スヘキモノナレハ本項ノ如ク假令附加刑トセサル重キ刑ニ依リテ科スルトスルモ沒收ノアル刑カ其中ニアルトキハ沒收ノミハ之ヲ特ニ附加セシムルニアリトス

第二項 二個以上ノ沒收ハ或ル物ヲ沒收スル必要アルヲ以テ第一項ノ如キ特殊ノ規定ヲ爲スカ如キモノナレハ之ヲ併科スルハ當然トス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

本條ハ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪ト併合シタルトキノ規定トス

第四十五條ノ原則ニ依レハ裁判ヲ經タル罪ト其以前已ニ犯シタル罪ニシテ未タ裁判ヲ經サル罪トハ共ニ之ヲ併合罪ト爲スト規定シタリ

即チ本條ハ其併合罪アリタルトキハ何レニ依リテ處斷スヘキモノナルヤト云フニアリ此場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷スルモノトシタリ蓋シ已ニ一ハ裁判ヲ經タルヲ以テ更ニ再ヒ之ヲ裁判スルノ必要ナシ且併合罪トシテ比較スルノ用ニ供スルニ外ナラス其執行方法ハ次條ニ之ヲ詳悉セン

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行スヘキトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ刑ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ二個ノ裁判アリタルトキノ執行方法ヲ規定シタリ

併合罪中一ハ已ニ裁判ヲ經タルモノニシテ一ハ未タ裁判ヲ經サルモノアル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ處斷シタル場合ニ於テハ併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルコトヲ想像スヘシ此場合ニ於テハ如何ニ刑ヲ執行スヘキヤ之レ本條ノ規定トス以上ノ場合ニ於テハ二個以上ノ裁判アリタルトキハ何レモ之ヲ併セテ執行スルヲ以テ原則トス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ之ヲ例ト外ス

- 一 二個以上ノ裁判中死刑ヲ執行スヘキモノアルトキハ第四十六條第一項ノ規定ト同シク只沒收ノミハ執行シテ他ノ刑ヲ執行セス唯一ノ死刑ノミヲ執行ス
- 二 又無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スヘキモノアルトキハ第四十六條第二項ノ規定ト同シク罰金科料及ヒ沒收ノミハ執行シテ他ノ刑ヲ執行セス唯無期ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ヲ執行ス
- 三 又有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スヘキモノアルトキハ第四十七條ノ規定ト同シク其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ヘテ執行スルコトヲ得サルモノトス故ニ此場合ハ裁判アリタル刑ノ内ニテ最モ長キモノヲ執行スルモノナリ而シテ右ノ制限ヲ守ルコトヲ要ス

本條ノ規定ハ執行官ニ於テ遵據スヘキ標準ト云フヘシ

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケ

タル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

■ 本條ハ併合罪中大赦ニ係ル罪アルトキノ規定トス

元來大赦ハ 天皇ノ大權ニ屬シ大赦アリタルトキハ其效力トシテ罪ニ付テノ裁判ノ效力ヲ消滅セシムルモノナリ故ニ併合罪中ニ大赦ヲ受ケタルモノアルトキハ之ヲ除外シ殘ル罪ニ付キ更ニ刑ヲ定メサルヘカラス之レ當然トス

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ

場合ハ此限ニ在ラス

一 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

■ 本條ハ拘留又ハ科料ニ對スル併合罪ヲ規定シタリ

第一項 拘留又ハ科料ト他ノ刑ト發シタルトキハ之ヲ併科スルヲ原則トシ併シナカラ若シモ死刑ト併發シタルトキハ沒收ヲ除ク外ハ併科ヲ爲サス又無期刑ト共ニ發シタルトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外ハ併科ヲ爲ササルモノトス

第二項 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ何レモ之ヲ併科ス蓋シ之ヲ併科スルモ酷ニ失スルノ虞ナキヲ以テナリ

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

註 本條ハ想像上ノ併發罪ニ付テ規定ス

第一項 併合罪ニハ同一犯人數個ノ犯罪行爲ヲ爲シ數度ニ同一又ハ數個ノ法律ヲ犯ス場合アリ之ヲ有形上ノ數罪ト稱シ其犯罪毎ニ一々處斷スルコトヲ得テ併合罪ニ基キ別ニ論スルコトナシト雖モ之ニ對スル想像上ノ數罪即チ犯人ノ行フタル所爲ハ一個ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ牽連スル犯罪ニ付テハ適用スヘキ規定ヲ必要トス之レ本項ノ規定スル所ナリ

本項ヲ區別スルトキハ

- 一 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レタルトキ
- 二 犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキ

其一二付テハ例ヘハ群集ニ對シテ發銃スルカ如シ其發銃ノ所爲ハ一個ナレトモ其發

是ナリ

銃ノ結果三人ヲ殺シ他ノ三人ヲ負傷セシメタルトキハ之レ三個ノ殺人既遂罪ト三個ノ殺人未遂罪トヲ發生スヘシ又例ヘハ懷胎ノ婦女ニ對シテ毒藥ヲ服セシメ而シテ死セス僅カニ胎子ヲ墮胎セシメタルトキハ一個ノ行爲ニシテ毒殺未遂罪ト墮胎罪トノ二個ノ罪名ニ觸ル、カ如シ

其二ニ付テハ例ヘハ人ヲ欺キ金圓ヲ騙取センカ爲メニ受取證ヲ偽造シタルカ如シ詐欺取財ヲ行フカ爲メニ文書ヲ偽造シ以テ手段トシタルカ如シ又人ヲ姦センカ爲メニ夜間門戶牆壁ヲ踰越シタルカ如シ姦通罪ヲ犯サンカ爲メニ其手段トシテ家宅侵入罪ヲ犯シタルカ如シ又例ヘハ未成年者ヲ略取シタル後現ハレンコトヲ恐レテ監禁シタルカ如シ之レ略取ノ結果監禁罪ヲ犯シタルニアリ又人ヲ不法ニ監禁シタル結果其人カ死シタルカ如シ監禁罪ヲ犯シタル結果死傷罪ニ觸レタルモノナリ

以上ノ場合ニ於テハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷セラル、ニアリトス

第二項 沒收ハ第四十九條第二項ノ如ク何レノ場合ニ於テモ併科スルモノナレハ第一項ノ如ク其最モ重キ刑ヲ以テ處斷スルニ拘ハラス尙ホ沒收ノ刑ハ併科スルモノトス之レ本項アル所以ナリ

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキ

ハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

■ 本條ハ連續犯ノコトヲ規定ス

抑モ連續犯トハ各所爲ハ分離シテ一罪ト爲シ得ヘキモ其目的一ナルカ爲メニ其所爲ヲ總テ一罪ト爲スモノヲ云フ例ヘハ甲ヨリ乙ノ倉庫ニアル米ヲ竊取セントシ夜々一俵宛ヲ竊取シ總計五俵アリシヲ五度ニ竊取シ終リタルカ如シ一夜一俵ノ米ヲ竊取スルヲ以テ一夜毎ニ一罪ヲ構成スヘシト雖モ其目的ハ一ナルヲ以テ之ヲ一罪トシテ論スルモノトス

現行刑法ニ於テハ本條ノ如キ規定ナキヲ以テ新ニ之ヲ設ケタルモノトス

第十章 累犯

■ 本章ハ累犯ノコトヲ規定ス

累犯トハ一罪ノ確定判決後再ヒ罪ヲ犯スヲ云フ現行刑法ノ再犯ト同シ

元來再犯人ハ已ニ確定裁判ヲ受ケ刑法ノ峻嚴ナルコトヲ知リナカラ尙ホ罪ヲ犯スモノナレハ未タ前非ヲ悟ラス又刑罰ノ恐ルヘキコトヲ知ラサル奸惡者ナレハ通常ノ刑罰ヲ以テ再犯者ヲ懲戒スルコトハ決シテ其效ナキモノナリ故ニ必ラス加重ノ刑ヲ加フルカ又ハ特別ニ重キ刑ヲ加ヘサルヘカラス然ラサレハ再犯者ヲ續出スルニ至ルヘ

シ

殊ニ犯罪中慣行性ノ犯罪人ハ罪ヲ犯スヲ性トシ犯罪ヲ以テ生活スルモノナレハ特別ノ方法ヲ以テ之ヲ防カサレハ社會ノ危險實ニ甚シキモノナリ即チ再犯加重ノ必要アルコトヲ知ルヘシ

再犯加重ヲ爲スニハ其主義ニアリ

一 一般再犯主義

二 特別再犯主義

是ナリ

一 一般再犯主義

此主義ハ初犯ノ確定判決ヲ經タル後 如何ナル犯罪ヲ犯スモ常ニ再犯ヲ構成スルヲ云フ而シテ初犯ト再犯トノ間ニハ期間ノ制限ナシ

二 特別再犯主義

此主義ハ初犯ト同一性質又ハ同一種類ノ犯罪ニ非サレハ之ヲ構成セサルヲ云フ而シテ初犯ト再犯トノ間ニ一定ノ期間ヲ設ケタリ

斯ノ如クニ主義各異ナルモ近世ノ各國制度ニ於テハ特別再犯主義ヲ採用セリ而シテ

此主義ハ理論ヨリ實驗ニ出テタルモノニシテ即チ人ハ慣ル、所ニ僻スル性ナレハ犯人モ其慣ル、所ノ犯罪ヲ屢々犯シ初犯モ窃盜再犯モ窃盜ト云フカ如キ類ニシテ其奪フ所モ衣類ノミノモノアリ金錢ノモノアリ貴金屬ノモノアリ土藏ノミヲ破ルニ慣ル、アリ夜盜ニ慣ル、アリ晝盜スルモノアル等決シテ違算ナキモノトス余モ實際上ニ於テ屢々之ヲ視タリ故ニ同性質又ハ類似ノ犯罪ニ對シテ再犯トシ特別ノ刑ヲ科スルハ其習慣ヲ破フルヘク又犯人モ之ヲ恐レテ慣行犯ヲ爲サ、ルニ至ルヘシ之レ近世大ニ行ハレ本法ニ於テモ此主義ヲ採用シ現行法ノ一般再犯主義ヲ改メタル所以ナリ

現行刑法第一編第五章ニ於テハ再犯及ヒ初犯間ノ日數ニ付キ重罪輕罪ニ關シテ何等ノ制限ナク初犯後數十年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレハ之ヲ再犯ト爲セリ是犯人ニ對シテ酷ニ失スルモノニシテ再犯加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ添ハサルコト前段ノ如シ特ニ再犯ハ初犯後久シカラサル期間内ニ於テ最モ多ク發生スルヲ以テ此點ニ對シテハ一ノ制限ヲ設ケ或ル年限内ニアラサレハ再犯例ヲ用ヒサルコト、爲シ特別再犯主義ヲ採用シタルモノトス

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之

ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

本條ハ再犯トハ如何ナル場合ヲ云フカヲ規定シタリ

第一項 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リタル日ヨリ(一)又ハ一旦懲役ノ刑ニ處セラレタルモ其刑ノ執行ノ免除アリタル日ヨリ(二)五年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯トシタリ

第二項 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者例ヘハ元來窃盜ノ罪ヲ犯シタルトキハ第二百三十六條ニ依リ十年以下ノ懲役ニ處セラル、モノナリ其同

質ノ罪例ヘハ強盜シテ人ヲ死ニ致シタルニ依リ死刑ニ處セラレタル者カ時効等ニ因リテ其執行ノ免除ヲ受ケ(一)又ハ酌量減刑ニ依リテ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リタルカ又ハ其執行ノ免除ヲ受ケ(二)タルトキハ一ノ免除アリタル日ヨリ二ノ執行ヲ終リ若クハ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキモ亦再犯ナリトス

第三項 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ該ル罪アリタルトキハ其懲役ニ該ル罪カ假令他ノ罪ヨリ輕キモノナリト雖モ之ヲ懲役ニ處セラレタルモノト看做シ第一第二項ノ例ニ照シ再犯ト爲スニアリトス

現行刑法ニ於テハ初メノ犯罪ハ必ラス確定裁判タルヲ要シ又假令改正刑法ト同一ノ立法例ニ於テモ裁判確定ヨリ若干年ト爲ス邦國アリシカ本法ハ之ニ反シ裁判確定ノミニテハ未タ犯人ノ再犯ヲ防クニ足ルヘキ實效ナキモノトシ其裁判ノ執行ヲ終ルカ若クハ其裁判ノ執行ノ免除ヲ受ケ十分ニ裁判ノ實效ヲ生シ得ヘント認ムヘキ時期ヨリ、起算スルコト、シ以テ五年トシタリ

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

本條ハ再犯ノ刑期ヲ規定シタリ

再犯ノ刑期ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トシタリ故ニ假令ハ竊盜ノ罪ニシテ再犯ナルトキハ第二百三十六條ニ依リ二十年以下ノ懲役ニ處スルモノトス現行刑法第九十一條乃至第九十三條ニ依レハ再犯罪ノ本刑ニ一等ヲ加フトシ何レモ四分ノ一ヲ加重シタリ故ニ其分量輕キニ失シ爲メニ現時累犯者ノ多キヲ見ルニ至リ再犯ヲ防止スル目的ヲ達スルコトヲ得ス蓋シ刑法改正ノ一大要點トス故ニ本條ノ如ク之ヲ二倍シテ其以下ヲ以テ嚴重ニ處スルモノトス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

本條ハ裁判確定後再犯ナルコトヲ發見シタルトキノ規定トス

第一項 犯人ハ再犯ナルコトヲ隱蔽シテ成ルヘク罪ノ輕カランコトヲ欲スルモノナリ殊ニ前條ノ如キ規定アルニ於テ尙ホ進ンテ犯數ヲ隱蔽スルニ勤メ其隱蔽者ノ倍々増加スルヲ見ルヘシ從テ裁判確定後ニ於テ再犯ナルコトヲ發見スル場合ニ於テハ之

ヲ加重スヘキ方法ナキトキハ隱蔽スルヲ以テ得策トスルノ憂アルヘシ故ニ本條ヲ設ケ假令裁判確定後ト雖モ前條ノ規定ニ從ヒ加重スヘキ刑ヲ定メテ刑期ヲ改ムニアリ

第二項 已ニ執行ヲ終リ又ハ免除シタルモノハ第一項ヲ適用セサルモノトス

現行刑法ニ於テハ斯ノ如キ規定ナキヲ以テ犯人ハ其裁判當時爭フテ再犯ナルコトヲ隱蔽シ萬一ヲ僥倖セント企ツルモノアリシ故ニ本條ヲ設ケ之ヲ矯正シタリ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

本條ハ三犯以上ニ於ケル加重ノ方法ヲ定ム

三犯以上ノ場合ト雖モ尙ホ再犯ノ例ニ依ルモノトス

現行刑法第九十八條ハ同一旨趣トス已ニ再犯ニ於テ十分ノ加重ヲ爲シ得ル範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上ニ於テハ別ニ加重ノ特例ヲ設クル必要ヲ認メサルモノトス

第十一章 共犯

本章ハ共犯ノコトヲ規定ス

共犯トハ二人以上同一ノ意思及ヒ同一ノ目的ヲ以テ罪ヲ犯スヲ云フ而シテ刑法上共犯ノ制ヲ設クルハ左ノ理由アリ

一 刑法上責任ヲ定ムルニハ社會ノ危害ノ程度ニ從フモノナリ左レハ一人ニテ一

罪ヲ犯スト數人共同シテ一罪ヲ犯ストハ社會ノ危害ヲ受クルモノ同一ニアラス即チ一人犯シタル害ヨリ數人共同シテ犯シタル害ノ多大ナルハ論ヲ俟タス從テ其犯人ニ責任ヲ負ハシムルモ亦大ナラサルヘカラス

二 數人共同シテ犯罪ヲ爲スモ各人ノ行爲皆同一ナラス或ハ輕キ行爲ヲ爲スモノアリ又或ハ重キ行爲ヲ爲スモノアリ然ルニ各人ニ對シテ同一ノ刑ヲ科スルモノトセハ或ハ輕キモノ重キ刑ヲ受ケ重キモノ輕キ刑ヲ受クルニ至リ實際ニ適セスシテ刑法ノ本旨ニ適ハサルヲ以テ共同シテ行フタルモノト雖モ其加擔ノ程度ニ付テ斟酌シ各人ノ責任ヲ定メントス

以上ノ理由ニヨリ共犯ノ規定ヲ設ケタルモノトス

而シテ其加擔ノ程度ニ付テハ犯罪ニ直接ナル加擔行爲ト間接ナル加擔行爲トアリ即チ犯罪ノ實行ニ屬スル行爲ト豫備ノ所爲又ハ原動力ヲ以テスル行爲トアルヘシ其實行ニ屬スル行爲ヲ爲スモノヲ正犯ト云ヒ原動力ノ行爲ヲ爲シタルモノヲ教唆者ト云ヒ豫備ノ行爲ヲ爲シタルモノヲ從犯トス

正犯ハ第七十二條ニ教唆者ハ第七十三條ニ從犯ハ第七十四條ニ之ヲ規定ス

現行刑法第一編第八章ニ數人共犯トシテ規定シタリ改正法ニ於テハ其不備ヲ補ヒタル

ニ止マリ趣旨ニ於テハ別ニ變更ヲ加ヘタル所ナシトス

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ヲ皆正犯トス

註 本條ハ正犯ノ何タルコトヲ示シタリ

二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯ト云ヘリ即チ犯人自ラ罪ヲ犯ス意思ヲ以テ犯罪行爲ノ一部又ハ全部ヲ自ラ實行シ又ハ實行セシメ若クハ共同實行スルノ任ニ當ル者ナリ即チ二人以上同一ノ犯意ヲ以テ同一ノ犯罪ヲ共ニ實行シタルモノヲ云ヘリ例ヘハインチキト稱スル詐欺賭博ノ如キ番頭トシテ被害者ヲ誘ヒ出スモノ、如キ旦那アリ客アリ而シテ被害者ノ如キハ其賭博ニ與カラス旦那ト客ト賭博シテ故ラニ勝敗ヲ爲ス此時ニ當リテハ番頭ノ如キ決シテ賭博ニハ手ヲ下サ、ルモ犯罪ノ實行上一部ヲ任シタルモノナレハ所謂正犯ナリ又竊盜ヲ爲スニ家ニ入りタル者荷物ヲ運フモノ見張ヲ爲スモノ等アリ何レモ犯罪ノ實行者ナリ左レハ本條ノ如ク共同シテ犯罪ヲ實行シタルモノト云フヘキナリ

現行刑法第百四條ニハ「現」ノ文字アリ故ニ必ラス二人以上猶ホ一人ノ如ク一犯罪ヲ爲サ、レハ能ハサルカ如シ然レトモ前述ノ如ク犯罪ノ性質上二人以上ハ必ラスシモ其犯罪ノ實行ヲ共ニスルノ必要ナキ場合アルヘシ左レハ現行法ハ少シク意義狹キニ失

ス又各自ニ其刑ヲ科ストアルモ已ニ法律ニ於テ各正犯トシタル以上ハ各自正犯トシテ其刑ヲ科セラル、コトハ當然ニシテ明文ヲ要セサルモノナレハ之ヲ削除シタリ

判決例

犯罪實行ノ場所ニ於テ見張ヲ爲シタル所爲ハ犯罪ノ實行ニ外ナラス(二八、二二、一九) 數人共謀ノ事實アル以上ハ其共謀者中何人カ之ヲ實行スルモ共謀者一體ノ行爲ナリトス(二九、三、三)

二人以上共ニ相謀リ各分擔スル所ヲ定メ犯罪行爲ニ著手シタル以上ハ分身一體ニシテ均シク正犯ナリ(二九、一、二、一五)

二人共謀シテ一體ト爲リ犯行ニ著手シタル以上ハ其一人例令手ヲ下サ、ルモ二人同一ノ罪責ニ任セサルヘカラス(三〇、五、六)

共犯ノ一人ハ他ノ共犯者ヲ代表シテ行動ヲ爲スモノナルカ故ニ共犯中一人ノ行爲ニ付テハ他ノ共犯者モ共ニ其責ニ任スヘキモノトス(三五、三、二八)

共犯ノ關係アリトスルニハ各犯人カ其犯罪事實ヲ知リテ之ニ關與シタル事實アルヲ以テ足ル從テ共犯者カ豫メ通謀シタルヤ否ヤハ之ヲ問フヲ要セス(三六、五、二九) 見張ハ犯罪ノ實行ヲ維持スル爲メノ一ノ必要手段ナリトス從テ實行ノ所爲ヲ擔任シ

タルト見張ノ所爲ヲ擔任シタルトハ其責ニ輕重ナキヲ以テ等シク實行正犯トシテ處罰スヘキモノトス(三六、六、二)

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

本條ハ教唆者ヲ罰スル場合ヲ示シタリ

第一項 教唆ハ犯罪ノ意思ヲ以テ之ヲ他人ニ注入シ其人ヲシテ一定ノ犯罪ヲ行ハシムルヲ云フ即チ原動力ヲ與ヘタルモノナリ故ニ有形上ノ犯罪事實ニ關係セサルモノニシテ只無形上犯罪ノ意思ヲ發起セシメタルニ過キササルナリ即チ他人ニ犯罪ヲ注入シ其他人ハ其意思ヲ受ケテ犯罪ヲ實行シタルニアリ

斯ノ如キハ直チニ以テ正犯ト爲スヘカラス即チ正犯ハ有形事實ニ關シタルモノナルコト前條ノ如クナレハ本條ノ如ク無形事實ニ關シタルモノハ之レ正犯ト責任ヲ同シクスルニアリ故ニ正犯ニ準ストシタリ

第二項 教唆者ヲ教唆シタル者モ亦正犯ニ準シタリ蓋シ教唆者ヲ教唆シタル者モ又無形上ノ犯罪事實ニ關シタルモノナレハナリ而シテ其教唆者ヲ教唆シタル者ハ何レマテヲ準正犯ト爲スカ例ヘハ丁ヲ教唆シテ竊盜ヲ爲サシメタル丙次ニ丙ヲ教唆シ

テ丁ヲシテ實行セシメタル乙次ニ乙ヲ教唆シテ以上ノ如ク實行セシメタル甲アリトセンカ本項ハ甲乙及ヒ丙ヲ罰スヘキヤト云フニ本項ニ依レハ教唆者ヲ教唆シタル者トアリテ其以上ニ及ハス故ニ例示ノ如キハ丙及ヒ乙ヲ以テ準正犯トシタリ即チ犯人ヨリ第二著目ニアル者ノミニ止メタリ

現行刑法第五條ニ於テハ教唆者ヲ正犯ト爲ストアリ教唆者ハ實行正犯ニアラサレハ正犯ト云フヘカラサルモ其責ニ於テハ正犯ト同一ナラサルヘカラス故ニ之ヲ準正犯ト修正シタリ

又教唆者ノ教唆者ニ付テハ明文ナキヲ以テ實際上往々不良ノ徒ヲ免レシムルコトアリ故ニ改正シテ之ヲ加ヘタリ

判決例

教唆罪ハ自分ノ意思ヲ他人ニ傳ヘ他人ヲシテ其意思ノ如ク決行セシメタル事實アレハ成立スルモノニシテ其方法手段ハ必ラスシモ關係ヲ有スヘキモノニ非ス(二四、一〇、二九)

被教唆者ノ罰セラルルト否トヲ問ハス苟モ人ヲ教唆シテ犯罪行爲ヲ爲サシメタルトキハ教唆罪ヲ成立ス(三二、五、二二)

刑法第五條ハ被教唆者自ラ指定セラレタル重輕罪ヲ犯ス場合ナルト更ニ他人ヲシテ被教唆罪科ヲ決行セシメタル場合ナルトヲ問ハス齊シク教唆者ヲシテ其責ニ任セシムルノ法意ナリトス(二七、四、一五)

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

本條ハ從犯ヲ規定ス

第一項 從犯ハ共犯ノ一種ニシテ正犯ヲ幫助シタル者ナリ而シテ幫助ヲ爲スニ付テハ種々アリ犯罪ノ器具ヲ給與スルカ如キ例(ハ窃盜ヲ爲ス便ナルカ爲メニ梯子ヲ貸シタルカ如シ又錠前ヲ開クカ爲メニ鍵ヲ貸與シタルカ如シ又誘導指示スルコトアリ例ハハ家屋ノ構造ノ如キ財産ノ所在ノ如キ忍ヒ入ルヘキ道筋ノ如シ其他豫備ノ所爲ヲ爲スハ皆幫助ノ方法トス
注意スヘキハ從犯ハ必ラス正犯ノ實行以前ナラサルヘカラス故ニ犯罪實行中ノ如キ犯罪實行後ノ幫助ハ之ヲ包含セス其實行中ノ幫助ハ正犯トナルヘク又實行後ノ幫助ハ別ニ犯罪ヲ構成スルニアリ

第二項 從犯ヲ教唆シタル者ハ準從犯トス前條第二項ノ如ク教唆者ノ教唆者ヲモ罰

スル以上ハ從犯ノ教唆者ヲモ罰セサレハ不權衡ナレハナリ

現行刑法第九條ニハ幫助ノ方法ヲ例示シタルモ實益ナシ故ニ之ヲ删除シ苟モ正犯ノ幫助スルモノハ總テ之ヲ從犯トシタリ新法ニ於テモ事後從犯ハ包含セシメス只幫助ノ方法ノミヲ删除セシニ外ナラス

現行刑法ハ從犯ノ教唆者ヲ罰セス故ニ之ヲ補ヒタリ

判決例

器具ヲ給與シ正犯ヲ幫助シテ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ器具ノ精粗方法手段ノ巧拙ヲ問ハス皆從犯トス(二四、九、二六)

誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ告訴人ト共謀シ其代人トナリ告訴狀ヲ檢事ニ提出シタル所爲ハ從犯トス(三〇、七、二)

墮胎ヲ爲スノ情ヲ知リテ房屋ヲ給與シタル所爲ハ墮胎罪ノ從犯ナリ(三一、四、七)

他人カ酒ヲ密造スルコトヲ知テ原料米ヲ供給シタルハ密造ノ從犯ナリ(三六、四、二四)

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

本條ハ從犯ノ所罰方法ヲ示ス

從犯ハ正犯ト異ナリ犯罪ノ成立ヲ幫助シタルニ止マリ其情狀輕シ故ニ正犯ノ刑ヨリ

減輕ス其方法ハ第六十八條ニアリ

現行刑法第九條ニ於テ正犯ノ刑ヨリ一等ヲ減ストアリ蓋シ新法ハ等減ノ制ヲ廢シタルヲ以テ只刑ヲ減輕スト規定シタリ其意義ニ於テハ同一トス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ハ拘留又ハ科料ノ罰ノ教唆者及ヒ從犯ノコトヲ規定ス

拘留又ハ科料ノミニ處スヘキ罪ハ何レモ罪質輕微ナルモノナリ故ニ一般ニ教唆者又ハ從犯ヲ罰スルハ酷ニ失ス左レハ若シモ之ヲ罰スヘキ必要アルモノニ付テハ特別ニ之ヲ規定スルモノトス

現行刑法ニ於テモ違警罪ノ如キ輕微ナル犯罪ニ付テハ教唆者及ヒ從犯ヲ罰セサルモノナリ新法モ亦敢テ異ナルコトナシ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ

科ス

本條ハ犯人ノ身分ニ因リ犯罪ヲ構成スヘキ場合ニ加功シタル者及ヒ身分ニ因リ加重スヘキ場合ヲ規定ス

第一項 犯人ノ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪行爲ニ加功シタルトキ例ヘハ受託者カ受託物ヲ費消スルニ際シ共ニ之ヲ費消シタル者ノ如キ官吏ト共謀シテ賄賂ヲ受ケタルトキノ如キ官吏ト共ニ監守盜ヲ働キタルトキノ如キハ其非受託者又ハ非官吏ハ犯罪行爲上身分ナキモノニシテ決シテ單獨ニ委託物費消罪、收賄罪及ヒ監守盜ヲ犯スコト能ハサルモノナリ然レトモ其資格者ト共ニ之ヲ犯シタルトキハ共犯ナリトシ以テ第六十條ノ規定ニ從ヒ正犯トナリ又ハ第六十一條ニ依リ教唆者トナリ第六十二條ニ依リ從犯トナスニアリトス

第二項 身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキ例ヘハ甲カ自己ノ親ヲ殺サントシタルニ他人ノ乙之ニ加功シタルトキノ如キハ子ハ第二十一條ニ因リ處罰セラル、モ他人ハ第二十二條ニ依リテ罰セラル、カ如シ之レ至當トス又例ヘハ公務員ニ賄賂ヲ交付シタル共犯者中ニ一人自首シタルトキノ如キハ自首者ハ第九十九條第二項ニ依リ處罰セラル、モ自首セサル者ハ同條第一項ニ依リテ罰セラル、カ如シ

現行刑法ニ於テハ本條第一項ハ規定セサルヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サリシナリ然ルニ今之ヲ設ケ以テ完全ナラシム
又本條第二項ハ現行刑法第六條及ヒ第一百條ト同一ナリトス

第十二章 酌量減輕

■ 本章ハ酌量減輕ノコトヲ規定ス

酌量減輕ハ一ニ裁判上ノ減輕ト云ヒ裁判官ノ特權ヲ以テ任意ニ行フ所ノ減輕ナリ而シテ刑法ハ法律上ノ減輕ヲ爲シタルニ拘ハラス尙ホ酌量減輕ヲ設ケタルハ蓋シ犯罪ノ事實ハ千變萬化ニシテ同一ノ犯罪ト雖モ大ニ惡ムヘク又ハ大ニ恕スヘキアリテ其危害一定セス假令各本條ニ於テ範圍ヲ設ケタルモ尙ホ其以下ニ於テ恕スヘキ情狀ノ生スルコトアルヲ以テ本章ヲ設ケ裁判官ヲシテ其事情ニ付キ斟酌シ適當ノ刑罰ヲ加ヘ遺憾ナカラシメント欲シタルモノトス

現行刑法ハ第一編第四章第三節ノ規定ト其趣旨ヲ同フス新法ハ現行法ノ刑ノ範圍狹キニ失シ實際上刑ノ權衡ヲ失スル弊アルヲ避クルカ爲メ刑ノ範圍ヲ濶クスルコトヲ目的トナシ各本條ニ於テ各罪ニ對スル刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ因リ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ定メシムルコト、爲セリ然レトモ或場合ニ在リテハ尙ホ刑重キニ失ス

ト爲スヘキコトナシトセス是ヲ以テ更ニ酌量減輕制ヲ設ケ適當ノ刑ヲ科セシメンコトヲ欲シ本章ノ規定ヲ存シタルナリ

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

■ 本條ハ酌量減輕スヘキ場合ヲ定ム

酌量減輕ハ情狀憫諒スヘキモノニ付テ適用セララル、ナリ故ニ其場合ハ千差萬別一々之ヲ明記スルコト難シ裁判官ニ於テ其犯罪ノ情狀ヲ審案シ以テ適用スルニアリ
酌量減輕ハ裁判上ノ減輕ナレハ假令法律上ノ減輕アルモ尙ホ之ヲ適用スルコトヲ得ヘシ又假令加重スヘキ場合アリテモ亦然リ其事ハ次條ニ之ヲ示ス

現行刑法第八十九條第一項ト其意義同一トス

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

■ 本條ハ法律上ノ減輕ト酌量減輕トノ關係ヲ規定ス

已ニ前條ニ於テ一言シタルカ如ク法律上ノ加重ハ勿論減輕スル場合アリト雖モ其犯罪ノ情狀ニシテ憫諒スヘキモノアルトキハ尙ホ之ヲ減輕スルコトヲ得セシムルモノ

トス

現行刑法第八十九條第二項ト其主旨同一トス

判決例

酌量減輕ハ本刑ノ範圍ニ從テ減輕スヘキモノニシテ被告人ニ科スヘキ刑期ヲ定メ其
刑期ヨリ減輕スヘキモノニ非ス(二九、一〇、二九)

第十三章 加減例

註 本章ハ刑ヲ加減スル例ヲ規定シタリ

各本條ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕スヘキ場合ヲ示シタルトキニ於テ其加重及ヒ減輕
スヘキ方法ヲ示サ、レハ如何ニシテ爲スヘキヤ知ルヘカラス之レ本章ノ設ケアル所
以ナリ

現行刑法ハ第一編第三章加減例ト題シテ其加減ノ方法ヲ規定シ尙ホ第六章ニ於テ加減
順序ヲ定メタリ改正刑法ハ之ヲ本章ニ合併シテ之ヲ定ム

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルト
キハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮

トス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲
役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ
減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

註 本條ハ減輕方法ヲ列記シタリ

法律上ノ減輕ハ一個又ハ數個ノ減輕スヘキ原因アルモ本條列記ノ如ク減輕スルモノ
トス

死刑ヲ減輕スヘキトキハ無期ノ懲役カ無期ノ禁錮カ又ハ十年以上ノ有期懲役カ十年
以上ノ有期禁錮カニ爲スヘキナリ

無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕スヘキトキハ七年以上ノ有期懲役カ七年以上ノ有期禁錮

ト爲スヘキナリ

其他ノ四個ニ付テハ二分ノ一ヲ減スルモノトス又減スルトキハ懲役ハ懲役トナルヘク禁錮ハ禁錮ニ爲スヘキハ第二號ノ如シト雖モ死刑ニ付テハ懲役又ハ禁錮ト何レニ爲スモ可ナリ

現行刑法ハ第六十六條以下ニ於テ減輕ノ分量ヲ定ムル方法ニ付キ詳細ナル規定ヲ設ケタリト雖モ新法ハ斯ノ如キ規定ヲ設クルコトヲ得サレハ改正ノ結果トシテ新タニ減輕方法ヲ規定シタリ而シテ其法律上ノ加重ニ付テ之カ規定ヲ爲サ、ルハ加重ハ改正法ニ於テハ再犯若クハ併合罪ノミニ係ルヲ以テ各其章ニ於テ之ヲ定メタレハ茲ニハ之ヲ規定セサルナリ

現行法ハ刑ノ種類ヲ細別シテ多クノ階級ヲ設ク加減ノ原因數個アルトキハ一個毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコト、爲シタリシカ改正刑法ハ刑ノ範圍極メテ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スル結果ハ又頗ル刑ヲ輕クスルコト、爲ルヘシ是ヲ以テ假令數個ノ減輕ノ原因アルトキト雖モ之ヲ合シテ一ト爲シ一度刑ヲ減輕スルニ止メタリ決シテ之ヲ縮少シタルニハアラサルナリ

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以

上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

註 本條ハ二個以上ノ刑名アル場合ノ減輕方法ヲ定ム

改正刑法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ其裁量ハ之ヲ裁判官ニ自由ニ任シタル場合多シ故ニ各本條ニ於テ二個以上ノ刑名ヲ設ケ裁判官ヲシテ其一ヲ撰ハシムルモノナリ例ヘハ第九十五條ノ如シ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス又例ヘハ第二百二十四條ノ如シ堤防ヲ決潰シ水開ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲又ハ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ストアルカ如シ一ハ二個ノ刑名アリ一ハ二個以上ノ刑名アリ故ニ此場合ハ先ツ適用スヘキ刑ヲ定メ然ル後其刑ヲ減輕スヘキモノトス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時

間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

【註】本條ハ一日ニ滿タサルモノ又ハ一錢ニ足ラサルトキノ方法ヲ規定ス

第一項 第六十八條ニ依リ二分ノ一ノ減輕方法ヲ用ユルトキハ一日ニ滿タサル端數ヲ生スルコトアリ此場合ニ於テハ實際上ノ便宜ノ爲メ之ヲ除棄スルニアリトス

第二項 同上ノ如ク金額ニ於テモ一錢ニ足ラサル厘數ヲ生スヘシ是亦第一項同様ニシテ便宜上之ヲ除棄スルモノナリ

現行刑法第七十三條ニ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄スルコトヲ規定シ本條第一項ト同一タリ其金額ニ付テハ之カ規定ナキヲ以テ本條第二項ヲ補ヒタリ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及前條ノ例ニ依ル

【註】本條ハ酌量減輕ヲ爲ス場合ニ付テノ規定トス

酌量減輕ハ法律上ノ減輕アルニ拘ラス尙ホ減輕スルコトヲ得ハキモノナリ即チ法律上減輕シタル刑ノ範圍カ尙ホ犯罪ニ比シ重キニ失スル場合ニ適用スル趣旨ナリ

此場合ニ於ケル減輕方法ハ第六十八條及ヒ第七十條ニ依リテ夫々減スルモノトス

現行刑法第八十條ニ減等方法ヲ規定スルモ改正ノ結果其方法ヲ廢シ本條ノ如ク改メタルニアリトス

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

【註】本條ハ加減順序ヲ定ム

同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキトキハ本條ノ列記順序ニ從ヒ加重減輕ス而シテ其第一ニ再犯加重ヲ置クハ犯罪中再犯ノモノアルトキハ其刑期ハ本刑ノ二倍以下トナルコトヲ定メタルヲ以テナリ次ニ法律上ノ減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ亦各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ減輕スヘク第三ニ併合罪ヲ置キタルハ前二個ノ加減例ニ依リ各罪ニ付キ一旦刑ヲ定メ然ル後併合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル必要アルニ因ル最後ニ酌量減輕ヲ置キタルハ其裁判所ノ任意ニ出テ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先スヘキ性質ノモノニアラサレハナリ

現行刑法第九十九條ニ適スルモノナレトモ其加減方法ヲ改メタルヲ以テ從テ順序モ亦

改メタリ

第二編 罪

■ 本編ハ各種ノ罪及ヒ之ニ對スル刑ニ關スル規定トス

現行刑法ハ第二編ニ於テ公益ニ關スル重罪輕罪ヲ規定シ第三編ニ於テ身體財產ニ關スル重罪輕罪ヲ規定セリ然レトモ此區別ハ刑法編纂上何等ノ實益ナキノミナラス却テ疑義ヲ醸生スルノ虞アルヲ以テ改正刑法ハ此種ノ區別ヲ廢棄セリ又現行刑法ハ第四編ニ違警罪ヲ規定シタリト雖モ改正法ハ拘留又ハ科料ニ處スヘキモノハ多クハ地方ノ情況若クハ時急ニ應シ規定スヘキモノナルヲ以テ現行法ノ違警罪中刑法ニ規定スヘキモノハ拘留又ハ科料ニ處スヘキ罪トシテ之ヲ第二編ニ收容シ他ノ罪ト共ニ其種類ニ從テ之ヲ各章ニ參酌シ其他ハ悉ク特別ノ立法ニ讓ルコトト爲シタリ

現行法ノ罪目中他ノ法令ノ罰則ト相俟テ行ハルヘキモノ少ナカラス此等ノ罪目ヲ刑法ニ規定スルハ實際上極メテ不便ナルノミナラス往々他ノ法令ノ罰則ト牴觸シ或ハ重複シテ解釋上ノ困難ヲ生スルコト敢テ少ナシトセス是ヲ以テ改正法ハ他ノ法令ト相渉ルヘキモノハ成ルヘク之ヲ特別法ニ讓ル目的ヲ以テ現行法ノ罪目ヲ削減シタリ又現行法ハ重罪及ヒ輕罪ノ區別ヲ爲シ數多ノ刑名ヲ設ケ特ニ刑ノ範圍ヲ極メテ狹隘

第二編罪

ニシタルヲ以テ裁判所ハ其適用ヲ爲スニ當リ自由ニ判斷ヲ爲ス餘地狹隘ナリトス故ニ情狀輕キ罪ニ過重ノ刑ヲ科シ其重キモノニモ過輕ノ刑ヲ科スルノ止ムヲ得サルニ至リ現時此點ニ於テ多大ノ弊害ヲ生シタリ改正法ハ此弊害ヲ矯メ各罪ニ付キ成ルヘク刑ノ範圍ヲ廣メ罪ノ情狀ハ一ニ之ヲ裁判官ノ認定ニ任シ以テ力メテ罪刑ノ權衡ヲ保タシメンコトヲ期セリ是ヲ以テ或ハ刑ノ最低量ヲ定ムルコトヲ止メ或ハ擇一刑ヲ規定シ裁判官ヲシテ成ルヘク刑ノ適用ノ宜シキヲ得セシムルコト、爲セリ故ニ各本條ヲ説明スルニ當リテハ特別ノ理由アルニ非サレハ別ニ刑ノ變更ニ付テ其理由ヲ附セサルヘシ

現行法ニハ國交ニ關スル罪ノ規定ヲ欠ク爲メ改正法ハ新ニ之ヲ設ケタリ
現行法第二編第三章ハ靜謐ヲ害スル罪ト題シ數種ノ犯罪ヲ包含セシムト雖モ本編ニ於テハ之ヲ第五章公務ノ執行ヲ妨害スル罪、第六章逃走ノ罪、第七章犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪、第八章騷擾ノ罪、第九章放火及ヒ失火ノ罪、第十章溢水及ヒ水利ニ關スル罪、第十一章往來ヲ妨害スル罪、第十二章住居ヲ侵ス罪、及ヒ第十三章秘密ヲ侵ス罪ニ分チタリ

現行法第二編第三章第四節附加刑ノ執行ヲ遁カル、罪トアルモ改正法ハ監視ヲ刪除

シタル結果之ヲモ削除シタリ

現行法ノ靜謐ヲ害スル罪ノ中第五節第九節ハ共ニ他ノ法令ニ讓ル目的ヲ以テ之ヲ刪除シタリ

現行法第二編第四章中第七節、第八節及ヒ第九節ハ共ニ前項ト同一ノ理由ヲ以テ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第十六章乃至第二十章ニ規定シタリ

同編第五章中第三節、第四節、第五節及ヒ第六節ハ亦前項ト同シク之ヲ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第十四章第十五章ニ之ヲ規定シタリ

同編第六章ハ之ヲ擴張シ現行法第三編第一章第十一節ノ規定ハ之ヲ本編第二十二章トシ又現行法第二編第七章モ同一ノ理由ニ因リ第二十四章ヲ設ケタリ

同編第八章ハ或ハ其必要ナシトシ或ハ他ノ法令ニ讓ル目的ヲ以テ全部之ヲ刪除シタリ

同編第九章ハ之ヲ擴張シ公務員ニ關スル規定ト爲シ其第三節官吏財産ニ對スル罪ハ一般ノ財産ニ對スル罪ト共ニ規定シテ之ヲ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第二十五章ニ規定シタリ

現行法第三編第一章中第三節ハ總則ニ於テ其規定ヲ設ケタルヲ以テ之ヲ刪除シ其第

一節第二節第四節第五節第八節及ヒ第九節ノ罪ハ之ヲ本編第二十六章乃至第三十章ニ於テ又第六節第七節及ヒ第十二節ノ罪ハ之ヲ本編第三十一章乃至第三十三章ニ於テ規定シ第十二節中誣告罪ハ本編第二十一章ニ規定シ誹毀罪ハ本編第三十四章ニ其規定ヲ設ケ第十三節ハ尊屬親ニ對シ加重ヲ必要トスル場合ハ之ヲ各本條ニ規定スルヲ以テ刪除シタリ

同編第二章中第一節第二節ハ之ヲ本編第三十六章ニ規定シ同編第三節及ヒ第五節中受寄財物ニ關スル罪ハ之ヲ横領罪トシテ第三十八章ヲ設ケタリ又同編第四章ハ之ヲ他ノ法令ニ譲リ第七節及ヒ第八節ハ前ニモ云フカ如ク本編第九章第十章ニ規定シ第九節モ亦第十一章ニ規定シタリ

第一章 皇室ニ對スル罪

本章ハ皇室ニ對スル罪ヲ規定ス

皇室トハ天皇以下皇族ヲ總稱シ奉リタル文字ニシテ文字ヨリ見ルトキハ天皇以下皇族ノ御身體ハ勿論財産ニ對スルモノモ亦包含スルカ如シ然レトモ各本條ヲ見ルトキハ單ニ御身體ニ對シ奉ル罪ノミヲ規定シタルモノナリ

現行刑法第二編第一章ノ規定ト同一ノ趣旨トス只附加刑ナキハ改正法ハ沒收ノ外附加

刑ナキヲ以テナリ

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ天皇以下皇太孫ニ對スル罪ヲ規定ス

天皇トハ在位ノ君主ヲ奉稱ス或ハ曰ク太上天皇モ亦天皇ナレハ包含スト然レトモ皇室典範第十條ニ依レハ天皇ハ御在世中ハ御位ヲ去リ給ハサル規定ナリ故ニ太上天皇ヲ仰クコトナキナリ

太皇太后トハ先々帝ノ皇后ヲ奉稱シ皇太后トハ先帝ノ皇后ヲ奉稱シ皇后ハ皇后ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱シ皇太子トハ典範第十五條第十六條ニ依リ皇太子ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱シ皇太孫トハ皇太子ノ御子ニシテ天皇ノ御孫ニ當ラセラル、御方ヲ奉稱ス

以上天皇三后皇太子皇太孫ノ御身體ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處スヘキモノトス

危害トハ如何ナルモノナルヤ文字汎博ナルモ御身體ニ對シ奉リ害スルヲ意味ス左レハ生命ヲ害シ又ハ身體ヲ傷クルコトヲ云フ次ニ危害ヲ加ヘントシタルトハ如何ナル

程度マテヲ云フカト云フニ犯罪行為ニ著手若クハ缺効ノ未遂ヨリ下ハ豫備及ヒ陰謀
マテヲモ包含スルモノト解釋セサルヘカラス陰謀ハ單ニ決心ト異ナリ二人間其犯罪
ノ計畫ヲ協議シ外部ニ現ハレタル所爲ナレハ之ヲ「加ヘントシタル」中ニ包含スルモ
決シテ不當ニアラサルナリ

現行法第百十六條ト其意義同一ナリ只三后トアルヲ太皇太后、皇太后、皇后トシ皇太孫
ヲ加ヘテ缺點ヲ補ヒタルノミ

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ
不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

本條ハ不敬ノ罪ヲ規定シタリ

第一項 天皇以下皇太孫ニ對シ奉リ不敬ノ所爲ヲ爲スモノハ三月以上五年以下ノ懲
役ニ處スヘキモノトス而シテ不敬トハ皇室ノ尊嚴ヲ汚損スル性質ノ所爲ナリ其事柄
ハ一々具體的ニ列記スルコト能ハス事實裁判官ノ判定ニ任スヘキモノナレトモ先ツ
罵詈、嘲弄、誹毀、侮辱ハ勿論苟モ尊嚴ヲ汚損スル行爲ナリ又言語ト文章ト舉動ト
ハ決シテ問ハサルモノトス

第二項 神宮トハ伊勢ノ國ニ齋キ祭リ奉ツル皇室ノ御先祖ノ宮ナリ皇陵ハ天皇以下
皇太孫ニ至ル御墳墓ハ勿論御歷代ノ方々ノ御墓ヲモ包含ス而シテ之ニ對シテ不敬ノ
所爲アルモ亦同一トス其第一項ノ不敬ノ例示ノ外神宮又ハ皇陵ニ對シ奉リ汚損毀壞
シ又ハ發掘スル等ノ如キ所爲ヲモ云フ

現行刑法第百十七條ニ同シ只第二項ニ神宮ヲ加ヘタルハ不備ヲ補ヒタルニアリ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘ
ントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ皇族ニ對スル危害罪ヲ規定ス

皇族トハ第七十三條ニ示シタル御方々ヲ除キタル以外ノ御方々ヲ奉稱ス而シテ第七
十三條ヨリ一段低ク爲シ危害ヲ加ヘタルトキハ死刑ニ處スルモ其加ヘントシタルト
キハ無期懲役ニ處スルモノトス

現行刑法第百十八條ト同一トス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下
ノ懲役ニ處ス

本條ハ皇族ニ對スル不敬罪ヲ規定ス

本條ハ第七十四條ニ同シ
皇族ノ御墳墓ニ對シテハ別ニ之カ規定ナシ故ニ或ハ無罪ナランカトノ說ヲ爲スモノ
アレトモ皇族ノ御墳墓ニ付テハ別ニ本章中ニ規定セス平人同様第二十四章ニ於テ處
罰スヘキモノトス

第二章 内亂ニ關スル罪

■ 本章ハ内亂ニ關スル罪ヲ定ム

内亂トハ暴動ヲ爲スヲ意味ス其暴動ヲ爲スヤ目的種々アルモ内亂罪トシテ罰スヘキ
モノハ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ爲シタ
ル暴動ナリ

現行刑法第二編第二章ヲ國事ニ關スル罪トシ更ニ之ヲ内亂罪ト外患罪ノ二種ニ分チタ
リ此二種ハ決シテ同一ノ性質ニアラサルヲ以テ改正法ハ之ヲ別個ニ分チタリ元來内
亂ノ罪ハ國家ノ生存ヲ危クスルモノニシテ危險ノ程度極メテ重大ナリト雖モ其犯人
タルヤ敢テ自己ノ私益ノ爲メニ之ヲ企ツルニ非スシテ多クハ公衆ノ利益ヲ目的トシ
テ之ヲ行ハントスルモノナリ故ニ此等ノ犯人ニ對シテ通常ノ犯人ニ科スヘキ懲役ノ
刑ヲ科スルハ罪ノ性質ト刑ノ種類ト相應セスシテ殆ント科刑ノ趣旨ニ反スル嫌アル

ヲ以テ本章ニ於テモ現行法ト同シク禁錮ノ刑ヲ科スルコト、爲シタリ

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコ
トヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從
テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以
上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年
以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ關與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ
處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在
ラス

■ 本條ハ内亂ノ罪ニ付テ分類シ各其刑ヲ規定シタリ

第二編罪 第二章内亂ニ關スル罪

第一項 内亂ノ罪ハ朝憲ヲ紊亂スルコト(一)暴動ヲ爲スコト(二)ノ二條件ヲ具備セサルヘカラス

朝憲ヲ紊亂スルハ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊スルカ如シ之レ一ノ例示トス而シテ政府ノ顛覆ハ政體ノ變更又ハ皇統ノ廢換ノ如キヲ云ヒ邦土ノ僭竊ハ日本領地ノ一部ヲ押領スルカ如キヲ云フ何レモ統治ノ大權ヲ侵犯スルモノナリ朝憲紊亂ハ尙ホ皇嗣ノ順序ヲ變更シ代議制ヲ君主專制ニ變シ現内閣ヲ倒シテ新内閣ヲ組織シ自治制ヲ廢シテ封建制ヲ立ツル等皆包含ス

暴動ヲ爲ストハ戰爭、沸騰、蜂起等苟モ不法ノ舉動ヲ爲スヲ云フ以上ノ二個ノ條件ヲ具備シタル場合ニ於テ本項ノ第一號乃至第三號ノ犯人ヲ罰スルモノトス

第一號ハ首魁ナリ其暴動ノ頭ナリ長官ナリ故ニ極刑ニ處ス

第二號ハ暴動ヲ起スニ付テ謀議ニ參與シ所謂相談ノ相手ト爲リシ者又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ首魁ニ亞ク犯人ナリ而シテ其他ノ諸般ノ職務ニ從事スル者又之ニ亞クモノナレハ順次其刑ヲ低クシタリ

第三號ハ附加隨行ニシテ單ニ暴動ニ加ハリタル兵卒ナリ其他苟モ暴動ニ關與シタル

者ハ其職務ノ如何ヲ問ハス罰ス例ヘハ荷物ヲ運搬スル者炊事ヲ爲スモノ、如シ

第二項 本條ノ罪ハ重シ依テ未遂罪ヲモ罰スヘシ併シナカラ第三號ノ如キハ之ヲ罰セス蓋シ後難ヲ恐レテ雜役ヲ爲スモノモアルヘシ又利益上ヲ目的トシテ關與スルモノモアルヘシ然レトモ皆其舉ニ乘シテ爲スモノナレハ大ニ恕スヘキ點アレハナリ

現行刑法第二百一十一條ト同意味ナリ其内亂ヲ起シタルヲ暴動ヲ爲シト改メタルハ内亂ノ語ハ往々國內ニ於ケル現實ノ戰爭ヲ意味スルヤノ疑アレハ之ヲ避ケ未タ戰爭ニ至ラサル狀況ニ在ルトキト雖モ既ニ暴動ヲ爲ストキハ之ヲ罰スルコトヲ示シタリ

第一號ニ教唆者ヲ除キタルハ總則ニ依リテ罰シ得ヘク第二號ノ樞要ノ職務ヲ改メテ謀議ニ參與シトシテ分明ナラシメタルナリ

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ規定ス

豫備トハ内亂ヲ爲サント準備スルヲ云フ兵隊ヲ召集シ又ハ兵器金穀ヲ準備スル如キハ豫備ナリ

陰謀トハ二人以上相集リテ暴動ヲ爲サント謀議計畫スル外形ノ舉動ナリ

以上二者ハ之ヲ罰セサルヲ原則トス然レトモ内亂ノ罪ノ如キ事情重大ナルモノハ之ヲ不問ニ付スヘカラス故ニ特ニ本條ヲ設ケタリ

現行刑法第二百五條ト同一ニシテ只豫備ノ方法ノ例示ヲ删除シタルノミ

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ内亂ヲ幫助シタル者ヲ罰スル規定トス

兵器金穀ヲ資給シ其他種々ノ行爲ヲ以テ暴動ヲ爲スヲ幫助シ又ハ其豫備若クハ陰謀ヲ幫助シタル者ハ之ヲ罰スルニアリ犯人ニ集會所ヲ貸與スルカ如キモ亦幫助ナリ

現行刑法ノ第二百一十一條第三號ノ一部ト第二百二十七條トヲ併セテ本條ヲ設ケタルモノニシテ現行法ハ其狭キニ失スルヲ以テ之ヲ補修シタリ

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ自首者ニ付テノ規定トス

已ニ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シ又ハ内亂ノ行爲ヲ幫助シタリト雖モ未タ暴動ニ至ラサル以前ニ於テ自首シタルトキハ未タ重大ナラスシテ害ヲ未發ニ防クコトヲ得ルヲ

以テ本條ノ如ク特典ヲ與ヘ刑ヲ免除スルモノトス

第二章 外患ニ關スル罪

本章ハ外患ニ關スル罪ヲ定ム

外患ニ關スル罪トハ國家ノ外部ノ安寧ニ關スル罪ナリ此罪ハ國家ノ存立又ハ獨立ヲ害スルモノナレハ之ヲ國事犯トシ以テ内亂ノ罪ノ次ニ之ヲ置キタリ

現行刑法ハ第二編第二章第二節ニ之ヲ置キタルヲ修正シタルモノニシテ主トシテ戰時ニ於ケル帝國ノ軍事上ノ利益ヲ保護スルコトヲ目的トシタリ

現行法第三百三十三條及ヒ第三百三十四條ハ之ヲ國交ニ關スル罪ニ屬スルヲ以テ同章ニ之ヲ移シ尙ホ危險ノ大ナルヲ以テ未遂ノミナラス豫備及ヒ陰謀ヲモ罰スルコト、爲シタリ

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ日本國ニ敵對スル罪ヲ規定ス

本條ハ左ノ二個ヲ規定ス

一 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル者

二 敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者

是ナリ而シテ其一ハ日本人カ外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ外國ヲシテ戰端ヲ開カシメタルニアリ其自ラ之ニ投シタルトキハ二ノ範圍ニ入ルヘシ又其二ハ日本人ニシテ敵國ニ與シ帝國ニ對シテ抗敵スルニアリ其與ミスルハ合同スルノ義ニシテ身ヲ外國ノ軍隊ニ投スルハ勿論外國軍隊ト盟約シテ共同連合スルニアリ又抗敵ハ對敵ニシテ兵器ヲ執ル義ナリ而シテ其實戰ヲ爲スト否トハ問フ所ニアラス公然兵器ヲ執ツテ日本軍ニ敵對セハ可ナリ

以上ハ日本人トシテ忠君愛國ノ大義ヲ忘却シ帝國ニ背叛スルモノナレハ死刑ニ處スルニアリ

現行刑法第二百二十九條ト同一ニシテ只其同盟國ニ關スル分ハ第八十九條ヲ設ケタルヲ以テ之ヲ刪除シタリ而シテ外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシムル場合ナキヲ以テ之ヲ補ヒタリ

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル者ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ

無期懲役ニ處ス

本條ハ場所物件等ヲ敵國ニ交付スル罪ヲ規定ス

第一項 本項例示スル所ノ軍用ニ供スル場所又ハ建物等即チ軍事上必要ナルモノヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑トス之レ國家ヲ危フスルノ大ナルモノナリ而シテ斯ノ如キ場所又ハ建造物ハ比較上重要ナルモノナレハ單ニ死刑ニ處スルモノトス

第二項 本項例示スル所ノ軍用ニ供スル物ハ第一項ノ物件ヨリ比較上稍輕キモノナルヲ以テ死刑又ハ無期懲役ト爲シ裁判官ヲシテ事實ニ依リテ處分セシム

以上注意スルハ交付ヲ以テ條件トス故ニ此等ノ物件ヲ破壞又ハ傷毀シタル場合ハ次條ニ之ヲ規定ス

現行刑法第三百十條中ノ後段若クハ以下ノ規定ヲ修正シ以テ之ニ二分シタリ而シテ第一項ニ於テ目的物ノ比較的重要ナル場合ヲ規定シ第二項ニ於テハ軍用ニ供スル物ヲ交付シタル場合ヲ規定シタルモノトス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ軍用ノ場所又ハ物品ヲ損壞シタル罪ヲ規定ス

本條ハ敵國ヲ利スル爲メナルコト(一)軍用ノ場所又ハ物ナルコト(二)損壞若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコト(三)ノ三條件ヲ具備セサルヘカラス而シテ要塞以下ハ軍用ニ供スル場所又ハ物ノ例示ニシテ其方法如何ヲ論セス損壞シタルコト若クハ軍用トシテ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコトヲ必要トセリ其者ハ事體重大ナルヲ以テ死刑又ハ無期ノ懲役ニ處ス

現行刑法ニハ本條ノ如キ規定ヲ欠キタリ實際上頻繁ニ生スヘキ罪ナルヲ以テ之ヲ規定ス而シテ陸軍刑法第五十八條海軍刑法第六十一條ノ規定ニ基キ酌量シタリ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ軍用ニ供セサル物ヲ交付シタル場合ヲ規定ス

帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供スヘキ物ヲ敵國ニ交付シタルモノニシテ假令軍用ニ供セサルモノト雖モ敵國ニ交付スルトキハ敵國ハ之ヲ利用スヘシ從テ帝國ノ害トナルモノナレハ懲役ニ處スヘシ

現行刑法ニ於テハ本條モ缺如セリ而シテ刑ハ前條ト比シ稍情ノ輕キヲ以テ死刑ヲ科セサルモノトス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

本條ハ間諜ト爲リ又ハ間諜ヲ助ケ軍情ヲ漏泄スル者ノ罪ヲ規定ス

第一項 敵國ノ爲メニ間諜ト爲リタル内外人又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル内外人ハ國家ノ危害ヲ爲ス重大ナルモノナレハ死刑又ハ懲役ニ處ス

元來間諜トハ公然爲戰者ノ一員トセスシテ敵情ヲ探知スルノ任ニ該ル者ナリ

第二項 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スル者モ亦同一ノ刑ニ處スヘシ之レ其重大ナル事情ハ第一項ニ讓ラサルモノトス

現行刑法第百三十一條ヲ修正シタルモノトス現行法ハ間諜ノ方法及ヒ敵國ノ間諜ヲ幫助スル方法ヲ示シタリト雖モ改正法ハ之ヲ删除シタリ而シテ概括的ノ規定ヲ設ク又軍情機密トアルモ意義稍不明ナルヲ以テ第二項ヲ新タニ設ケ明ラカニ軍事上ノ機密漏泄ノ場合ヲ規定シタリ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

註 本條ハ前五條以下ノ場合ヲ慮カリ規定シタリ

前五箇條ニ於テ夫々場合ヲ規定シタリト雖モ或ハ不備ノ點ナキニシモアラス且又前ニ擧ケタルカ如ク本章ノ罪ハ事體容易ナラサルモノナルヲ以テ本條ノ如ク廣キ規定ヲ設ケ他ノ條文ニ欠ケタル場合ヲ網羅シタルモノナリ

本條ニ依レハ前五箇條ノ外ニ敵國軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ之ニ反シ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ヲ罰ス例ヘハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ビ工作ヲ爲ス者カ敵國ニ之ヲ通シテ敵國ニ利益ヲ與ヘ又ハ敵國ヨリ金錢ヲ受ケテ陸海軍ノ命令ニ背キ以テ軍備ニ缺乏ヲ致シタルカ如キハ恰モ本條ニ適セリ

現行刑法第三百二十二條ノ如キ場合ニシテ尙ホ其以外ニ於テ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ニ害ヲ加フル場合ヲ補ヒタリ已ニ五箇條ニ於テ種々ニ想像シタルモ尙ホ不備ノ點ナキヲ必スヘカラサルヲ以テナリ

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

註 本條ハ未遂罪ノコトヲ規定ス

第八十一條乃至第八十六條ノ各罪ハ事體重大ナレハ未遂罪ヲモ罰スヘキコトヲ明ニカニシタリ

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ豫備又ハ陰謀ヲ規定ス

第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ハ事體重大ナルヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲモ處罰スル必要アルヲ以テ本條ヲ設ケタリ

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

註 本條ハ同盟國ニ對スル場合ヲ規定ス

同盟國ニハ平時ト戰時トアリ本條ニ於テ帝國ニ對スルト同一ニ爲スハ戰時同盟國ナリ本章ノ場合ハ何レモ戰爭中ノ場合ナレハ帝國ト同等ノ地位ニ置クヘキハ戰時同盟國ニ外ナラス

現行刑法第二百二十九條及ヒ第三百三十條ニ同盟國ニ對スル行爲ニ關スル規定ヲ設ケタリシモ改正法ハ之ヲ一括シテ本條ヲ設ケタリ

第四章 國交ニ關スル罪

註 本章ハ國交ニ關スル罪ヲ規定ス

現行刑法ニ於テハ國交ニ關スル罪ヲ設ケサルカ爲メニ往々不備ヲ感シタルコトアリ
是ヲ以テ本章ハ新タニ帝國ニ現在スル外國ノ君主大統領又ハ使節ニ對スル暴行、脅
迫又ハ侮辱及ヒ外國ニ對スル非禮ノ罪ヲ規定シ之ニ現行刑法第三百二十三條及ヒ第百
三十四條ノ規定ヲ加ヘ以テ本章ヲ設ケタリ
抑モ國交ニ關スル罪ヲ設クルニハ立法例ニアリ

一 相互主義

二 單獨主義

是ナリ相互主義ハ外國ノ刑法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケタル場合ニ限リ內國ニ於テモ本
章ノ規定ヲ適用スルモノナリ次ニ單獨主義ハ外國法ニ於テ本章ノ罪ヲ設クルト否ト
ヲ問ハス之ヲ罪ト爲スモノナリ而シテ我國ハ此第二ノ主義ヲ採用シタルモノトス

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅
迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ

三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

註 本條ハ外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル罪ヲ規定ス

第一項 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノ
ハ懲役ニ處ス蓋シ此等ノ貴賓ヲ敬遇スル趣旨ニシテ通常ノ暴行罪ヲ以テセサルモノ
トス

暴行トハ不正ニ腕力ヲ用ユルモノナリ又脅迫トハ人ノ心理上ニ恐怖ノ念ヲ惹起セシ
ムル行爲ナリ何レモ其手段方法ノ如何ヲ問ハス苟モ不正ノ腕力ヲ用ヒタルトキハ暴
行ト云ヒ心理上恐怖ノ念ヲ惹起シタル行爲アルトキハ脅迫ナリトス

第二項 帝國ニ滞在スル外國ノ君主大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者モ亦懲役ニ處ス
蓋シ其理由タル第一項ト同一ニシテ通常ノ侮辱罪ヲ以テセス此等ノ貴賓ヲ敬遇セリ
而シテ侮辱トハ君主 大統領ノ品格又ハ尊嚴ヲ毀損スヘキ不敬ノ行爲ナリ其如何ナ
ル行爲カ侮辱トナルヤハ事實ニ依リテ裁判官ノ認定ニ任シタリ例ヘハ罵詈嘲弄ノ如
キハ侮辱ナリ又其方法ニ於テモ明記セサルヲ以テ或ハ言語ニ或ハ文章ニ或ハ目前ニ
或ハ間接ニ或ハ形容ニ爲ス等致テ區別ナキモノトス
元來侮辱ハ其性質上親告罪ナリ殊ニ外國人ニ對スル場合ニ於テハ其國風ニ依リ慣習

ヲ異ニスルヲ以テ往々我國ノ侮辱トスル所彼國ノ侮辱トナラサルコトアリ故ニ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スル旨ヲ示シタリ而シテ之ヲ告訴トセス請求トシタルハ告訴ニハ一定ノ法式ヲ要ス然ルニ外國政府ニ之ヲ命スルハ其手續ヲ知ラサルカ爲メ却テ困難ヲ感スルコトアリ煩累ヲ來タサシムルニアレハナリ

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ使節ニ對スル暴行脅迫及ヒ侮辱ヲ加ヘタル罪ヲ規定ス

第一項 帝國ニ派遣セラレタル使節即チ大使、公使其他特命ニ依リテ派遣シタル使節ニ對シ暴行又ハ脅迫シタルモノニシテ前條第一項ニ同シ

第二項 帝國ニ派遣セラレタル使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ニシテ前條第二項ニ同シ而シテ請求ハ被害者タル使節ヨリ爲スモノニシテ前條トハ之ヲ異ニス即チ前條ハ主權者ナルヲ以テ政府ヨリ請求セシメ本條ハ一個ノ官吏ナルヲ以テ被害者ヨリ爲シムルニアリトス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓

以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ外國ニ對シテ侮辱シタル罪ヲ規定ス

外國ニ對シテ侮辱スル罪ニシテ其手段ハ其外國ノ國旗其他外國ノ國章ヲ損壞シ又ハ除却シ又ハ汚穢シタルモノハ本條ニ依リテ罰スルニアリ如斯列記ノ所爲ハ外國ニ對シテ侮辱スルノ行爲ナリ然レトモ必ラス例示ノ行爲ヲ以テ直チニ侮辱シタルモノトハ認メス必ラスヤ侮辱ヲ加フルノ目的ナラサルヘカラス或ハ誤テ除却シ又ハ汚穢スルコトアルヘシ

茲ヲ以テ侮辱罪ノ性質トシテ親告ヲ要スルヲ以テ本條モ亦前二條ト同シク外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ私ニ戰鬪ヲ爲ス場合ヲ規定ス

本條ヲ以テ罰スヘキ場合ハ外國ニ對スルコト(一)私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ナルコト(二)豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルコト(三)是ナリ

元來戰鬪ヲ爲スハ憲法上ノ大權ニシテ漫リニ私ニ爲スコトヲ許サ、ルモノナリ然ルニ私カニ外國ニ對シテ之ヲ爲サントス決シテ不問ニ付スヘカラス其未タ著手セサル場合ト雖モ本刑ヲ科スルニアリトス

而シテ自首シタルトキハ害ヲ未發ニ防ク利アルヲ以テ其刑ヲ免除スルモノトス

現行刑法第三百三十三條ヲ修正シタルモノトス現行法ハ戰端ヲ開クトアルヲ以テ戰鬪ヲ爲スト改メタリ之レ戰端ハ即チ戰争ヲ開始スルノ義ニシテ戰争ナル用語ヲ實際ニ適用スルニ付テハ疑ナキ能ハス寧ロ戰鬪ト爲シ對手ノ一私人タル場合ニ廣ク適用スルコトヲ便宜トス

又現行法ハ豫備ニ止マルモ陰謀ヲモ必要ト認メタリ故ニ之ヲ加ヘリ

第九十四條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ

三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ局外中立ノ命令ニ背キタルモノヲ罰スル規定トス

外國互ヒニ交戰セシトキハ帝國ハ局外中立ヲ布告スルコトアリ故ニ帝國臣民ハ此布告ヲ遵奉セサルヘカラス若シモ之ニ違背シタリトセンカ國際上ノ交渉ヲ惹起シ遂ニ兩國不和ノ基ヲ爲ス之レ本條アル所以ナリ彼ノ局外中立ノ公布アルニモ拘ラス交戰國ノ一方ヘ兵器彈藥船舶等ヲ送リタルカ如キ又ハ糧食若クハ石炭ヲ給與シタルカ如キハ實ニ中立公布ノ違反トス

現行刑法第三百三十四條ト同一トス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

本章ハ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ヲ規定ス

官吏・公吏又ハ法令ニ依リ公務ニ従事スル人々ノ爲ス職務ニ對シ之ヲ妨害スルハ實ニ公權ヲ蔑視スルモノナリ故ニ本章ヲ規定シタリ

現行刑法第二編第三章第二節及ヒ第八節ノ規定ヲ併シテ本章ヲ設ケタリ而シテ其第二節ハ唯官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ニ付テノミ其規定ヲ設クルヲ以テ其保護ノ範圍極メテ狭ク其他公吏議員ニ關シテハ特別法アリ又議會並ニ議員ノ保護ニ關シテハ明治二十二年法律第二十八號アリト雖モ未タ一般ニ公務ノ執行ヲ保護スル法ナキヲ以テ改正法ハ廣ク公務員ノ職務執行ノ安全及ヒ公務員又ハ公務所ノ尊嚴ヲ保護スル目

的ヲ以テ不備ヲ補ヒタリ

又其第八節ニ於テ封印破棄罪ヲ認ムト雖モ是亦單ニ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ一種ニ過キサルヲ以テ之ヲ本章ニ加フルコト、爲シタリ而シテ現行刑法第七十五條ヲ刪除シタルハ本編第三十五章財産ニ對スル罪ノ中ニ其規定ヲ設ケタルニ之レ因ル又第七十六條ハ不必要ナルヲ以テ之ヲ刪除シタリ

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

本條ハ公務員ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘテ執行ヲ妨害スル罪ヲ規定ス

第一項 公務員カ其職務ヲ法令ニ依リテ執行スルニ當リ公務員ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ナリ而シテ必ラスヤ其公務員カ執行スルハ自己ノ職權内ニ依リテ爲サレタルモノナラサルヘカラス自己ノ權限外ノコトヲ行フタルトキニ於テ他人ヨリ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルトキハ之レ普通ノ暴行又ハ脅迫ニシテ決シテ加重シタル重キ罰ヲ加フルニ足ラサルナリ

例ハ豫審判事カ家宅搜索ヲ行ヒ巡查カ犯人ヲ捕ヘ執達吏カ強制執行ノ爲メ財産ヲ差押ヘタルカ如キ場合ニ對シテ之カ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノナラサルヘカラス而シテ暴行トハ不正ノ腕力ヲ用ヒ脅迫トハ人ノ心裡上ニ恐怖ノ念ヲ惹起セシムヘキ行爲ヲ云フ故ニ例ヘハ執達吏カ財産ヲ差押ヘントスルニ當リ腕力ヲ用ヒテ突キ倒シ差押ヲ爲サシメサルトキノ如キ稅務官カ貼用印紙ヲ檢査スルカ爲メ帳簿ヲ調ヘントスルニ當リ刀ヲ振りテ之ヲ傷ケントシタルカ如キ類ナリ

第二項 公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其公務員タル職務ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者モ亦第一項ト同罪トス

現行刑法第三十九條ヲ修正シタルモノナリ而シテ官吏ニ關スル規定ヲ改メ廣ク公務員ニ關スルモノト爲シタル外ハ其趣旨同一トス唯職務執行ノ原因ハ之ヲ刪除シタルノミ又第二項ハ明治二十二年法律第二十八號第四條ノ規定ヲ修正補充シタル者ニシテ同條ハ議員ヲシテ辭職セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ノ規定ナルヲ以テ之ヲ修正シ廣ク公務員ニ關スル概括ノ規定ト爲シタリ

判決例

苟モ官吏カ其職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ執行ヲ妨害セハ官吏ニ抗拒シタ

ルモノニシテ法律ハ被執行者ト被執行者ニ非サルモノトヲ區別セス(二八、一二、二) 暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタルトキハ利害關係ノ有無ニ係ラス官吏抗拒罪ヲ構成ス(三二、五、九)

犯罪嫌疑ノ爲メ職務ヲ以テ逮捕セントスル巡査ニ對シ抗拒シタル所爲ハ眞ノ犯罪者タルト否トヲ問ハス官吏抗拒罪ヲ構成ス(三二、一〇、二〇)

官吏抗拒罪ノ主體タルニハ被執行者タルト否トヲ區別セス(三三、三、二)

執達吏代理ハ執達吏ノ特別委任ニ基キ差押命令ヲ執行スルモノニシテ官吏ノ身分ヲ有スルモノニアラス之ヲ毆打スルモ刑法第三百九條第一項ヲ適用シ處斷スヘカラス(三六、二、二)

巡査カ現行犯ト認メタルハ誤リナリトスルモ其當時眞ニ現行犯ナリト信シ引致セントシタル場合ハ其引致手續ハ職務上ノ執行タルコトヲ妨ケス(三六、六、一)

刑法第三百九條ハ官吏ノ身體ニ對シ直接ニ之ヲ加フルコトヲ要セス苟モ職務ヲ執行スルニ當リ暴行ヲ以テ之ニ抗拒シタルトキハ直接ト間接トニ論ナク構成ス(三七、七、五)

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其

他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

■ 本條ハ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ無効ナラシメタル者ノ規定トス

公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ハ執達吏カ財産ヲ差押ヘタルトキ之ヲ爲シ又ハ稅務官カ帳簿ニ封印ヲ施シ市町村吏カ税金息納處分上財産ニ封印ヲ施ス等其他場合甚タ多シ此場合ニ於テ其封印又ハ標示ヲ損壞シ又ハ損壞セストモ他ノ方法ニ依リテ之ヲ無効ナラシメタルモノハ所謂公務上ノ處分ヲ蔑視シ尊嚴ヲ傷ケ公務ヲ妨クルニ外ナラス依テ之ヲ處斷スルニアリ

現行刑法第七十四條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ封印ヲ破棄シタル場合ノミヲ規定スレトモ改正法ハ之ヲ擴張シ損壞スル場合ハ勿論無効ナラシメタル場合ニモ適用シタリ而シテ同條第二項ハ不必要ニ付キ之ヲ删除セリ

判決例

收稅官吏カ容器ニ施シタル封印ヲ破棄シ在中ノ物品ヲ取出シ他ニ移シタル所爲ハ封印破棄ト差押物件藏匿ノ二罪トス(三五、九、一九)

執達吏代理ハ官吏ニアラサルモ差押其他執達吏ノ取扱フヘキ一切ノ手續ヲ行フノ權